

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
VM3MIC05 声楽実技研究V	常森 寿子・桑原 理恵 他	クラス分け	2単位	音楽学科 3年次	前期	※				ABCDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
楽曲のレパートリーを増やし、歌唱技術・言葉の発音や表現法をさらに向上させ、各自に応じた楽曲を構成力を伴った演奏表現ができる。*実技試験は6分以上8分以内の演奏。曲数、楽曲の種類は問わない。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	各自の課題確認と目標設定	シラバスを読み授業の概要を確認する	学修計画を立てる	9	各自課題曲14(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する		
	2	各自課題曲13(発声法・呼吸法)	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する	10	各自課題曲15(発声法・呼吸法)	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する		
	3	各自課題曲13(発音・言葉と旋律)	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する	11	各自課題曲15(発音・言葉と旋律)	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する		
	4	各自課題曲13(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する	12	各自課題曲15(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する		
授業の概要										
声楽実技研究I～IVで習得した歌唱技術をより確かなものとするとともに、楽曲のレパートリーを広げていく。楽曲の構成についても研究する。	5	各自課題曲13(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する	13	各自課題曲15(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する		
	6	各自課題曲14(発声法・呼吸法)	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する	14	実技試験に向けたまとめ1(歌詞や内容の理解・作品考察)	作品の内容について考察する	作品の内容を理解しどう表現したいかをまとめる		
	7	各自課題曲14(発音・言葉と旋律)	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する	15	実技試験に向けたまとめ2(伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる)	伴奏者と共に歌唱練習を行う	伴奏を含めてどう表現したいかをまとめる		
	8	各自課題曲14(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する	備考 ※声楽コース必修					
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定		成績 評価 基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等				実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
VM3MIC06 声楽実技研究VI	常森 寿子・桑原 理恵 他	クラス分け	2単位	音楽学科 3年次	後期	※				ABCDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
楽曲のレパートリーを増やし、歌唱技術・言葉の発音や表現法をさらに向上させ、各自に応じた楽曲の内容が伝わる演奏表現ができる。*実技試験は6分以上8分以内の演奏。曲数、楽曲の種類は問わない。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	各自の課題確認と目標設定	シラバスを読み授業の概要を確認する	学修計画を立てる	9	各自課題曲17(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する		
	2	各自課題曲16(発声法・呼吸法)	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する	10	各自課題曲18(発声法・呼吸法)	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する		
	3	各自課題曲16(発音・言葉と旋律)	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する	11	各自課題曲18(発音・言葉と旋律)	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する		
	4	各自課題曲16(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する	12	各自課題曲18(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する		
授業の概要										
声楽実技研究I～Vで習得した歌唱技術をより確かなものとするとともに、楽曲のレパートリーを広げていく。伝わる表現の仕方についても研究する。	5	各自課題曲16(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する	13	各自課題曲18(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する		
	6	各自課題曲17(発声法・呼吸法)	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する	14	実技試験に向けたまとめ1(歌詞や内容の理解・作品考察)	作品の内容について考察する	作品の内容を理解しどう表現したいかをまとめる		
	7	各自課題曲17(発音・言葉と旋律)	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する	15	実技試験に向けたまとめ2(伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる)	伴奏者と共に歌唱練習を行う	伴奏を含めてどう表現したいかをまとめる		
	8	各自課題曲17(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する	備考 ※声楽コース必修					
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定		成績 評価 基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等				実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
VM3MIC07 声楽実技研究Ⅶ	常森 寿子・桑原 理恵 他	クラス分け	2単位	音楽学科 4年次	前期	※				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
各自の特性を活かすことのできる楽曲のレパートリーを増やし、歌唱技術・演奏表現を深め、各自に応じた楽曲を表現豊かに演奏できる。*実技試験(学内演奏会)は6分以上8分以内の演奏。曲数、楽曲の種類は問わない。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	各自の課題確認と目標設定	シラバスを読み授業の概要を確認する	学修計画を立てる	9	各自課題曲2 0 (仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する		
	2	各自課題曲1 9 (発声法・呼吸法)	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する	10	各自課題曲2 1 (発声法・呼吸法)	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する		
	3	各自課題曲1 9 (発音・言葉と旋律)	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する	11	各自課題曲2 1 (発音・言葉と旋律)	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する		
	4	各自課題曲1 9 (歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する	12	各自課題曲2 1 (歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する		
授業の概要										
各自の個性・声を知り、声に合ったレパートリーをつくる。声楽実技研究Ⅰ～Ⅵで習得した歌唱技術をさらに高め、楽曲のレパートリーを広げていく。学内演奏会でのプログラミングや演奏マナーについて学ぶ。	5	各自課題曲1 9 (仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する	13	各自課題曲2 1 (仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する		
	6	各自課題曲2 0 (発声法・呼吸法)	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する	14	実技試験に向けたまとめ1 (歌詞や内容の理解・作品考察)	作品の内容について考察する	作品の内容を理解しよう表現したいかをまとめる		
	7	各自課題曲2 0 (発音・言葉と旋律)	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する	15	実技試験に向けたまとめ2 (伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる)	伴奏者と共に歌唱練習を行う	伴奏を含めてどう表現したいかをまとめる		
	8	各自課題曲2 0 (歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する	備考 ※声楽コース必修					
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等				実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
VM3MIC08 声楽実技研究Ⅷ	常森 寿子・桑原 理恵 他	クラス分け	2単位	音楽学科 4年次	後期	※				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
各自の特性を活かすことのできる楽曲のレパートリーを増やし、歌唱技術・演奏表現をさらに深め、各自に応じた楽曲を表現豊かに演奏できる。*実技試験は6分以上8分以内の演奏。曲数・楽曲の種類は問わないが、日本歌曲を必ず含むこと。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	各自の課題確認と目標設定	シラバスを読み授業の概要を確認する	学修計画を立てる	9	各自課題曲2 3 (仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する		
	2	各自課題曲2 2 (発声法・呼吸法)	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する	10	各自課題曲2 4 (発声法・呼吸法)	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する		
	3	各自課題曲2 2 (発音・言葉と旋律)	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する	11	各自課題曲2 4 (発音・言葉と旋律)	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する		
	4	各自課題曲2 2 (歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する	12	各自課題曲2 4 (歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する		
授業の概要										
各自の個性・声を知り、声に合ったレパートリーをつくる。声楽実技研究Ⅰ～Ⅶで習得した歌唱技術をさらに高め、日本語を含む楽曲のレパートリーを広げていく。	5	各自課題曲2 2 (仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する	13	各自課題曲2 4 (仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する		
	6	各自課題曲2 3 (発声法・呼吸法)	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する	14	実技試験に向けたまとめ1 (歌詞や内容の理解・作品考察)	作品の内容について考察する	作品の内容を理解しよう表現したいかをまとめる		
	7	各自課題曲2 3 (発音・言葉と旋律)	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する	15	実技試験に向けたまとめ2 (伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる)	伴奏者と共に歌唱練習を行う	伴奏を含めてどう表現したいかをまとめる		
	8	各自課題曲2 3 (歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する	備考 ※声楽コース必修					
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等				実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
PS3MIC13 器楽実技研究Ⅴ (ピアノ)	松崎 伶子・川口 みさき 他	クラス分け	2単位	音楽学科 3年次	前期	必修				ABCDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
練習曲というジャンルを通して多くの作曲家に触れ、ピアノ技術の新しい視野を開くことを目標とする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	Semesterの授業計画を立てる	レッスンまでに1曲完成させておく	指示された事柄について練習を進める	9	課題曲を分析する③ 奏法・音色を中心に学修する	運指および奏法の予習	奏法の掘り下げ		
	2	ロマン派から近現代の練習曲について学ぶ	ロマン派の練習曲にはどのような曲があるのか調べる	後期ロマン派の時代背景を知る	10	課題曲を分析する④ 表現法を中心に学修する	楽譜をよく見て強弱をつける	技術の徹底		
	3	読譜と分析① ロマン派の時代背景を中心に学修する	読譜の徹底	技術の向上を目指す	11	課題曲を分析する⑤ 音色を中心に学修する	作曲家に即した音色作り	音色の追求		
	4	読譜と分析② ロマン派の様式を中心に学修する	和声感を身に着ける	奏法の追求	12	課題曲の完成度を高める① 楽曲全体の構成を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める		
授業の概要										
高度な技術を目指して、難易度の高い練習曲を習得する。特に、ロマン派以降の練習曲に取り組む。	5	課題曲の構成 奏法を中心に学修する	課題曲の時代背景を調べる	指示された事柄について練習を進める	13	課題曲の完成度を高める② 楽曲全体の音色を中心に学修する	音色の追求	楽曲全体の音の調和		
	6	課題曲の読譜 形式を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	楽曲分析	14	課題曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫して練習	指示された事柄について練習を進める		
	7	課題曲を分析する① 奏法を中心に学修する	奏法の追求	指示された事柄について練習を進める	15	総括	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める		
	8	課題曲を分析する② 和声を中心に学修する	和声を調べる	転調を意識して練習	備考 ※ピアノコース必修					
教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					実技試験は複数の教員で採点し評価する	100%	課題曲の完成度			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
PS3MIC14 器楽実技研究Ⅵ (ピアノ)	松崎 伶子・川口 みさき 他	クラス分け	2単位	音楽学科 3年次	後期	必修				ABCDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
楽曲の様式を理解しながら、深い内容と確かな技術および表現力を養うことを目標とする。技能と知識、態度を兼ね備えられている。古典派、ロマン派の音楽と比較しながら、近・現代の音楽を把握できる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	Semesterの学習計画を立てる 近・現代の作曲家について学ぶ	レッスンまでに1曲完成させておく	指示された事柄について練習を進める	9	課題曲を分析する③ 奏法・音色を中心に学修する	運指および奏法の予習	奏法の掘り下げ		
	2	近・現代の作品について① 近・現代の作品を聴く	近・現代の作品を聴く	近・現代の時代背景を復習する	10	課題曲を分析する④ 表現法を中心に学修する	楽譜をよく見て強弱をつける	読譜の徹底		
	3	近・現代の作品について② 楽曲を決め読譜と分析を行う	指示された内容まで到達するよう練習する	近・現代の音階を考えて練習	11	課題曲を分析する⑤ 音色を中心に学修する	作曲家に即した音色作り	音色の追求		
	4	課題曲の構成① 和声を中心に学修する	和声感を身に着ける	奏法の追求	12	課題曲の完成度を高める① 楽曲全体の構成を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める		
授業の概要										
学修に対する情熱と意欲を持ち作品に取り組む。近・現代の楽曲を通してその特徴を理解し、感性豊かな音楽作りを目指す。	5	課題曲の構成② 時代背景・様式を中心に学修する	課題曲の様式を調べる	指示された事柄について練習を進める	13	課題曲の完成度を高める② 楽曲全体の音色を中心に学修する	音色の追求	楽曲全体の音の調和		
	6	課題曲の読譜 形式を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	楽曲分析	14	課題曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫して練習	指示された事柄について練習を進める		
	7	課題曲を分析する① 奏法を中心に学修する	近・現代の奏法を作曲家に即して練習	指示された事柄について練習を進める	15	総括	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める		
	8	課題曲を分析する② 和声を中心に学修する	和声を調べる	和声を意識して練習	備考 ※ピアノコース必修					
教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					実技試験は複数の教員で採点し評価する	100%	課題曲の完成度			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
PS3MIC15 器楽実技研究Ⅶ(ピアノ)	松崎 伶子・川口 みさき 他	クラス分け	2単位	音楽学科 4年次	前期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
学内演奏(公開)を経験することにより、演奏技術を更に向上させる。演奏家・教育者・ピアノ指導者として、卒業後、活動可能となる素養を身に付けることを目標とする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	4年次の研究テーマを決める① 研究内容についての時代背景を学ぶ	テーマを探す	指示された事柄について練習を進める	9	音楽的表現の追求② 強弱を中心に学修する	運指および奏法の予習	奏法の掘り下げ		
	2	4年次の研究テーマを決める② 研究内容についての様式を中心に学ぶ	テーマとなる作品を聴く	時代背景・様式を復習する	10	音楽的表現の追求③ 和声を中心に学修する	楽譜をよく見て強弱をつける	読譜の徹底		
	3	楽曲の読譜と分析① 形式を中心に学修する	読譜を中心とする練習	形式を調べる	11	音楽的表現の追求④ 音色を中心に学修する	作曲家に即した音色作り	音色の追求		
	4	楽曲の読譜と分析② 和声を中心に学修する	和声感を身に着ける	奏法の追求	12	課題曲の完成度を高める① 楽曲全体の構成を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める		
授業の概要	5	研究テーマ曲の読譜 時代背景・様式を中心に学修する	課題曲の様式を調べる	指示された事柄について練習を進める	13	課題曲の完成度を高める② 楽曲全体の音色を中心に学修する	音色の追求	楽曲全体の音の調和		
	6	研究テーマ曲の分析① 形式を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	楽曲分析	14	公開演奏の心構えと準備・ホールの響きを踏まえた表現法	表現法を工夫して練習	指示された事柄について練習を進める		
	7	研究テーマ曲の分析② 奏法を中心に学修する	近・現代の奏法を作曲家に即して練習	指示された事柄について練習を進める	15	公開演奏の心構えと準備・総括	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める		
	8	音楽的表現の追求① 和声を中心に学修する	和声を調べる	和声を意識して練習	備考 ※ピアノコース必修					
教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					実技試験は複数の教員で採点し評価する	100%	課題曲の完成度			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
PS3MIC16 器楽実技研究Ⅷ(ピアノ)	松崎 伶子・川口 みさき 他	クラス分け	2単位	音楽学科 4年次	後期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
卒業試験(公開)を経験することにより、演奏技術を更に向上させる。演奏家・教育者・ピアノ指導者として、卒業後、活動可能となる素養を身に付けることを目標とする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	研究テーマの楽曲を学ぶ① 研究内容についての時代背景を学ぶ	テーマの楽曲について調べる	指示された事柄について練習を進める	9	音楽的表現の追求② 強弱を中心に学修する	運指および奏法の予習	奏法の掘り下げ		
	2	研究テーマの楽曲を学ぶ② 研究内容についての様式を中心に学ぶ	テーマとなる作品を聴く	時代背景・様式を復習する	10	音楽的表現の追求③ 和声を中心に学修する	楽譜をよく見て強弱をつける	読譜の徹底		
	3	楽曲の読譜と分析① 形式を中心に学修する	読譜を中心とする練習	形式を調べる	11	音楽的表現の追求④ 音色を中心に学修する	作曲家に即した音色作り	音色の追求		
	4	楽曲の読譜と分析② 和声を中心に学修する	和声感を身に着ける	奏法の追求	12	課題曲の完成度を高める① 楽曲全体の構成を中心に	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める		
授業の概要	5	研究テーマ曲の読譜 時代背景・様式を中心に学修する	課題曲の様式を調べる	指示された事柄について練習を進める	13	課題曲の完成度を高める② 楽曲全体の音色を中心に	音色の追求	楽曲全体の音の調和		
	6	研究テーマ曲の分析① 形式を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	楽曲分析	14	公開演奏の心構えと準備・ホールの響きを踏まえた表現法	表現法を工夫して練習	指示された事柄について練習を進める		
	7	研究テーマ曲の分析② 奏法を中心に学修する	近・現代の奏法を作曲家に即して練習	指示された事柄について練習を進める	15	公開演奏の心構えと準備・総括	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める		
	8	音楽的表現の追求① 和声を中心に学修する	和声を調べる	和声を意識して練習	備考 ※ピアノコース必修					
教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					実技試験は複数の教員で採点し評価する	100%	課題曲の完成度			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
PS3MIC13 器楽実技研究V(管弦打)	馬込 勇・柏尾 剛徳 他	クラス分け	2単位	音楽学科 3年次	前期	必修				ABDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
3年次は応用力・実践力を試す中で、対外的な演奏やコンクール等に積極的に挑戦し、スキルアップを目指し、今までやってきたことを確信へと変えることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	前期の学習計画および内容の確認 他	事前に考えておく	学修内容の確認と復習	9	エチュードおよびソロ曲⑦(エチュード課題後、ソロ曲のその他音楽表現法他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
	2	実技試験用ソロ曲の選定	候補曲を考えておく	学修内容の確認と復習	10	エチュードおよびソロ曲⑧(エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
	3	エチュードおよびソロ曲①(エチュード課題後、ソロ曲の粗通し・音やtempoの確認)	研究および練習	学修内容の確認と復習	11	エチュードおよびソロ曲⑨(エチュード課題後、ソロ曲の更なる表現への工夫他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
	4	エチュードおよびソロ曲②(エチュード課題後、ソロ曲の流れについての確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	12	エチュードおよびソロ曲⑩(エチュード課題後、ソロ曲を伴奏無しで通した上で、流れの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
授業の概要	5	エチュードおよびソロ曲③(エチュード課題後、ソロ曲のダイナミクスの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	13	ソロ曲と伴奏合わせ①(粗通しをし、流れと音楽的表現の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	事前に伴奏合わせをしておく	反省を基に伴奏合わせをする		
3年次は1・2年次に身に付けた基礎力を基に、応用・実践という段階に入る。エチュード(オーケストラスタディ含)の種類も増やし、難易度を上げていく。	6	エチュードおよびソロ曲④(エチュード課題後、ソロ曲のアーティキュレーション等の確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	14	ソロ曲と伴奏合わせ②(ピアニストとのバランス、縦の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前のレッスンでの課題を修正する	反省を基に伴奏合わせをする		
	7	エチュードおよびソロ曲⑤(エチュード課題後、ソロ曲のテンポや拍子の変化の確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	15	ソロ曲と伴奏合わせ③(実技試験を想定した通し、ミスをした箇所の確認と対処法 他※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前回の内容に加え、更に音楽性自体も高める	実技試験の総括と反省		
	8	エチュードおよびソロ曲⑥(エチュード課題後、ソロ曲のアゴーギク等の研究 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	備考 ※管弦打楽コース必修					
教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定するものとする			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					前期実技試験	100%	演奏内容(表現力・ビッチ・テンポ感等)			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
PS3MIC14 器楽実技研究VI(管弦打)	馬込 勇・柏尾 剛徳 他	クラス分け	2単位	音楽学科 3年次	後期	必修				ABDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
3年次は応用力・実践力を試す中で、対外的な演奏やコンクール等に積極的に挑戦し、スキルアップを目指し、今までやってきたことを確信へと変化させ、更に初見能力や、音楽に対するあらゆる適応力を身に付けることができるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	前期の反省と後期の展望について 他	前期の反省と後期の展望を考えておく	学修内容の確認と復習	9	エチュードおよびソロ曲⑦(エチュード課題後、ソロ曲のその他音楽表現法他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
	2	実技試験用ソロ曲の選定	候補曲を考えておく	学修内容の確認と復習	10	エチュードおよびソロ曲⑧(エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
	3	エチュードおよびソロ曲①(エチュード課題後、ソロ曲の粗通し・音やtempoの確認)	研究および練習	学修内容の確認と復習	11	エチュードおよびソロ曲⑨(エチュード課題後、ソロ曲の更なる表現への工夫他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
	4	エチュードおよびソロ曲②(エチュード課題後、ソロ曲の流れについての確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	12	エチュードおよびソロ曲⑩(エチュード課題後、ソロ曲を伴奏無しで通した上で、流れの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
授業の概要	5	エチュードおよびソロ曲③(エチュード課題後、ソロ曲のダイナミクスの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	13	ソロ曲と伴奏合わせ①(粗通しをし、流れと音楽的表現の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	事前に伴奏合わせをしておく	反省を基に伴奏合わせをする		
3年次は1・2年次に身に付けた基礎力を基に、応用・実践という段階に入る。エチュード(オーケストラスタディ含)の種類も増やし、難易度を上げていく。同時にソロ曲を複数挑むことも視野に入る。	6	エチュードおよびソロ曲④(エチュード課題後、ソロ曲のアーティキュレーション等の確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	14	ソロ曲と伴奏合わせ②(ピアニストとのバランス、縦の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前のレッスンでの課題を修正する	反省を基に伴奏合わせをする		
	7	エチュードおよびソロ曲⑤(エチュード課題後、ソロ曲のテンポや拍子の変化の確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	15	ソロ曲と伴奏合わせ③(実技試験を想定した通し、ミスをした箇所の確認と対処法 他※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前回の内容に加え、更に音楽性自体も高める	実技試験の総括と反省		
	8	エチュードおよびソロ曲⑥(エチュード課題後、ソロ曲のアゴーギク等の研究 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	備考 ※管弦打楽コース必修					
教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定するものとする			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					後期実技試験	100%	演奏内容(表現力・ビッチ・テンポ感等)			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
PS3MIC15 器楽実技研究Ⅶ(管弦打)	馬込 勇・柏尾 剛徳 他	クラス分け	2単位	音楽学科 4年次	前期	必修				ABDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
4年次前期は、実技試験も「学内演奏会」という公開試験となるので、まさに集大成としてこれまで学修したことを存分に発揮することが求められる。高いところに目標を定め、挑戦し続けるという積極性と精神を養うことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	前期の学習計画および内容の確認 他	事前に考えておく	学修内容の確認と復習	9	エチュードおよびソロ曲⑦(エチュード課題後、ソロ曲のその他音楽表現法他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
	2	学内演奏会(前期実技試験)用ソロ曲の選定	候補曲を考えておく	学修内容の確認と復習	10	エチュードおよびソロ曲⑧(エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
	3	エチュードおよびソロ曲①(エチュード課題後、ソロ曲の粗通し・音やtempoの確認)	研究および練習	学修内容の確認と復習	11	エチュードおよびソロ曲⑨(エチュード課題後、ソロ曲の更なる表現への工夫他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
	4	エチュードおよびソロ曲②(エチュード課題後、ソロ曲の流れについての確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	12	エチュードおよびソロ曲⑩(エチュード課題後、ソロ曲を伴奏無しで通した上で、流れの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
授業の概要	5	エチュードおよびソロ曲③(エチュード課題後、ソロ曲のダイナミクスの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	13	ソロ曲と伴奏合わせ①(粗通しをし、流れと音楽的表現の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	事前に伴奏合わせをしておく	反省を基に伴奏合わせをする		
4年次は1・2・3年次で身に付けたことの集大成となる。従って、プロの演奏家としての心構えや、演奏レベル、独創性等、あらゆる分野にもまたがり、社会に出る準備をするためのレッスンを行う。	6	エチュードおよびソロ曲④(エチュード課題後、ソロ曲のアーティキュレーション等の確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	14	ソロ曲と伴奏合わせ②(ピアニストとのバランス、縦の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前のレッスンでの課題を修正する	反省を基に伴奏合わせをする		
	7	エチュードおよびソロ曲⑤(エチュード課題後、ソロ曲のテンポや拍子の変化の確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	15	ソロ曲と伴奏合わせ③(学内演奏会を想定した通し、ミスをした箇所の確認と対処法 他※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前回の内容に加え、更に音楽性自体も高める	学内演奏会の総括と反省		
	8	エチュードおよびソロ曲⑥(エチュード課題後、ソロ曲のアゴーギク等の研究 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	備考 ※管弦打楽コース必修					
教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定するものとする			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					前期実技試験/学内演奏会	100%	演奏内容(表現力・ビッチ・テンポ感等)			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
PS3MIC16 器楽実技研究Ⅶ(管弦打)	馬込 勇・柏尾 剛徳 他	クラス分け	2単位	音楽学科 4年次	後期	必修				ABDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
4年次後期の実技試験は「卒業試験」として公開試験となる。成績上位者はさらに「卒業演奏会」に出演することとなる。前期同様、まさに集大成としてこれまで学修したことを存分に発揮することが求められる。高いところに目標を定め、挑戦し続けるという積極性と精神を養うことができるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	前期の反省と後期の計画について 他	前期の反省と後期の目標を考えておく	学修内容の確認と復習	9	エチュードおよびソロ曲⑦(エチュード課題後、ソロ曲のその他音楽表現法他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
	2	実技試験用ソロ曲の選定	候補曲を考えておく	学修内容の確認と復習	10	エチュードおよびソロ曲⑧(エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
	3	エチュードおよびソロ曲①(エチュード課題後、ソロ曲の粗通し・音やtempoの確認)	研究および練習	学修内容の確認と復習	11	エチュードおよびソロ曲⑨(エチュード課題後、ソロ曲の更なる表現への工夫他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
	4	エチュードおよびソロ曲②(エチュード課題後、ソロ曲の流れについての確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	12	エチュードおよびソロ曲⑩(エチュード課題後、ソロ曲を伴奏無しで通した上で、流れの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
授業の概要	5	エチュードおよびソロ曲③(エチュード課題後、ソロ曲のダイナミクスの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	13	ソロ曲と伴奏合わせ①(粗通しをし、流れと音楽的表現の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	事前に伴奏合わせをしておく	反省を基に伴奏合わせをする		
4年次は1・2・3年次で身に付けたことの集大成となる。従って、プロの演奏家としての心構えや、演奏レベル、独創性等、あらゆる分野にもまたがり、社会に出る準備をするためのレッスンを行う。後期は卒業に向けての総仕上げとなるので、妥協を許さない内容となる。	6	エチュードおよびソロ曲④(エチュード課題後、ソロ曲のアーティキュレーション等の確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	14	ソロ曲と伴奏合わせ②(ピアニストとのバランス、縦の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前のレッスンでの課題を修正する	反省を基に伴奏合わせをする		
	7	エチュードおよびソロ曲⑤(エチュード課題後、ソロ曲のテンポや拍子の変化の確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	15	ソロ曲と伴奏合わせ③(卒業試験を想定した通し、ミスをした箇所の確認と対処法 他※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前回の内容に加え、更に音楽性自体も高める	卒業試験の総括と反省		
	8	エチュードおよびソロ曲⑥(エチュード課題後、ソロ曲のアゴーギク等の研究 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	備考 ※管弦打楽コース必修					
教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定するものとする			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					後期実技試験(公開)	100%	演奏内容(表現力・ビッチ・テンポ感等)			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
創作応用演習Ⅴ(作曲)	出田 敬三 他	複数	2単位	音楽学科 3年次	前期	※				ABCDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
作曲・編曲の全般に必要な確かな知識と技術をさらに主体的に習得し、幅広いジャンルの音楽をマスターする。 豊かな感性と創造性を作曲と編曲を通じて表現し、創作を通じて自己表現をし、コミュニケーションを行う。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	創作応用演習Ⅴの学修課題内容の説明。課題の目標と取り組み方について。	自作品の創作。 創作応用演習Ⅳ全般の復習	課題の練習、演習、鑑賞。	9	楽曲アナリーゼ(室内楽曲) アイネクライネナハトムジーク	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ他	課題復習		
	2	伴奏付け・即興演奏・和声実習(近親転調終止形による調の判定)	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ他	課題復習	10	楽曲アナリーゼ(室内楽曲) アイネクライネナハトムジーク	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ他	課題復習		
	3	伴奏付け・即興演奏・和声実習(近親転調バス課題)	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ他	課題復習	11	自作曲・自編曲のレッスン、記譜について①構成とフレーズについて	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ他	課題復習		
	4	伴奏付け・即興演奏・和声実習(ソプラノ近親転調の定型)	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ他	課題復習	12	自作曲のレッスン、記譜について②ダイナミクスとアーティキュレーションについて	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ他	課題復習		
授業の概要	5	伴奏付け・即興演奏・和声実習(ソプラノ近親転調の実習)	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ他	課題復習	13	自作曲のレッスン、記譜について③楽譜の仕上げ	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ他	課題復習		
	6	楽曲アナリーゼ(ピアノ曲) ブルグミュラー25の練習曲(牧歌)	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ他	課題復習	14	自作曲のレッスン、記譜について④演奏によるまとめ	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ他	課題復習		
	7	楽曲アナリーゼ(ピアノ曲) ブルグミュラー25の練習曲(アラバスク)	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ他	課題復習	15	創作応用演習Ⅴのまとめ	提出作品の浄書	実技試験・筆記試験のための課題演習		
	8	楽曲アナリーゼ(ピアノ曲) シューマン子供情景	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ他	課題復習	備考 ※作曲コース必修					
教科書・テキスト等	和声Ⅲ理論と実習(音楽之友社)、新総合音楽講座5コード進行表(ヤマハ)、コラール名曲集(全音楽譜出版社)、管弦楽法(ウォルター・ピストン)(音楽之友社)、名曲で学ぶ対位法(音楽之友社)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点 課題/レポート 定期試験	10% 10% 80%	積極的な作品発表等の取り組み 鑑賞レポート(週3曲以上) 筆記試験、実技試験、作品提出			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
創作応用演習Ⅵ(作曲)	出田 敬三 他	複数	2単位	音楽学科 3年次	後期	※				ABCDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
作曲・編曲の全般に必要な確かな知識と技術をさらに主体的に習得し、幅広いジャンルの音楽をマスターする。 豊かな感性と創造性を作曲と編曲を通じて表現し、創作を通じて自己表現をし、コミュニケーションを行う。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	Ⅵの学修課題内容の説明。課題の目標と取り組み方について。自作品の創作。Ⅴ全般の復習	自作品の創作。 創作応用演習Ⅴ全般の復習	課題の練習、演習、鑑賞。	9	即興・対位法・和声実習(固有和音同調ソプラノ)	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ他	課題復習		
	2	楽曲アナリーゼ・スコアリーディング(吹奏楽曲課題1)	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ他	課題復習	10	自作曲・自編曲のレッスン、記譜について①構成とフレーズについて	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ他	課題復習		
	3	楽曲アナリーゼ・スコアリーディング(吹奏楽曲課題2)	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ他	課題復習	11	自作曲・自編曲のレッスン、記譜について②ダイナミクスとアーティキュレーションについて	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ他	課題復習		
	4	楽曲アナリーゼ・スコアリーディング(管弦楽曲課題1)	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ他	課題復習	12	自作曲・自編曲のレッスン、記譜について③移調について	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ他	課題復習		
授業の概要	5	楽曲アナリーゼ・スコアリーディング(管弦楽曲課題2)	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ他	課題復習	13	自作曲・自編曲のレッスン、記譜について④楽譜の仕上げ	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ他	課題復習		
	6	即興・対位法・和声実習(準固有和音調バス)	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ他	課題復習	14	自作曲・自編曲のレッスン、記譜について⑤演奏によるまとめ	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ他	課題復習		
	7	即興・対位法・和声実習(準固有和音調ソプラノ)	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ他	課題復習	15	創作応用演習Ⅵのまとめ	提出作品の浄書	実技試験・筆記試験のための課題演習		
	8	即興・対位法・和声実習(固有和音同調バス)	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ他	課題復習	備考 ※作曲コース必修					
教科書・テキスト等	和声Ⅲ理論と実習(音楽之友社)、新総合音楽講座5コード進行表(ヤマハ)、コラール名曲集(全音楽譜出版社)、管弦楽法(ウォルター・ピストン)(音楽之友社)、名曲で学ぶ対位法(音楽之友社)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点 課題/レポート 定期試験	10% 10% 80%	積極的な作品発表等の取り組み 鑑賞レポート(週3曲以上) 筆記試験、実技試験、作品提出			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CR3MIN23 創作応用演習Ⅶ(作曲)	出田 敬三 他	複数	2単位	音楽学科 4年次	前期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
作曲・編曲の全般に必要な確かな知識と技術をさらに主体的に習得し、幅広いジャンルの音楽をマスターする。 個性豊かな作品(作曲作品、編曲作品)を制作し、作品を通じて、奏者や聴衆と音楽的コミュニケーションを行うことで、自己の成長と音楽の美しさを追求し、地域社会の音楽文化の発展に寄与する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	創作応用演習Ⅶの学修課題内容の説明 課題の目標と取り組み方について	自作品の創作、 創作応用演習Ⅶ 全般の復習	課題の練習、演 習、鑑賞	9	楽曲アナリゼ(近代作品)② ラヴェル ソナチネ	課題実習、鑑賞 (レポート作 成)、楽曲アナ リゼ他	課題復習		
	2	即興・対位法 和声実習(借用和音)①	課題実習、鑑賞 (レポート作 成)、楽曲アナ リゼ他	課題復習	10	自作曲・自編曲のレッスン、記譜につ いて① 構成とフレーズについて	課題実習、鑑賞 (レポート作 成)、楽曲アナ リゼ他	課題復習		
	3	即興・対位法 和声実習(借用和音)②	課題実習、鑑賞 (レポート作 成)、楽曲アナ リゼ他	課題復習	11	自作曲・自編曲のレッスン、記譜につ いて② ダイナミクスとアーティキュレ ーションについて	課題実習、鑑賞 (レポート作 成)、楽曲アナ リゼ他	課題復習		
	4	即興・対位法 和声実習(借用和音)③	課題実習、鑑賞 (レポート作 成)、楽曲アナ リゼ他	課題復習	12	自作曲・自編曲のレッスン、記譜につ いて③ 移調について	課題実習、鑑賞 (レポート作 成)、楽曲アナ リゼ他	課題復習		
授業の概要										
1.和声学a(和声実習)／2.和声 学b(コーラル分析・演奏)／3. コード進行(クラシックだけでなく ポピュラーの楽曲のコード進行 を分析)／4.鑑賞(週3曲以上の 楽曲を鑑賞・レポートを作成す る)／5.編曲 クラシック、ポ ピュラーの楽曲をピアノ、室内 楽に編曲し、演奏する／6.即興演奏 法／7.作曲実習／8.楽曲アナリ ゼ(バロック、古典、ロマンの楽 曲を分析)／9.管弦楽法(室内 楽)／10.対位法(バレストリー ナスタイル、カノン、フーガま で)／11.スコアリーディング (管弦楽、室内楽(総譜)の視 奏・分析)	5	音楽形式(ソナタ形式)理論～実習①	課題実習、鑑賞 (レポート作 成)、楽曲アナ リゼ他	課題復習	13	自作曲・自編曲のレッスン、記譜、演奏 について④ 楽譜の仕上げ	課題実習、鑑賞 (レポート作 成)、楽曲アナ リゼ他	課題復習		
	6	音楽形式(ソナタ形式)理論～実習②	課題実習、鑑賞 (レポート作 成)、楽曲アナ リゼ他	課題復習	14	自作曲・自編曲のレッスン、記譜、演奏 について⑤ 演奏によるまとめ	課題実習、鑑賞 (レポート作 成)、楽曲アナ リゼ他	課題復習		
	7	音楽形式(ソナタ形式)理論～実習③	課題実習、鑑賞 (レポート作 成)、楽曲アナ リゼ他	課題復習	15	創作応用演習Ⅶのまとめ	提出作品の浄書	実技試験・筆記 試験のための課 題演習		
	8	楽曲アナリゼ(近代作品)① ラヴェル ソナチネ	課題実習、鑑賞 (レポート作 成)、楽曲アナ リゼ他	課題復習						
教科書・テキスト等	和声Ⅲ理論と実習(音楽之友社)、新総合音楽講座5 コー ド進行表(ヤマハ)、コーラル名曲集(全音楽譜出版社)、管弦 楽法(ウォルター・ピストン)(音楽之友社)、名曲で学ぶ 対位法(音楽之友社)			成 績 評 価 基 準	評 価 方 法	割 合(%)	評 価 の ポ イ ン ト			
					定期試験 課題/レポート	80% 10%	筆記試験、実技試験、作品提出 鑑賞レポート(週3曲以上)			
参考書・参考資料等					平常点	10%	積極的な作品発表等の取り組み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CR3MIN24 創作応用演習Ⅷ(作曲)	出田 敬三 他	複数	2単位	音楽学科 4年次	後期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
作曲・編曲の全般に必要な確かな知識と技術をさらに主体的に習得し、幅広いジャンルの音楽をマスターする。 個性豊かな作品(作曲作品、編曲作品)を制作し、作品を通じて、奏者や聴衆と音楽的コミュニケーションを行うことで、自己の成長と音楽の美しさを追求し、地域社会の音楽文化の発展に寄与する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	創作応用演習Ⅷの学修課題内容の説明 課題の目標と取り組み方について	自作品の創作、 創作応用演習Ⅷ 全般の復習	課題の練習、演 習、鑑賞	9	自作曲・自編曲のレッスン、記譜につ いて① 構成とフレーズについて	自作品の創作、 課題実習、鑑賞 (レポート作 成)他	課題復習		
	2	即興・対位法・和声実習(内部変換)	課題実習、鑑賞 (レポート作 成)、楽曲アナ リゼ他	課題復習	10	自作曲・自編曲のレッスン、記譜につ いて② ダイナミクスとアーティキュレ ーションについて	自作品の創作、 課題実習、鑑賞 (レポート作 成)他	課題復習		
	3	即興・対位法・和声実習(構成音の転 位)	課題実習、鑑賞 (レポート作 成)、楽曲アナ リゼ他	課題復習	11	自作曲・自編曲のレッスン、記譜につ いて③ 移調について	自作品の創作、 課題実習、鑑賞 (レポート作 成)他	課題復習		
	4	即興・対位法・和声実習(構成音の転 位、休符、アフタクト)	課題実習、鑑賞 (レポート作 成)、楽曲アナ リゼ他	課題復習	12	自作曲・自編曲のレッスン、演奏につ いて④ 楽譜の仕上げ	自作品の創作、 課題実習、鑑賞 (レポート作 成)他	課題復習		
授業の概要										
1.和声学a(和声実習)／2.和声 学b(コーラル分析・演奏)／3. コード進行(クラシックだけでなく ポピュラーの楽曲のコード進行 を分析)／4.鑑賞(週3曲以上の 楽曲を鑑賞・レポートを作成す る)／5.編曲 クラシック、ポ ピュラーの楽曲をピアノ、室内 楽に編曲し、演奏する／6.即興演奏 法／7.作曲実習／8.楽曲アナリ ゼ(バロック、古典、ロマンの楽 曲を分析)／9.管弦楽法(室内 楽)／10.対位法(バレストリー ナスタイル、カノン、フーガま で)／11.スコアリーディング (管弦楽、室内楽(総譜)の視 奏・分析)	5	即興・対位法 和声実習(反復進行)①	課題実習、鑑賞 (レポート作 成)、楽曲アナ リゼ他	課題復習	13	自作曲・自編曲のレッスン、演奏につ いて⑤ 効果的な音響・PAIについて	自作品の創作、 課題実習、鑑賞 (レポート作 成)他	課題復習		
	6	即興・対位法 和声実習(反復進行)②	課題実習、鑑賞 (レポート作 成)、楽曲アナ リゼ他	課題復習	14	自作曲・自編曲のレッスン、演奏につ いて⑥ 演奏によるまとめ	自作品の創作、 課題実習、鑑賞 (レポート作 成)他	課題復習		
	7	即興・対位法 和声実習(階梯導入)①	課題実習、鑑賞 (レポート作 成)、楽曲アナ リゼ他	課題復習	15	創作応用演習Ⅷのまとめ	提出作品の浄書	実技試験・筆記 試験のための課 題演習		
	8	即興・対位法 和声実習(階梯導入)②	課題実習、鑑賞 (レポート作 成)、楽曲アナ リゼ他	課題復習						
教科書・テキスト等	和声Ⅲ理論と実習(音楽之友社)、新総合音楽講座5 コー ド進行表(ヤマハ)、コーラル名曲集(全音楽譜出版社)、管弦 楽法(ウォルター・ピストン)(音楽之友社)			成 績 評 価 基 準	評 価 方 法	割 合(%)	評 価 の ポ イ ン ト			
					定期試験 課題/レポート	80% 10%	筆記試験、実技試験、作品提出 鑑賞レポート(週3曲以上)			
参考書・参考資料等					平常点	10%	積極的な作品発表等の取り組み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CR3MIN21 創作応用演習V (ミュージックパフォーマンス)	出田 敬三 他	複数	2単位	音楽学科 3年次	前期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
<p>I 個々の実力に応じ専攻実技の基礎技能を伸ばし音楽表現力を身に付ける。</p> <p>II 現代のニーズにあった演奏感覚を身に付ける。</p> <p>III 音楽を通して人間性豊かな情操を養う。</p>	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 課題・試験曲選曲	課題曲選曲	課題①練習・基礎練習	9	既成曲②の編曲②分析(アナリーゼ)と演奏表現、記譜(楽譜制作)について	既成曲②の編曲・楽譜制作	既成曲②練習・基礎練習		
	2	課題①への取り組み①分析(背景)と演奏表現について	課題①背景について	課題①練習・基礎練習	10	既成曲②の編曲③フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 自編曲のまとめ	課題③のまとめ	試験曲練習・基礎練習		
	3	課題①への取り組み②分析(アナリーゼ)と演奏表現について	課題①アナリーゼ	課題①練習・基礎練習	11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲家等について	楽曲アナリーゼと作曲家等について	試験曲練習・基礎練習		
	4	課題①への取り組み③フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 課題①のまとめ	課題①のまとめ	既成曲①練習・基礎練習	12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ(構成)について	楽曲アナリーゼ(構成)について	試験曲練習・基礎練習		
	5	既成曲①の編曲①分析(背景・リズム)と演奏表現について	既成曲①の編曲	既成曲①練習・基礎練習	13	試験曲への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレーション、ダイナミクスについて	試験曲練習・基礎練習		
	6	既成曲①の編曲②分析(アナリーゼ)と演奏表現、記譜(楽譜制作)について	既成曲①の編曲・楽譜制作	既成曲①練習・基礎練習	14	試験曲への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウンド)について	試験曲練習・基礎練習		
	7	既成曲①の編曲③フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 自編曲のまとめ	自編曲のまとめ	既成曲②練習・基礎練習	15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出楽譜準備	創作応用演習Vのまとめ VIの準備		
8	既成曲②の編曲①分析(背景・リズム)と演奏表現について	既成曲②の編曲	既成曲②練習・基礎練習	備考 ※ミュージックパフォーマンスコース必修						
教科書・テキスト等	個々の専攻実技により、適宜選択する。		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等				実技試験 平常点 平常点	80% 10% 10%	専門実技の習熟度 自己表現力 事前・事後学習への取り組み 演奏活動、行事への参加				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CR3MIN22 創作応用演習VI (ミュージックパフォーマンス)	出田 敬三 他	複数	2単位	音楽学科 3年次	後期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
<p>I 個々の実力に応じ、専攻実技の基礎技能を伸ばし、音楽表現力を身に付ける。</p> <p>II 現代のニーズにあった演奏感覚を身に付ける。</p> <p>III 音楽を通して、人間性豊かな情操を養う。</p>	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 課題・試験曲選曲	課題曲選曲	課題①練習・基礎練習	9	既成曲②の編曲②分析(アナリーゼ)と演奏表現、記譜(楽譜制作)について	既成曲②の編曲・楽譜制作	既成曲②練習・基礎練習		
	2	課題①への取り組み①分析(背景)と演奏表現について	課題①背景について	課題①練習・基礎練習	10	既成曲②の編曲③フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 自編曲のまとめ	課題③のまとめ	試験曲練習・基礎練習		
	3	課題①への取り組み②分析(アナリーゼ)と演奏表現について	課題①アナリーゼ	課題①練習・基礎練習	11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲家等について	楽曲アナリーゼと作曲家等について	試験曲練習・基礎練習		
	4	課題①への取り組み③フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 課題①のまとめ	課題①のまとめ	既成曲①練習・基礎練習	12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ(構成)について	楽曲アナリーゼ(構成)について	試験曲練習・基礎練習		
	5	既成曲①の編曲①分析(背景・リズム)と演奏表現について	既成曲①の編曲	既成曲①練習・基礎練習	13	試験曲への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレーション、ダイナミクスについて	試験曲練習・基礎練習		
	6	既成曲①の編曲②分析(アナリーゼ)と演奏表現、記譜(楽譜制作)について	既成曲①の編曲・楽譜制作	既成曲①練習・基礎練習	14	試験曲への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウンド)について	試験曲練習・基礎練習		
	7	既成曲①の編曲③フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 自編曲のまとめ	自編曲のまとめ	既成曲②練習・基礎練習	15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出楽譜準備	創作応用演習VIのまとめ VIIの準備		
8	既成曲②の編曲①分析(背景・リズム)と演奏表現について	既成曲②の編曲	既成曲②練習・基礎練習	備考 ※ミュージックパフォーマンスコース必修						
教科書・テキスト等	個々の専攻実技により、適宜選択する。		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等				実技試験 平常点 平常点	80% 10% 10%	専門実技の習熟度 自己表現力 事前・事後学習への取り組み 演奏活動、行事への参加				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CR3MIN23 創作応用演習Ⅶ (ミュージックパフォーマンス)	出田 敬三 他	複数	2単位	音楽学科 4年次	前期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
I 個々の実力に応じ、専攻実技の基礎技能を伸ばし、音楽表現力を身につける。 II 現代のニーズにあった演奏感覚を身につける。 III 音楽を通して、人間性豊かな情操を養う。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 課題・試験曲選曲	課題曲選曲	課題①練習・基礎練習	9	自作曲への取り組み② ハーモニーについて	作曲(伴奏)楽譜制作	作曲・基礎練習		
	2	課題①への取り組み① 分析(背景)と演奏表現について	課題①背景について	課題①練習・基礎練習	10	自作曲への取り組み③ 細かな表情と楽譜作成 演奏のまとめ	楽譜制作	試験曲練習・基礎練習		
	3	課題①への取り組み② 分析(アナライゼ)と演奏表現について	課題①アナライゼ	課題①練習・基礎練習	11	試験曲への取り組み① 楽曲アナライゼと作曲家等について	楽曲アナライゼと作曲家等について	試験曲練習・基礎練習		
	4	課題①への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 課題①のまとめ	課題①のまとめ	既成曲①練習・基礎練習	12	試験曲への取り組み② 楽曲アナライゼ(構成)について	楽曲アナライゼ(構成)について	試験曲練習・基礎練習		
	5	既成曲①の編曲① 分析(背景・リズム)と演奏表現について	既成曲①の編曲	既成曲①編曲・基礎練習	13	試験曲への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレーション、ダイナミクスについて	試験曲練習・基礎練習		
	6	既成曲①の編曲② 分析(アナライゼ)と演奏表現、記譜(楽譜制作)について	既成曲①の編曲・楽譜制作	既成曲①編曲・基礎練習	14	試験曲への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウンド)について	試験曲練習・基礎練習		
	7	既成曲①の編曲③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 自編曲のまとめ	自編曲のまとめ	作曲・基礎練習	15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出楽譜準備	創作応用演習Ⅶのまとめ Ⅶの準備		
	8	自作曲への取り組み① メロディーと編成について	作曲(メロディー)	作曲・基礎練習	備考 ※ミュージックパフォーマンスコース必修					
教科書・テキスト等	個々の専攻実技により、適宜選択する。		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等				実技試験	80%	専門実技の習熟度 自己表現力				
				平常点	10%	事前・事後学習への取り組み				
				平常点	10%	演奏活動、行事への参加				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CR3MIN24 創作応用演習Ⅷ (ミュージックパフォーマンス)	出田 敬三 他	複数	2単位	音楽学科 4年次	後期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
I 個々の実力に応じ、専攻実技の基礎技能を伸ばし、音楽表現力を身につける。 II 現代のニーズにあった演奏感覚を身につける。 III 音楽を通して、人間性豊かな情操を養う。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 課題・試験曲選曲	課題曲選曲	課題①練習・基礎練習	9	自作曲への取り組み② ハーモニーについて	作曲(伴奏)楽譜制作	作曲・基礎練習		
	2	課題①への取り組み① 分析(背景)と演奏表現について	課題①背景について	課題①練習・基礎練習	10	自作曲への取り組み③ 細かな表情と楽譜作成 演奏のまとめ	楽譜制作	試験曲練習・基礎練習		
	3	課題①への取り組み② 分析(アナライゼ)と演奏表現について	課題①アナライゼ	課題①練習・基礎練習	11	試験曲への取り組み① 楽曲アナライゼと作曲家等について	楽曲アナライゼと作曲家等について	試験曲練習・基礎練習		
	4	課題①への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 課題①のまとめ	課題①のまとめ	既成曲①練習・基礎練習	12	試験曲への取り組み② 楽曲アナライゼ(構成)について	楽曲アナライゼ(構成)について	試験曲練習・基礎練習		
	5	既成曲①の編曲① 分析(背景・リズム)と演奏表現について	既成曲①の編曲	既成曲①編曲・基礎練習	13	試験曲への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレーション、ダイナミクスについて	試験曲練習・基礎練習		
	6	既成曲①の編曲② 分析(アナライゼ)と演奏表現、記譜(楽譜制作)について	既成曲①の編曲・楽譜制作	既成曲①編曲・基礎練習	14	試験曲への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウンド)について	試験曲練習・基礎練習		
	7	既成曲①の編曲③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 自編曲のまとめ	自編曲のまとめ	作曲・基礎練習	15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出楽譜準備	創作応用演習Ⅷのまとめ		
	8	自作曲への取り組み① メロディーと編成について	作曲(メロディー)	作曲・基礎練習	備考 ※ミュージックパフォーマンスコース必修					
教科書・テキスト等	個々の専攻実技により、適宜選択する。		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等				実技試験	80%	専門実技の習熟度 自己表現力				
				平常点	10%	事前・事後学習への取り組み				
				平常点	10%	演奏活動、行事への参加				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
SD3MIN29 サウンドデザインV	出田 敬三・脇山 純・矢賀部 竜成 他	複数	2単位	音楽学科 3年次	前期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
音楽の自分らしさを追求する。今まで聴いてきた音楽を自分のものにする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 春休みの課題のチェック 作曲の試み	春休み中の作品 を持ってくる	オリジナルの コンセプトを考 える	9	HMF (HeiseiMusicFestival)、音楽の日の ファンファーレに取掛る オリジナルの修正 前期課題の修正	HMFの曲、ファン ファーレに取掛 る	HMFの曲、ファン ファーレの再考 制作を進める		
	2	オリジナル (メロディー) 春休みの課題のチェック	形態、スタイル 、ジャンルを 考えながらイ メージを作る	作品の構成を練 る、メロ ディーを意識	10	HMF、音楽の日のファンファーレ制作 オリジナルの修正 前期課題の修正	HMFの曲、ファン ファーレのメロ ディー	課題のメロ ディーの再考		
	3	オリジナル (ハーモニー) 春休みの課題のチェック	いろいろなハー モニーを試す	ハーモニーを修 正	11	HMF、音楽の日のファンファーレ制作 オリジナルの修正 前期課題の修正	課題のハーモ ニーを考える	課題のハーモ ニーの再考		
	4	オリジナル (リズム) 春休みの課題のチェック	いろいろなス タイルを試す	スタイルを決め る	12	HMF、音楽の日のファンファーレ制作 オリジナルの修正 前期課題の修正	課題のリズムを 考える	課題のリズムの 再考		
授業の概要										
模倣を離れオリジナルを旨とした音楽制作。感性を高め、個性を高める。公開試験、学内外での演奏の場で、音楽の発表 (パフォーマンスを含む) のみでなく運営する能力を高める。各自の音楽をより深める。	5	オリジナル (曲の構成)	いろいろな構成 を考える	構成を決める	13	HMF、音楽の日のファンファーレ制作 オリジナルの修正 前期課題の修正	課題の構成を考 える	課題の構成の再 考		
	6	オリジナル (音色) 前期試験課題の中間発表①	フォーリズムで 土台をつくる 試験課題に取掛 る	フォーリズムで 土台をつくる 試験課題を進め る	14	HMF、音楽の日のファンファーレ制作 オリジナルの修正 前期課題の修正	課題の音色を考 える	課題の音色の再 考		
	7	オリジナル (エフェクト)	仮の音色を選び なおす	参考になる音源 を聴く	15	HMF、音楽の日のファンファーレ制作 オリジナルの仕上げ 前期課題の仕上げ	自由曲、課題曲 HMFの曲、ファン ファーレの仕上 げ	自由曲、課題曲 HMFの曲、ファン ファーレの提 出		
	8	オリジナル (楽譜) 前期試験課題の中間発表② 楽譜にしてチェック	オリジナルの構 成を再考する	楽譜にして チェック	備考 ※サウンドデザインコース必修					
教科書・テキスト等	担当教員が適宜指示、配付		成 績 評 価 基 準	評価方法	割合 (%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等				実技試験 課題/楽譜	80%	課題曲、自由曲				
				平常点 (スタッフの働き)	10%	課題の習得・練習				
					10%	授業中の指示に対する正しい打ち込み				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
SD3MIN30 サウンドデザインVI	出田 敬三・脇山 純・矢賀部 竜成 他	複数	2単位	音楽学科 3年次	後期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
音楽の自分らしさを追求する。今まで聴いてきた音楽を自分のものにする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 夏休みの課題のチェック オリジナルの作曲	夏休みの課題を 持つてくる	オリジナルの コンセプトを考 える	9	オリジナルの修正 後期課題 (ハーモニー)	課題曲のハーモ ニーを考える	課題曲のハーモ ニーを修正		
	2	オリジナル 夏休みの課題の修正 (メロディー)、 音楽の日のテーマ	夏休みの課題 のメロディーを 仕上げる	オリジナルの構 想 (メロディー を意識)	10	オリジナルの修正 後期課題 (リズム)	課題曲のリズム を考える	課題曲のリズム を修正		
	3	オリジナル 夏休みの課題の修正 (ハーモニー)、 音楽の日のテーマ	ハーモニーを決 める	ハーモニーを修 正	11	オリジナルの修正 後期課題 (曲の構成)	課題曲の構成を 考える	課題曲の構成を まとめる		
	4	オリジナル (リズム) 音楽の日のテーマ	リズムを決める	リズムを確定	12	オリジナルの修正 後期課題 (音色)	自由曲、課題曲 の音色を選び直 す	自由曲、課題曲 の音色をエ ディット		
授業の概要										
模倣を離れオリジナルを旨とした音楽制作。感性を高め、個性を高める。公開試験、学内外での演奏の場で、音楽の発表 (パフォーマンスを含む) のみでなく運営する能力を高める。各自の音楽をより深める。	5	オリジナル (曲の構成)、ドラム、 ベース	ドラム、ベース を決める	ドラム、ベース を再考	13	オリジナルの修正 後期課題 (エフェクト)	自由曲、課題曲 の各トラックの エフェクトを確 定する	エフェクトのパ ラメーターを少 し変える		
	6	オリジナル (エフェクト) 後期試験課題の中間発表①	フォーリズム各 トラックにエ フェクトをかけ る	フォーリズムを 確定 エフェクトを確 定	14	オリジナルの修正 後期課題 (楽譜)	課題曲の楽譜を 準備	課題曲の楽譜を 修正		
	7	オリジナル (楽譜) 後期試験課題の中間発表②	楽譜を制作する 課題曲のイメ ージ	楽譜の修正 課題曲のメロ ディーを考える	15	オリジナルの仕上げ 後期課題の仕上げ	自由曲、課題曲 の仕上げ	自由曲、課題曲 の最終段階の編 集		
	8	オリジナル 楽譜にしてチェック 後期課題 (メロディー)	楽譜を制作する 課題曲のメロ ディー	課題曲のメロ ディーの修正	備考 ※サウンドデザインコース必修					
教科書・テキスト等	担当教員が適宜指示、配付		成 績 評 価 基 準	評価方法	割合 (%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等				実技試験 課題/楽譜	80%	課題曲、自由曲				
				平常点 (スタッフの働き)	10%	課題の習得・練習				
					10%	授業中の指示に対する正しい打ち込み				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
SD3M1N31 サウンドデザインⅦ	出田 敬三・脇山 純・古山 俊一 他	複数	2単位	音楽学科 4年次	前期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
音楽の自分らしさを追求する。コンサートを企画、運営できるようにする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	卒業までの流れの確認 フォーリズムを再確認 音楽の基盤を再確認	フォーリズムを意識して音楽を聴いておく	シンプルな編成ではっきり曲の雰囲気を出す	9	リズムパターンの研究 (2ビート、4ビート、8ビート、16ビート)	楽器のリズムパターン、グループを聴いておく	楽器のリズムパターン、グループを再現		
	2	ミキシング 曲の構成・構造	音楽を聴く時、様々な観点で聴く コードの復習	学内演奏会のための作品 構想、コードを意識	10	リズムパターンの研究 (ドラムベース、世界の民族音楽のビート)	楽器のリズムパターン、グループを聴いておく	楽器のリズムパターン、グループを再現		
	3	エフェクトプラグイン EQを使い、無駄な音の成分を除く	EQをバイパスして聴き比べ	より良い音を追及	11	オーケストレーションの研究 (楽器の特色、音色の違い) クラシックのオーケストラの学習	いろいろなオーケストラを聴いてくる	オーケストレーションを中心に音楽を製作		
	4	ピッチ 音程補正 PCに頼りすぎもいけないが、ピッチに関して気を付ける	ヴォーカルの修正	ヴォーカルトラックの修正	12	オーケストレーションの研究 (ポップスのアレンジとの違い)	いろいろなオーケストラを聴いてくる	オーケストレーションを中心に音楽を製作		
授業の概要	5	リズム 土台となるリズムとグループ	グループを意識して音楽を聴く	グループ感のあるリズムを作る	13	オーケストレーションの研究(音域の理解) ポップスのオーケストラの学習	スコアを見ながらオーケストラを聴いてくる	オーケストレーションを中心に音楽を製作		
模倣を離れオリジナルを旨とした音楽制作。感性を高め、個性を高める。公開試験、学内外での演奏の場で、音楽の発表(パフォーマンスを含む)のみでなく企画、運営する能力を高める。各目の音楽をより深める。	6	ソフトシンセの音作り シンセの構成、機能、特徴、パラメーター	プラス、パッド、リード等の特徴	プラス、パッド、リード等の特徴を生かす	14	生音の録音 ソフト音源を使うことが多いのでその中に1トラックでも生音が入ると曲がよくなる	接続、マイク、環境を整えておく	録音したデータで自分の曲の中で最大限活かす		
	7	ソフトシンセの音作り ADSR(EG) フィルター、レゾナンス、LFO	プラス、パッド、リード等の特徴	プラス、パッド、リード等の特徴を生かす	15	音楽を作る意味 4年生の締めくくりとして「音楽」を考察する	「自分にとって音楽とは何か」を考えてくる	言語化して自分を深く知る		
	8	マスタリング 2ミックス	マスタリングした音源を作成	バウンスしてオーディオファイル、CDを作成	備考 ※サウンドデザインコース必修					
教科書・テキスト等	担当教員が適宜指示、配付			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					実技試験 課題/楽譜 平常点(スタッフの働き)	80% 10% 10%	課題曲、自由曲の完成度 課題の習得・練習 授業中の指示に対する正しい打ち込み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
SD3M1N32 サウンドデザインⅧ	出田 敬三・脇山 純・古山 俊一 他	複数	2単位	音楽学科 4年次	後期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
卒業制作としてのプロモーションビデオを制作することができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	後期の目標、卒業までの制作活動計画 個人の作品・グループでの共同作品	曲を作ってくる	公開試験のイメージを広げる	9	ミキシング1(エフェクターの理解と研究、Reverb, Delay)	空間系のエフェクターの種類を聴き分ける	理解できたパラメーターを操作		
	2	自作曲 曲の構成・構造を人にわかりやすく伝える技術	コード、リズムの書き方の研究	曲の大枠を作る	10	ミキシング2(コンプレッサー) 音圧	必要なトラックとわかり具合を試す	理解できたパラメーターを操作		
	3	曲の構成、発展のさせ方	曲を発展させるためのアイデアを出してくる	アイデアを更に形に表す	11	ミキシング3(ヴォリューム、パン、オートメーション、マキシマイザー)	各トラックのパランスを意識する	理解できたパラメーターを操作		
	4	ヴォーカル録音 自分の声でも、ヴォーカルを頼んでもいいので「声」のむつかしさに挑戦	録音する方法を調べておく	録音したデータで自分の曲の中で最大限に生かす	12	ミックスダウン 最終段階に必要な知識	音とパラメーターの関係に慣れる	理解できたパラメーターを操作		
授業の概要	5	音楽と映像の高度な融合を目指し、作品としてのプロモーションビデオを制作する。	サウンドエフェクトの制作	いろいろなサウンドエフェクトを自分の曲の中で最大限に生かす	13	PAの体験 公開試験で後輩にPAを頼むため、自分の曲に必要なPAを把握する	セッティング図を考えてくる	コンサートとして成り立つPAをまとめる		
	6	楽譜上での確認 耳や感覚でのチェックと楽譜上でのチェックで音楽的なミスを見出す	ノーテーションソフトの復習	異名同音、リズムの表記などを注意して修正	14	試験のための楽曲作り1	音を耳で確認する	音を楽譜で確認する(楽譜の制作)		
	7	ライブコンサート「音創造!」オーディション曲提出	音源、楽譜を準備	指摘された箇所を修正をして再度提出	15	試験のための楽曲作り2 楽曲制作最終段階	オーディオ的に曲を聴きながら仕上げる	2ミックスとして完成させる		
	8	細部の調整 試験曲をいろいろな角度からチェック	チェックリストを作成してやること	修正を丁寧にする	備考 ※サウンドデザインコース必修					
教科書・テキスト等	担当教員が適宜指示、配付			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					実技試験 課題/楽譜 平常点(スタッフの働き)	80% 10% 10%	課題曲、自由曲の完成度 課題の習得・練習 授業中の指示に対する正しい打ち込み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ME3MIN37 音楽教育演習V	岩山 恵美子	単独	2単位	音楽学科 3年次	前期	必修				A B C E
授業のテーマ及び到達目標	授業計画									
これからの音楽科教育のあり方についての理解を深める。 教材開発や模擬指導を通して、思考力や創造力を高める。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	音楽等質問紙調査の結果分析	シラバスを熟読	質問紙調査結果で分かったことをまとめる	9	題材目標と指導内容の検討	歌舞伎「勳進」を視聴しておく	教える内容と任務を明確にしておく		
	2	特定の課題に関する調査の結果分析	配付資料を読んでおく	特定の課題に関する調査結果で分かったことをまとめる	10	学習活動の工夫	主な学習活動を考える	学習活動の細案をまとめる		
	3	二つの調査の結果分析から課題を探る	二つの調査結果分析を見直しておく	分かった課題をまとめる	11	予想される生徒の反応と教師の支援	観察記録から生徒の反応を予想しておく	学習活動と教師の支援をまとめる		
	4	「生徒主体」について考察	配付資料を読んでおく	「生徒主体」についてまとめる	12	生徒の学びの把握（評価）	観点別学習状況評価について復習をしておく	評価計画をまとめ、学習指導案を作成する		
授業の概要										
教育に関する諸調査の結果を分析することを通して、音楽科のかかえる課題をとらえ、その改善の方向性を探る。	5	中学校の授業観察（御船中学校）	授業で取り扱う教材の内容を調べておく	観察記録をまとめる	13	模擬授業と検討会（授業者：A）	模擬授業の準備をしておく	検討会の意見をもちに学習指導案を修正する		
生徒主体の授業づくりについての理解をもち、日本の伝統音楽を教材とした授業を構想し、学習展開案を作る。	6	先行実践の分析（熊本県音楽教育研究会 公開授業指導案）	配付資料を読んでおく	分析で分かったことをまとめる	14	模擬授業と検討会（授業者：B）	模擬授業の準備をしておく	検討会の意見をもちに学習指導案を修正する		
模擬授業の検討を通して、授業構想の改善を図る。	7	教材分析・歌舞伎「勳進帳」	歌舞伎の歴史を調べておく	歌舞伎「勳進帳」の教材性についてまとめる	15	模擬授業と検討会（授業者：C）	模擬授業の準備をしておく	検討会の意見をもちに学習指導案を修正する		
	8	学習指導案の形式と内容	配付資料を読んでおく	学習指導案の各項目に書く内容を再確認する						
教科書・テキスト等	中学校学習指導要領開設音楽編（平成29年）（教育芸術社）、中学校の音楽1、中学生の音楽2・3上、中学生の音楽2・3下（教育芸術社）			成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価のポイント			
参考書・参考資料等	学生が作成する資料、適宜、資料を配付				レポート レジュメ、学習指導案 毎時間の振り返り	40% 40% 20%	内容の充実、論旨の一貫性、自分の考え 理解度、学習活動と支援の工夫、まとめ方 講義内容の理解、自分なりの考え			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ME3MIN38 音楽教育演習VI	岩山 恵美子	単独	2単位	音楽学科 3年次	後期	必修				A B C E
授業のテーマ及び到達目標	授業計画									
学校現場の授業を観察・参加したり、模擬授業を実施したりすることを通して、さまざまな教育課題に気付くとともに、教育改善の必要性を理解する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	教育改革の流れ	10年後の教育について自分の考えをまとめておく	「音楽教育の流れ」をまとめる	9	模擬授業と検討会（授業者：A）	展開案を作成し模擬授業の準備をする	検討会での意見をもちに、展開案の修正をする		
	2	「主体的・対話的で深い学び」について考察	学習指導要領改訂の趣旨を調べ、まとめておく	アクティブラーニングの授業づくりの視点をまとめる	10	模擬授業と検討会（授業者：B）	展開案を作成し模擬授業の準備をする	検討会での意見をもちに、展開案の修正をする		
	3	「教科横断的な学習」について考察	配付資料を読んで、疑問点をまとめておく	教科横断的な題材を考え、概要をまとめる。	11	模擬授業と検討会（授業者：C）	展開案を作成し模擬授業の準備をする	検討会での意見をもちに、展開案の修正をする		
授業の概要										
各自が作成した表現又は鑑賞領域の学習展開を改善・修正する。	4	先行実践の分析（九州音楽教育研究会熊本大会の記録）	公開授業指導案と授業記録を読み直しておく	先行実践における工夫点をまとめる	12	卒業研究の進め方（ガイダンス）	シラバス「卒業研究」を読んでおく	興味のある教育課題を洗い出す		
音楽教育についての課題を整理し研究主題を設定し、研究計画を立てる。	5	中学校の授業観察（御船中学校 授業参観）	授業で取り扱う教材の内容を調べておく	観察記録をまとめておく	13	過年度の卒業論文の内容を調べる	過年度の卒業論文概要集を読み直しておく	教育界の動向を調べまとめておく		
	6	授業づくりの工夫点について検討	観察して気付いたことや質問を準備しておく	これからの授業のあり方についてまとめる	14	研究の動機と課題について考える	研究したい内容をまとめておく	研究したい内容に関する文献を探す		
	7	表現領域又は鑑賞領域の授業構想・指導観と学習活動の工夫	模擬授業の題材、教材を準備しておく	指導観と学習活動をまとめる	15	研究の見通しを立てる	探した文献を読んでおく	研究の動機と研究計画をまとめる		
	8	表現領域又は鑑賞領域の授業構想・教師の支援の工夫	生徒の様子を予想しておく	教師の支援をまとめ、必要な教材等を作成する						
教科書・テキスト等	中学校学習指導要領解説音楽編（平成29年）（教育芸術社）、中学校学習指導要領解説総則編（平成29年）（東山書房）、中学校の音楽1、中学生の音楽2・3上、中学生の音楽2・3下（教育芸術社）			成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価のポイント			
参考書・参考資料等	適宜、資料を配付する				小論文 レジュメ、学習展開案 毎時間の振り返り	40% 40% 20%	内容の充実、論旨の一貫性、自分の考え 理解度、学習活動と支援の工夫・改善の内容 講義内容の理解、自分なりの考え			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ME3MIN39 音楽教育演習Ⅶ	岩山 恵美子	単独	2単位	音楽学科 4年次	前期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授業計画									
各自が設定した研究主題について調査・研究を進め「研究主題について」「研究の進め方」「研究の実際」としてまとめることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
音楽制作のテーマを設定し、素材の教材化ができる。	1	研究計画 ・研究動機と研究の方法について再確認	令和2年度卒業論文概要集を読んでおく	主題に関する資料を読み、内容をまとめる	9	研究の実際 ・検証方法の検討	各自の計画に沿って研究を進め、その都度まとめる	指摘・指導を受けて内容について再考し、研究を深める		
	2	研究計画 ・研究動機と研究の方法について再確認	研究の動機を読み直しておく	主題に関する資料を読み進め、まとめる	10	経過報告会 ・研究の経過報告と意見交換	経過報告の準備をする	研究の取り組みを振り返り、内容の充実を図る		
	3	研究主題の設定 ・明らかにしたいこと	「何を明らかにしたいのか」考えておく	主題に関する資料を読み進め、まとめる	11	音楽制作の計画 ・教育課題をもとにテーマを検討	取り上げたい教育課題を考えておく	テーマとする課題について関係資料を読み深める。		
	4	研究主題の考察	「研究主題について」を自分なりに書いておく	指摘を受けた内容を整理し、書き直す	12	音楽制作の計画 ・素材と表現方法の検討	過去の音楽制作を参考に表現方法を考える	制作計画を作成する		
	5	研究の進め方 ・研究の基礎的な考え方や研究方法	研究計画を見直ししておく	「研究の構想」をまとめる	13	音楽制作 ・主張したいこととあらすじ	主張したいことをまとめる	検討したあらすじをまとめる		
	6	研究の実際 ・研究内容の検討	各自の計画に沿って研究を進め、その都度まとめる	指摘・指導を受けた内容について再考し、研究を深める	14	音楽制作 ・台本づくり	前回検討したあらすじを確認しておく	検討した台本を整理する		
	7	研究の実際 ・基礎理論に関する内容の検討	各自の計画に沿って研究を進め、その都度まとめる	指摘・指導を受けた内容について再考し研究を深める	15	研究の実際 ・研究内容の中間まとめ	これまでの研究内容をまとめる	指摘・指導をもとに修正し、研究をすすめる		
	8	研究の実際 ・学習指導要領との関連	各自の計画に沿って研究を進め、その都度まとめる	指摘・指導を受けた内容について再考し研究を深める	備考 ※課題提出 R 4年5月24日(火)					
教科書・テキスト等			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等	学生作成の資料			レポート 課題ごとの要約資料 毎時間の振り返り	40% 40% 20%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え 内容の深まり、伝える工夫 研究や制作への取り組み、積極性、協調性				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ME3MIN40 音楽教育演習Ⅷ	岩山 恵美子	単独	2単位	音楽学科 4年次	後期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授業計画									
各自の研究計画に従って研究を進め、分析・考察した結果をまとめることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
音楽制作を創り上げ、発表することができる。	1	研究報告会 ・その後の取り組みの発表と意見交換	夏期休業中実施した研究の内容をまとめておく	気づきや意見を参考に、研究内容の充実を図る	9	研究の実際 ・研究内容の分析	研究で明らかにした内容をまとめておく	指摘・指導を受けた内容について再考し、研究を深める		
	2	音楽制作 ・台本の検討	あらすじを確認しておく	台本を完成させる	10	研究の実際 ・研究の成果と課題	残された課題をまとめておく	指摘・指導を受けた内容について再考し、研究を深める		
	3	音楽制作 ・BGMの選曲と作成	役割分担に従い場面にあった音楽をつくっておく	気づきをもとにつくった音楽を修正し楽譜に記録する	11	音楽制作 ・発表の準備	制作テーマの意図の内容をまとめておく	指摘・指導をもとに、発表原稿の内容を修正する		
	4	音楽制作 ・テーマ曲の作成	場面にあった音楽をつくっておく	気づきをもとにつくった音楽を修正し、楽譜に記録する	12	プレゼンテーションの準備 ・発表資料の作成	発表原稿を作成しておく	指摘・指導をもとに、発表原稿の内容を修正する		
	5	研究報告会 ・その後の取り組みの発表と意見交換	研究を進めた箇所を発表準備しておく	気づきや意見を参考に、研究内容の充実を図る	13	プレゼンテーションの準備 ・発表資料の見直し・修正	パワーポイントを作成しておく	指摘・指導をもとにパワーポイントの内容を修正する		
	6	研究内容の再検討 ・不十分な点の確認	研究計画に従って研究を進め、その都度まとめる	指摘・指導を受けた内容について再考し、研究を深める	14	卒業論文発表と検討会	発表の準備をしておく	指摘・指導をもとに、発表の仕方や資料を修正する		
	7	研究内容の再検討 ・内容充実のための意見交換	研究計画に従って研究を進め、その都度まとめる	指摘・指導を受けた内容について再考し、研究を深める	15	教育観・指導観についての検討	論文発表を終えて考えたことをまとめておく	4年間の学びをまとめる		
	8	音楽制作 ・演出の工夫	舞台配置や転換についての計画図を作成しておく	演出の工夫についてまとめる	備考 ※正式題目提出 R 4年10月14日(金) 論文提出 R 5年1月20日(金) 論文発表会 2月10日(金)					
教科書・テキスト等			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等	学生作成の資料			レポート 課題ごとの要約資料 毎時間の振り返り	40% 40% 20%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え 内容の深まり、伝える工夫 研究や制作への取り組み、積極性、協調性				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MT3MIT45 音楽療法演習V	村橋 和子・遠山 沙希・青 拓美	オムニバス	2単位	音楽学科 3年次	前期	必修			必修	ABCD
授業のテーマ及び到達目標										
対象者の精神・心身の健康や疾患・障害を理解し、対象者や家族治療に関わる意味を多角的・理論的に理解することを目的とし、音楽療法の意義について言語化できる。技法では、児童領域における臨床音楽技法（主に弾き歌い）を身につけることを目的とし、現場で使える楽曲を10曲以上暗譜で弾き歌いできる。										
授業計画										
回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
1	オリエンテーション 課題曲の発表	シラバスの熟読。	課題曲の練習	9	タルローズ「リトミック」について 臨床場面における手遊び曲（4～5歳児）	教科書の熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題曲の練習			
2	児童臨床における基礎知識 臨床場面における童謡の弾き歌い（春、花）	プリントの熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題曲の練習	10	リトミックと音楽療法 臨床場面における童謡の弾き歌い（秋・山）	教科書の熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題曲の練習			
3	ウニコット、スターンの母子関係理論について 臨床場面における手遊び曲（乳児）	プリントの熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題曲の練習	11	オルフの音楽教育について 臨床場面における手遊び曲（親子で行う活動）	教科書の熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題曲の練習			
4	発達検査、知能検査 臨床場面における童謡の弾き歌い（友だち、先生）	教科書の熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題曲の練習	12	オルフ・ムジックセラピーについて 臨床場面における童謡の弾き歌い（冬、雪）	教科書の熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題曲の練習			
授業の概要										
児童領域に関する各論および技法を扱う。各論では、児童領域の対象者の精神・心身の健康及び疾患・障害を把握し、対象者の様々な課題を探索し、それについて考察する。技法では児童領域の対象者の健康及び疾患・障害に伴う症状に対して有効的に働きかけるための音楽による治療技法（主に弾き歌い）を学ぶ。										
5	発達障害について 臨床場面における手遊び曲（2～3歳児）	教科書の熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題曲の練習	13	オルフ楽器について 即興体験	教科書の熟読、用語の理解。課題曲の練習	事例についてまとめ。課題曲の練習			
6	遊戯療法と音楽療法（ボウルビの理論） 臨床場面における童謡の弾き歌い（夏、海）	教科書の熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題曲の練習	14	音楽療法における声の使い方（時期未定） *青拓美講師による特別講座	レジュメを熟読し、用語を調べる。	レッスンで学んだことをまとめる。			
7	シュタイナー教育について 臨床場面における手遊び曲（3～4歳児）	教科書の熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題曲の練習	15	・まとめ（弾き歌い、口頭試問） ・夏休みの課題提示。	授業で学修したことを振り返る	課題曲の練習			
8	シュタイナー教育と音楽療法 臨床場面における童謡の弾き歌い（水、雨）	教科書の熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題曲の練習	備考 ※音楽療法コース必修/青拓美講師による特別講座については、オリエンテーションにて詳細を説明						
教科書・テキスト等		ここをつなぐミュージックセラピー（ミネルヴァ書房）、ケースに学ぶ音楽療法Ⅰ（岩崎学術出版社）、ケースに学ぶ音楽療法Ⅱ（岩崎学術出版社）		成績評価基準		評価方法	割合(%)	評価のポイント		
参考書・参考資料等						平常点（態度・行動観察） レジュメ作成と発表 期末テスト	10% 30% 60%	授業への集中、毎回のレポートの内容の充実 課題への取り組み、内容の充実 弾き歌い、及び口頭試問の点数		

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MT3MIT46 音楽療法演習VI	村橋 和子・土野 研治	単独	2単位	音楽学科 3年次	後期	必修			必修	ABCD
授業のテーマ及び到達目標										
対象者の精神・心身の健康や疾患・障害を理解し、対象者や家族治療に関わる意味を多角的・理論的に理解することを目的とし、この領域に音楽療法の意義言語化できる。技法では、児童領域における臨床音楽技法（主に即興）を身につけることを目的とし、現場で使える楽曲を15曲以上暗譜する。										
授業計画										
回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
1	オリエンテーション 論文を読む	シラバスの熟読。	課題曲の練習	9	・情動調律と音楽療法の特性 ・臨床場面における童謡の弾き歌い（アニメ曲）	プリントの熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題曲の練習			
2	・私の卒論テーマについて考える ・臨床場面における童謡の弾き歌い（自然、行事）	プリントの熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題曲の練習	10	・ボウルビの愛着理論と音楽療法 ・臨床場面における手遊び曲（親子で行う活動）	プリントの熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題曲の練習			
3	・ノードフ・ロビンズ「創造的音楽療法」 ・即興体験	プリントの熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題曲の練習	11	・コ・ミュージックセラピーの手法 ・即興体験（楽器）	プリントの熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題曲の練習			
4	・ノードフ・ロビンズ「創造的音楽療法」DVD ・即興体験	プリントの熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題曲の練習	12	・児童領域の音楽療法見学	セッションの準備	セッションの記録、まとめ			
授業の概要										
演習Ⅴに引き続き、各論では、児童領域の対象者の精神・心身の健康及び疾患・障害を把握する。さらに児童領域の対象者の様々な課題を探索し、それについて考察する。技法では、児童領域の対象者の健康及び疾患・障害に伴う症状に対して有効的に働きかけるための音楽による治療技法（主に即興）を学ぶ。										
5	・ピアジェの発達論と音楽療法 ・臨床場面における童謡の弾き歌い（動物、動物園）	プリントの熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題曲の練習	13	土野研治客員教授による特別講義	レジュメの熟読	講義内容のまとめレポート			
6	・マーラーの発達論「分離-個体化理論」 ・即興体験（ピアノ）	プリントの熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題曲の練習	14	・私の卒論テーマについて考える ・即興体験（声）	先行研究のまとめについて調べる	卒論テーマに関する先行研究を探索			
7	・マーラーの発達論と音楽療法 ・臨床場面における童謡の弾き歌い（乗り物、遠足）	プリントの熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題曲の練習	15	・まとめ（弾き歌い、口頭試問） ・卒論テーマについて考える	授業で学修したことを振り返る	課題曲の練習			
8	・ウニコットの発達論「母子関係理論」 ・臨床場面における手遊び曲（からだ）	プリントの熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題曲の練習	備考 ※音楽療法コース必修						
教科書・テキスト等		障害児の音楽療法 声・身体・コミュニケーション（春秋社）		成績評価基準		評価方法	割合(%)	評価のポイント		
参考書・参考資料等						平常点（態度・行動観察） レジュメ作成と発表 期末テスト	10% 30% 60%	授業への集中、毎回のレポートの内容の充実 課題への取り組み、内容の充実 弾き歌い、及び口頭試問の点数		

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MT3MIT47 音楽療法演習Ⅶ	村橋 和子・青 拓美	オムニバス	2単位	音楽学科 4年次	前期	必修			必修	A C E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
臨床研究については、臨床実践から明らかになったこと、調査、実験研究についてはその分析結果、文献研究においては、そこから見出した新たな視点などを先行研究から探り、音楽療法の研究や手段について探究することを目標とする。弾き歌いの課題は自分で目的を定め進める。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 卒業研究の進め方について理解する	シラバスの熟読	研究法のまとめ	9	個人研究について実験準備① 弾き歌い(自由曲)	各自の卒業研究に関する文献を読み解く	個人研究について準備。		
	2	文献を読み解き、音楽療法の研究方法について学ぶ 弾き歌い(課題曲)	各自の卒業研究に関する文献を読み解く	自分の研究との関連を検討し、まとめる。課題曲の練習	10	個人研究について実験準備②(予備実験) 弾き歌い(自由曲)	研究の手順について考える	研究の手順について確認		
	3	個人研究について先行研究を読み解く 弾き歌い(課題曲)	各自の卒業研究に関する文献を読み解く	自分の研究との関連を検討し、まとめる。	11	個人研究① 弾き歌い(自由曲)	研究の手順を確認	研究をまとめる		
	4	個人研究について先行研究を読み解く 弾き歌い(自由曲)	各自の卒業研究に関する文献を読み解く	自分の研究との関連を検討し、まとめる。	12	個人研究② 弾き歌い(自由曲)	研究準備	研究をまとめる		
授業の概要	5	グループ研究 実験法	実験法について調べる、プリントの熟読	課題をまとめる	13	個人研究まとめ 弾き歌い(自由曲)	研究準備の確認	研究をまとめる		
各自の卒業研究のテーマに沿った文献を読み解く。また他の学生の研究についても共に学び、様々な研究方法について学ぶ。また弾き歌いについても適宜課題を発表する。	6	グループ研究 調査法	調査法について調べる、プリントの熟読	課題をまとめる	14	音楽療法における声の使い方(時期未定) *青拓美講師による特別講座	レジュメの熟読、課題曲の練習	レッスンで学んだことをまとめる		
	7	グループ研究 事例研究法	事例研究法について調べる、プリントの熟読	課題をまとめる	15	・まとめ(弾き歌い、口頭試問) ・夏休みの課題提示。	個人研究について振り返る、課題曲の練習	個人研究についてまとめる		
	8	統計について	統計について調べるプリントの熟読	課題をまとめる	備考 ※音楽療法コース必修/青拓美講師による特別講座については、オリエンテーションにて詳細を説明					
教科書・テキスト等	成績評価基準			評価方法	割合(%)	評価のポイント				
				平常点(態度・行動観察)	20%	授業への集中、毎回のレポートの内容の充実				
				文献研究と発表	60%	課題への取り組み、内容の充実				
参考書・参考資料等				期末テスト	20%	弾き歌い、及び口頭試問の点数				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MT3MIT49 音楽療法演習Ⅷ	村橋 和子・土野 研治	オムニバス	2単位	音楽学科 4年次	後期	必修			必修	A C E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
臨床研究については、臨床実践から明らかになったこと、調査、実験研究についてはその分析結果、文献研究においては、そこから見出した新たな視点などを先行研究から探り、音楽療法の研究や手段について探究することを目的とする。弾き歌いの課題は自分で目的を定め発表できることを目指す。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 各自の研究状況について発表し、今後の研究計画を検討する	シラバスの熟読	研究計画の検討	9	文献を読み解き、各自の研究についてまとめる(研究結果の考察) 弾き歌い発表(試験曲)	各自の研究に関する文献を読み解く 課題曲の練習	自分の研究との関連をまとめる 課題曲の練習		
	2	各自の研究結果についてまとめる 弾き歌いレッスン(試験曲)	各自の研究結果をまとめる	自分の研究との関連をまとめる 課題曲の練習	10	文献を読み解き、各自の研究について考察する (研究結果について再検討)	各自の研究に関する文献を読み解く 課題曲の練習	自分の研究との関連をまとめる 課題曲の練習		
	3	文献を読み解き、各自の研究方法について探る (研究動機、目的、方法について)	各自の研究に関する文献を読み解く	自分の研究との関連をまとめる 課題曲の練習	11	文献を読み解き、各自の研究についてまとめる(研究結果の考察とまとめ) 弾き歌い発表(試験曲)	各自の研究に関する文献を読み解く 課題曲の練習	自分の研究との関連をまとめる 課題曲の練習		
	4	各自の研究目的と方法についてプレゼンテーションを行う	各自の研究についてまとめ、発表準備を行う	自分の研究目的と方法について検討する	12	研究のプレゼンテーション方法について学ぶ 弾き歌い発表(試験曲)	プレゼンテーションの方法について調べる。 課題曲の練習	プレゼンテーションの準備、 試験曲の練習		
授業の概要	5	文献を読み解き、各自の研究について考察する(研究目的、方法について再検討) 弾き歌いレッスン(試験曲)	各自の研究に関する文献を読み解く 課題曲の練習	自分の研究との関連をまとめる 課題曲の練習	13	各自の研究発表を行い、プレゼン方法について学ぶ(試験曲)	プレゼンテーションの準備、 試験曲の練習	各自のプレゼンテーションの方法を検討する 課題曲の練習		
演習Ⅶに引き続き、各自の卒業研究のテーマに沿った文献を読み解き、他者の研究についても共に学び、様々な研究方法を学ぶ。さらに卒業論文発表に向けて、プレゼンテーションの方法についても学ぶ。また演習Ⅶと同様に、弾き歌いも行う。	6	文献を読み解き、各自の研究について考察する(研究結果について)	各自の研究に関する文献を読み解く 課題曲の練習	自分の研究との関連をまとめる 課題曲の練習	14	各自の研究発表を行い、他者の発表についても検討する(試験曲)	プレゼンテーションの再検討、 試験曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習		
	7	文献を読み解き、各自の研究について考察する (研究結果について再検討)	各自の研究に関する文献を読み解く 課題曲の練習	自分の研究との関連をまとめる 課題曲の練習	15	・まとめ(弾き歌い、口頭試問)	授業で学修したことを振り返る	課題曲の練習		
	8	文献を読み解き、各自の研究についてまとめる(研究結果の考察) 弾き歌い発表(試験曲)	各自の研究に関する文献を読み解く 課題曲の練習	自分の研究との関連をまとめる 課題曲の練習	備考 音楽療法コース必修。土野研治客員教授の特別講義についてはオリエンテーション時に説明。					
教科書・テキスト等	成績評価基準			評価方法	割合(%)	評価のポイント				
				平常点(態度・行動観察)	10%	授業への集中、毎回のレポートの内容の充実				
				文研研究と発表	60%	課題への取り組み、内容の充実				
参考書・参考資料等				期末テスト	30%	弾き歌い、及び口頭試問の点数				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NV3M3C13 声乐V	桑原 理恵 他	クラス分け	1単位	音楽学科 3年次	前期	選択				BDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
呼吸法や発声など声乐のより幅広い技術の習得と共に内容や楽曲構成を理解し、各自に応じた楽曲を個性豊かに演奏ができる。教職履修学生は課題曲を暗譜し、はっきりとした発音と正しい音程で表情豊かに歌唱できるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	授業内容の説明・課題曲を決める	シラバスを読み授業の概要を確認する	授業内容、課題曲について確認する	9	各自課題曲1 4 (歌詞の意味と表現)	歌詞の意味を理解し表現できるように練習する	レッスン内容をまとめる		
	2	各自課題曲1 3 (身体と声の関係)	身体を解放することを意識して練習する	レッスン内容をまとめる	10	各自課題曲1 5 (母音の響きと呼吸法)	スムーズな息の流れで歌唱できるように練習する	レッスン内容をまとめる		
	3	各自課題曲1 3 (声の響き)	声の響きを意識して練習する	レッスン内容をまとめる	11	各自課題曲1 5 (発音と言葉の響き)	どの言葉も豊かな響き歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる		
	4	各自課題曲1 3 (息の流れと身体への支え)	息の流れと体の支えを意識して練習する	レッスン内容をまとめる	12	各自課題曲1 5 (言葉と旋律の関係)	歌詞の意味を理解し表現できるように練習する	レッスン内容をまとめる		
授業の概要										
音楽のいかなる専門においても「歌うこと」は表現の基礎として重要である。言葉の表現内容の解釈や楽曲構成の理解をさらに研究し、個性豊かな演奏ができるよう、より幅広い技術の習得と豊かな心の形成を図る。*声乐Ⅲ・Ⅳのテキストに加え、学生個々の進路や個性に応じた教材を使用。試験曲はオペラアリアも可。	5	各自課題曲1 3 (発声と発音)	発音と発声を意識して練習する	レッスン内容をまとめる	13	実技試験に向けたまとめ1 (呼吸・発声)	暗譜して歌唱できるように練習する	呼吸・発声を中心にレッスン内容を復習する		
	6	各自課題曲1 4 (発音とリズム)	正しい発音で歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる	14	実技試験に向けたまとめ2 (発音・母音の響き)	発声の課題に留意して練習する	発音や母音の響きを中心にレッスン内容を復習する		
	7	各自課題曲1 4 (母音の響き)	豊かな母音の響きで歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる	15	実技試験に向けたまとめ3 (表現法)	伴奏者と共に練習する	どのように表現すればよいかまとめる		
	8	各自課題曲1 4 (言葉の響き)	どの言葉も豊かな響き歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる	備考 ※教職履修学生は履修が望ましい(声乐コースを除く)					
教科書・テキスト等	楽譜は授業時に指定		成績 評価 基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等				実技試験		100%	正確な発音と音程、曲の表現			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NV3M3C14 声乐VI	常森 寿子・桑原 理恵 他	クラス分け	1単位	音楽学科 3年次	後期	選択				BDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
呼吸法や発声など声乐のより幅広い技術の習得と共に、内容や楽曲構成を理解し、各自に応じた楽曲を個性豊かに演奏できるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	授業内容の説明・課題曲を決める	シラバスを読み授業の概要を確認する	授業内容、課題曲について確認する	9	各自課題曲1 7 (言葉と表現)	歌詞の意味を理解して歌う	レッスン内容をまとめる		
	2	各自課題曲1 6 (発声と呼吸法)	課題曲を原語で練習する	レッスン内容をまとめる	10	各自課題曲1 8 (歌詞と発語)	発音に気をつけて課題曲を練習する	レッスン内容をまとめる		
	3	各自課題曲1 6 (母音の響き)	母音の響きを意識して練習する	レッスン内容をまとめる	11	各自課題曲1 8 (テンポ・強弱などの表現)	楽譜に書かれている表示記号を表現して歌う	レッスン内容をまとめる		
	4	各自課題曲1 6 (言葉と響き)	声の響きを意識して練習する	レッスン内容をまとめる	12	各自課題曲1 8 (伴奏と旋律)	伴奏と歌との関わりを理解して歌う	レッスン内容をまとめる		
授業の概要										
表現の基礎として重要な「歌うこと」を各自の専門に活かせるように、言葉の表現内容の解釈や楽曲構成の理解を更に研究し、個性豊かな演奏ができるよう、より幅広い技術の習得と豊かな心の形成を図る。*学生個々の進路や個性に応じた教材を使用。試験曲はオペラアリアも可。	5	各自課題曲1 6 (旋律の表現)	フレーズのまわりを感じて歌う練習をする	レッスン内容をまとめる	13	実技試験に向けたまとめ1 (呼吸・発声)	暗譜して歌唱できるように練習する	呼吸・発声を中心にレッスン内容を復習する		
	6	各自課題曲1 7 (言葉の発音と母音の響き)	母音の響きに気をつけて原語で練習する	レッスン内容をまとめる	14	実技試験に向けたまとめ2 (発音・母音の響き)	発声の課題に留意して練習する	発音や母音の響きを中心にレッスン内容を復習する		
	7	各自課題曲1 7 (言葉と旋律)	原語を旋律に乗せて歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる	15	実技試験に向けたまとめ3 (表現法)	伴奏者と共に練習する	どのように表現すればよいかまとめる		
	8	各自課題曲1 7 (旋律と呼吸)	フレーズと呼吸の間わりを感じて歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる	備考 ※教職履修学生は履修が望ましい(声乐コースを除く)					
教科書・テキスト等	楽譜は授業時に指定		成績 評価 基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等				実技試験		100%	正確な発音と音程、曲の表現			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NP3M4C05 ピアノⅤ	川口 みさき 他	クラス分け	1単位	音楽学科 3年次	前期	※	選択必修		選択必修	ADE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
各自に課せられた楽曲を、実技試験までに完成させる。毎時間の課題を十分に予習・復習してレッスンに臨むことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	セメスターの学習計画を立てる レッスンについての説明と楽曲決め	シラバスを読み、授業内容を 確認する	指示された事柄 について練習を 進める	9	試験曲の構成① 様式を中心に学ぶ	同じ時代の他の 作曲家の作品を 視聴する	学んだ様式を整理 する		
	2	能力に応じた作品を選び、作品の様 式・奏法を学ぶ	作品の様式に 合った奏法を考 察する	身体の使い方等 を見直す	10	試験曲の構成② 強弱法を中心に学ぶ	構成を形作る上 で重要な強弱法 を見直す	指示された事柄 について練習を 進める		
	3	決定した作品の時代背景を中心に学ぶ	作品の時代背景 を調べる	学びを表現につ なげる	11	試験曲の構成③ 和声を中心に学ぶ	ハーモニーと音 色のバランスを 確認する	学んだ和声につ いてまとめる		
	4	決定した作品の奏法を中心に学ぶ	作品の正確に 合ったふさわし い奏法を探る	次回に向け、学 んだことをまと める	12	試験曲の表現法① 音色を中心に学ぶ	内容に合った音 色を考える	適確なペダリング ができてい るか確認する		
授業の概要	ピアノⅠ～Ⅳで修得したことを更に発展させる。多様な作品に触れ、より高度な演奏技術の修得と作品理解に努める。一人一人の技術、到達度に応じた指導を行う。									
	5	試験の課題曲を決め、読譜する	試験課題候補曲 を準備する	試験曲の正確な 読譜を進める	13	試験曲の表現法② 奏法を中心に学ぶ	曲の内容をまと める	技術および表現 法の改善に取り 組む		
	6	試験曲の分析① 時代背景を中心に学ぶ	曲の時代背景を 調べる	指示された事柄 について練習を 進める	14	暗譜の確認	暗譜で安定した 演奏が出来るよ う練習する	暗譜の不確かな 部分がないか確 認する		
	7	試験曲の分析② 奏法を中心に学ぶ	曲に合ったテン ポ感や音色をつ かむ	曲にふさわしい 奏法を工夫する	15	まとめ	後期の課題候補 曲を準備する	学びの総まとめ をする		
	8	試験曲の分析③ 形式を中心に学ぶ	曲の形式を調べ る	学んだ形式をま とめる	備考 ※作曲・電子キーボード・音楽教育・音楽療法コース必修/教員免許状取得希望者は履修が望ましい					
教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜			成績 評価 基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					実技試験	100%	課題曲の完成度			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NP3M4C06 ピアノⅥ	川口 みさき 他	クラス分け	1単位	音楽学科 3年次	後期	※	選択必修		選択必修	ADE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
各自に課せられた楽曲を完成させる。毎時間の課題を十分に予習・練習してレッスンに臨むことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	セメスターの学習計画を立てる レッスンについての説明と楽曲決め	課題曲を準備す る	指示された事柄 について練習を 進める	9	試験曲の構成① 様式を中心に学ぶ	同じ時代の他の 作曲家の作品を 視聴する	作曲家の独自性 を確認する		
	2	能力に応じた作品を選び、作品の様 式・奏法を学ぶ	作品の様式を調 べる	指示された奏法 を取り入れ練習 する	10	試験曲の構成② 強弱法を中心に学ぶ	構成を形作る上 で重要な強弱法 を見直す	指示された事柄 について練習を 進める		
	3	決定した作品の時代背景を中心に学ぶ	作品の時代背景 を調べる	学んだ時代背景 をまとめる	11	試験曲の構成③ 和声を中心に学ぶ	ハーモニーと音 色のバランスを 確認する	学んだ和声につ いてまとめる		
	4	決定した作品の奏法を中心に学ぶ	曲に合った表現 を試みる	指示された事柄 について練習を 進める	12	試験曲の表現法① 音色を中心に学ぶ	内容に合った音 色を考える	適確なペダリング が出来るい るか確認する		
授業の概要	ピアノⅠ～Ⅴで習得したことを更に発展させる。多様な作品に触れ、より高度な演奏技術の習得と作品理解に努める。一人一人の技術、到達度に応じた指導を行う。									
	5	試験のための課題曲を決め、読譜する	試験課題候補曲 を準備する	試験曲の正確な 読譜を進める	13	試験曲の表現法② 奏法を中心に学ぶ	曲の内容をまと める	技術および表現 法の改善に取り 組む		
	6	試験曲の分析① 時代背景を中心に学ぶ	曲の時代背景を 調べる	曲に現れる作曲 家の特徴をまと める	14	暗譜の確認	暗譜で安定した 演奏が出来るよ う練習する	暗譜の不確かな 部分がないか確 認する		
	7	試験曲の分析② 奏法を中心に学ぶ	曲に合ったテン ポ感や音色をつ かむ	指示された事柄 について練習を 進める	15	まとめ・統括	前回までに学ん だ内容を復習す る	学びの総まとめ をする		
	8	試験曲の分析③ 形式を中心に学ぶ	曲の形式を調べ る	学んだ形式をま とめる	備考 ※作曲・電子キーボード・音楽教育・音楽療法コース必修/教員免許状取得希望者は履修が望ましい					
教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜			成績 評価 基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					実技試験	100%	課題曲の完成度			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NP3M3C07 ピアノⅦ	川口 みさき 他	クラス分け	1単位	音楽学科 4年次	前期	選択	選択必修		選択必修	ADEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
各自に課せられた楽曲を、実技試験までに完成させる。毎時間の課題を十分に予習、練習してレッスンに臨むことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	セメスターの学習計画を立てる レッスンについての説明と楽曲決め	シラバスを読み、授業内容を 確認する	指示された事柄 について練習を 進める	9	試験曲の構成① 様式を中心に学ぶ	同じ時代の他の 作曲家の作品を 視聴する	作曲家の独自性 を確認する		
	2	能力に応じた作品を選び、作品の様 式・奏法を学ぶ	作品の様式に 合った奏法を考 察する	身体の使い方等 を見直す	10	試験曲の構成② 強弱法を中心に学ぶ	構成を形作る上 で重要な強弱を 見直す	指示された事柄 について練習を 進める		
	3	決定した作品の時代背景を中心に学ぶ	作品の時代背景 を調べる	学びを表現につ なげる	11	試験曲の構成③ 和声を中心に学ぶ	ハーモニーと音 色のバランスを 確認する	学んだ和声につ いてまとめる		
	4	決定した作品の奏法を中心に学ぶ	作品の正確に 合ったふさわし い奏法を探る	次回に向け、学 んだことをまと める	12	試験曲の表現法① 音色を中心に学ぶ	内容に合った音 色を考える	適確なベダリン グが出来ている か確認する		
授業の概要										
ピアノⅠ～Ⅵで習得したことを更に発展させる。多様な作品に触れ、より高度な演奏技術の習得と作品理解に努める。一人一人の技能、到達度に応じた指導を行う。	5	試験のための課題曲を決め、読譜する	試験課題候補曲 を準備する	試験曲の正確な 読譜を進める	13	試験曲の表現法② 奏法を中心に学ぶ	曲の内容をまと める	技術および表現 上の改善に取り 組む		
	6	試験曲の分析① 時代背景を中心に学ぶ	曲の時代背景を 調べる	曲に現れる作曲 家の特徴をまと める	14	暗譜の確認	暗譜で安定した 演奏が出来るよ う練習する	暗譜の不確かな 部分がないか確 認する		
	7	試験曲の分析② 奏法を中心に学ぶ	曲に合ったテン ポ感や音色をつ かむ	学んだ奏法を取 り入れ復習する	15	まとめ・統括	前回までに学ん だ内容を復習す る	学びの総まとめ をする		
	8	試験曲の分析③ 形式を中心に学ぶ	曲の形式を調べ る	学んだ形式をま とめる	備考 ※教員免許状取得希望者は履修が望ましい					
教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜			成 績 評 価 基 準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					実技試験	100%	課題曲の完成度			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NP3M3C08 ピアノⅧ	川口 みさき 他	クラス分け	1単位	音楽学科 4年次	後期	選択	選択必修		選択必修	ADEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
各自に課せられた楽曲を、実技試験までに完成させる。毎時間の課題を十分に予習、練習してレッスンに臨むことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	セメスターの学習計画を立てる レッスンについての説明と楽曲決め	課題曲を準備す る	指示された事柄 について練習を 進める	9	試験曲の構成① 様式を中心に学ぶ	同じ時代の他の 作曲家の作品を 視聴する	作曲家の独自性 を確認する		
	2	能力に応じた作品を選び、作品の様 式・奏法を学ぶ	作品の様式を調 べる	指示された奏法 を取り入れ練習 する	10	試験曲の構成② 強弱法を中心に学ぶ	構成を形作る上 で重要な強弱を 見直す	指示された事柄 について練習を 進める		
	3	決定した作品の時代背景を中心に学ぶ	作品の時代背景 を調べる	学んだ時代背景 をまとめる	11	試験曲の構成③ 和声を中心に学ぶ	ハーモニーと音 色のバランスを 確認する	学んだ和声につ いてまとめる		
	4	決定した作品の奏法を中心に学ぶ	曲に合った表現 を試みる	指示された事柄 について練習を 進める	12	試験曲の表現法① 音色を中心に学ぶ	内容に合った音 色を考える	適確なベダリン グが出来ている か確認する		
授業の概要										
ピアノⅠ～Ⅵで習得したことを更に発展させる。多様な作品に触れ、より高度な演奏技術の習得と作品理解に努める。一人一人の技能、到達度に応じた指導を行う。	5	試験のための課題曲を決め、読譜する	試験課題候補曲 を準備する	試験曲の正確な 読譜を進める	13	試験曲の表現法② 奏法を中心に学ぶ	曲の内容をまと める	技術および表現 法の改善に取り 組む		
	6	試験曲の分析① 時代背景を中心に学ぶ	曲の時代背景を 調べる	曲に現れる作曲 家の特徴をまと める	14	暗譜の確認	暗譜で安定した 演奏が出来るよ う練習する	暗譜の不確かな 部分がないか確 認する		
	7	試験曲の分析② 奏法を中心に学ぶ	曲に合ったテン ポ感や音色をつ かむ	指示された事柄 について練習を 進める	15	まとめ・統括	前回までに学ん だ内容を復習す る	学びの総まとめ をする		
	8	試験曲の分析③ 形式を中心に学ぶ	曲の形式を調べ る	学んだ形式をま とめる	備考 ※教員免許状取得希望者は履修が望ましい					
教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜			成 績 評 価 基 準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					実技試験	100%	課題曲の完成度			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NC3M3T19 演奏実技V	実技系教員（主に管弦打）	クラス分け	1単位	音楽学科 3年次	前期	※				ABDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
<p>専門コース以外の楽器を様々な視点から幅広く学ぶため、または吹奏楽等の経験者が更に経験した楽器についての知識と演奏技術を身に付けることができる。</p> <p>授業の概要</p> <p>原則として、以前経験したことがある楽器について、専門（例えば管弦打楽器）に準ずるほどの実力を持っている者に対し、開講するものとする。時間の制約（役30分）以外は専門と同等レベルのレッスンが行われる。</p>	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	ガイダンス（年間計画等）	事前に準備しておく	次のレッスンへの準備	9	ソロ曲の選定	希望する曲を探しておく	学修内容の復習		
	2	エチュードの選定（内容の説明 他）	事前に準備しておく	学修内容の復習	10	ソロ曲D-1	事前練習	学修内容の復習		
	3	エチュードD-1	事前練習	学修内容の復習	11	ソロ曲D-2	事前練習	学修内容の復習		
	4	エチュードD-2	事前練習	学修内容の復習	12	ソロ曲D-3（粗通し）	事前練習	学修内容の復習		
	5	エチュードD-3	事前練習	学修内容の復習	13	ソロ曲D-4（テンポとアーティキュレーションの確認）	事前練習	学修内容の復習		
	6	エチュードD-4	事前練習	学修内容の復習	14	ソロ曲D-5（音楽的表現を伴った伴奏合わせ）	事前練習	学修内容の復習		
	7	エチュードD-5	事前練習	学修内容の復習	15	総まとめ（人前での披露演奏）	事前練習	前期の反省 他		
	8	エチュードD-6	事前練習	学修内容の復習	備考 ※原則として声楽・ピアノ・管弦打は選択不可					
教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定する			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点 演奏	30% 70%	授業態度・積極的な姿勢 学修課題を理解し、演奏に活かしているか			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NC3M3T20 演奏実技VI	実技系教員（主に管弦打）	クラス分け	1単位	音楽学科 3年次	後期	※				ABDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
<p>専門コース以外の楽器を様々な視点から幅広く学ぶため、または吹奏楽等の経験者が更に経験した楽器についての知識と演奏技術を身に付けることができる。</p> <p>授業の概要</p> <p>原則として、以前経験したことがある楽器について、専門（例えば管弦打楽器）に準ずるほどの実力を持っている者に対し、開講するものとする。時間の制約（役30分）以外は専門と同等レベルのレッスンが行われる。</p>	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	前期の反省と確認	事前に準備しておく	次のレッスンへの準備	9	ソロ曲の選定	希望する曲を探しておく	学修内容の復習		
	2	エチュードの選定（内容の説明 他）	事前に準備しておく	学修内容の復習	10	ソロ曲E-1	事前練習	学修内容の復習		
	3	エチュードE-1	事前練習	学修内容の復習	11	ソロ曲E-2	事前練習	学修内容の復習		
	4	エチュードE-2	事前練習	学修内容の復習	12	ソロ曲E-3（粗通し）	事前練習	学修内容の復習		
	5	エチュードE-3	事前練習	学修内容の復習	13	ソロ曲E-4（テンポとアーティキュレーションの確認）	事前練習	学修内容の復習		
	6	エチュードE-4	事前練習	学修内容の復習	14	ソロ曲E-5（音楽的表現を伴った伴奏合わせ）	事前練習	学修内容の復習		
	7	エチュードE-5	事前練習	学修内容の復習	15	総まとめ（人前での披露演奏）	事前練習	後期の反省 他		
	8	エチュードE-6	事前練習	学修内容の復習	備考 ※原則として声楽・ピアノ・管弦打は選択不可					
教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定する			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点 演奏	30% 70%	授業態度・積極的な姿勢 学修課題を理解し、演奏に活かしているか			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NC3M3T21 演奏実技Ⅶ	実技系教員（主に管弦打）	クラス分け	1単位	音楽学科 4年次	前期	※				ABDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
<p>専門コース以外の楽器を様々な視点から幅広く学ぶため、または吹奏楽等の経験者が更に経験した楽器についての知識と演奏技術を身に付けることができる。</p> <p>授業の概要</p> <p>原則として、以前経験したことがある楽器について、専門（例えば管弦打楽器）に準ずるほどの実力を持っている者に対し、開講するものとする。時間の制約（役30分）以外は専門と同等レベルのレッスンが行われる。</p>	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	ガイダンス（年間計画等）	事前に準備しておく	次のレッスンへの準備	9	ソロ曲の選定	希望する曲を探しておく	学修内容の復習		
	2	エチュードの選定（内容の説明 他）	事前に準備しておく	学修内容の復習	10	ソロ曲F-1	事前練習	学修内容の復習		
	3	エチュードF-1	事前練習	学修内容の復習	11	ソロ曲F-2	事前練習	学修内容の復習		
	4	エチュードF-2	事前練習	学修内容の復習	12	ソロ曲F-3（粗通し）	事前練習	学修内容の復習		
	5	エチュードF-3	事前練習	学修内容の復習	13	ソロ曲F-4（テンポとアーティキュレーションの確認）	事前練習	学修内容の復習		
	6	エチュードF-4	事前練習	学修内容の復習	14	ソロ曲F-5（音楽的表現を伴った伴奏合わせ）	事前練習	学修内容の復習		
	7	エチュードF-5	事前練習	学修内容の復習	15	総まとめ（人前での披露演奏）	事前練習	前期の反省 他		
	8	エチュードF-6	事前練習	学修内容の復習	備考 ※原則として声楽・ピアノ・管弦打は選択不可					
教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定する			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点 演奏	30% 70%	授業態度・積極的な姿勢 学修課題を理解し、演奏に活かしているか			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NC3M3T22 演奏実技Ⅷ	実技系教員（主に管弦打）	クラス分け	1単位	音楽学科 4年次	後期	※				ABDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
<p>専門コース以外の楽器を様々な視点から幅広く学ぶため、または吹奏楽等の経験者が更に経験した楽器についての知識と演奏技術を身に付けることができる。</p> <p>授業の概要</p> <p>原則として、以前経験したことがある楽器について、専門（例えば管弦打楽器）に準ずるほどの実力を持っている者に対し、開講するものとする。時間の制約（役30分）以外は専門と同等レベルのレッスンが行われる。</p>	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	前期の反省と確認	事前に準備しておく	次のレッスンへの準備	9	ソロ曲の選定	希望する曲を探しておく	学修内容の復習		
	2	エチュードの選定（内容の説明 他）	事前に準備しておく	学修内容の復習	10	ソロ曲G-1	事前練習	学修内容の復習		
	3	エチュードG-1	事前練習	学修内容の復習	11	ソロ曲G-2	事前練習	学修内容の復習		
	4	エチュードG-2	事前練習	学修内容の復習	12	ソロ曲G-3（粗通し）	事前練習	学修内容の復習		
	5	エチュードG-3	事前練習	学修内容の復習	13	ソロ曲G-4（テンポとアーティキュレーションの確認）	事前練習	学修内容の復習		
	6	エチュードG-4	事前練習	学修内容の復習	14	ソロ曲G-5（音楽的表現を伴った伴奏合わせ）	事前練習	学修内容の復習		
	7	エチュードG-5	事前練習	学修内容の復習	15	総まとめ（人前での披露演奏）	事前練習	後期の反省 他		
	8	エチュードE-6	事前練習	学修内容の復習	備考 ※原則として声楽・ピアノ・管弦打は選択不可					
教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定する			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点 演奏	30% 70%	授業態度・積極的な姿勢 学修課題を理解し、演奏に活かしているか			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M105 合唱V	菊村 隆史	単独	2単位	音楽学科・こども学科 3年次	前期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	ガイダンス 授業計画発表・学修内容の説明・パート編成分け	シラバスを確認	計画を立てる	9	楽曲演奏と研究① 課題楽曲Aの実習、アーティキュレーションについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	2	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習①呼吸のコントロールと発声のメカニズムについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	10	楽曲演奏と研究② 課題楽曲Bの実習、発語（ディクショ）について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	3	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習②安定感のあるプレスに立脚した声について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	11	楽曲演奏と研究③ 課題楽曲Cの実習、アーティキュレーションについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	4	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習③様々なパッセージを歌唱し自らの声と音域について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	12	楽曲演奏と研究④ 課題楽曲Dの実習、発語（ディクショ）について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
授業の概要										
コダリー・システムの概念に基づき、合唱音楽の演奏にふさわしい清潔な声と音程感覚を養いながら様々な合唱作品に取り組む。	5	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習① 移動ト唱法とソルミゼーションその1	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	13	まとめ グループ別研究発表と考察①	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	6	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習② 移動ト唱法とソルミゼーションその2	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	14	まとめ グループ別研究発表と考察②	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	7	アンサンブル・テクニックの修得とその応用①単旋律聖歌、オルガスム等を用いて完全4度または完全5度の響きを味わい音程感覚を養う。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	15	前期の総括	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	8	アンサンブル・テクニックの修得とその応用②カノン、オスティナート、2～3声の楽曲、様々なコーラス・アンサンブルを研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習						
教科書・テキスト等	必要に応じて配付、または個人購入して使用、詳細は授業時に指示する。			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					課題演奏 課題 / レポート 平常点（態度・行動観察）	50% 30% 20%	演奏に学修課題を活かしている 合唱曲、アンサンブルについての考察 授業態度、積極的な取り組み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M106 合唱VI	菊村 隆史・桑原 理恵・村橋 和子	複数	2単位	音楽学科・こども学科 3年次	後期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	ガイダンス 作品演奏にふさわしい発声、発語に留意しながら和声的感覚を養うトレーニングに取り組む	前期の学修内容を復習	計画を立てる	9	楽曲演奏と実習⑧ 組曲第8曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	2	楽曲演奏と実習① 組曲第1曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	10	楽曲演奏と実習⑨ 組曲第9曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	3	楽曲演奏と実習② 組曲第2曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	11	楽曲演奏と研究⑩ 全曲通し練習その1	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	4	楽曲演奏と実習③ 組曲第3曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	12	楽曲演奏と研究⑪ 全曲通し練習その2	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
授業の概要										
コダリー・システムの概念に基づき、合唱音楽の演奏にふさわしい清潔な声と音程感覚を養いながら様々な合唱作品に取り組む。	5	楽曲演奏と実習④ 組曲第4曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	13	リハーサル	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	6	楽曲演奏と実習⑤ 組曲第5曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	14	演奏会	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	7	楽曲演奏と実習⑥ 組曲第6曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	15	反省と総括	演習楽曲の研究と練習	合唱音楽についてまとめる		
	8	楽曲演奏と実習⑦ 組曲第7曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習						
教科書・テキスト等	必要に応じて配付、または個人購入して使用する。、詳細は授業時に指示する。			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					課題演奏 課題 / レポート 平常点（態度・行動観察）	50% 30% 20%	演奏に学修課題を活かしている 合唱曲、アンサンブルについての考察 授業態度、積極的な取り組み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M4T07 合唱Ⅶ	菊村 隆史	単独	2単位	音楽学科・こども学科 4年次	前期	※				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	ガイダンス 授業計画発表・学修内容の説明・パート編成分け	シラバスを確認	計画を立てる	9	楽曲演奏と研究① 課題楽曲Aの実習、アーティキュレーションについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	2	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習①呼吸のコントロールと発声のメカニズムについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	10	楽曲演奏と研究② 課題楽曲Bの実習、発語（ディクショ）について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	3	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習②安定感のあるブレスに立脚した声について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	11	楽曲演奏と研究③ 課題楽曲Cの実習、アーティキュレーションについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	4	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習③様々なパッセージを歌唱し自らの声と音域について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	12	楽曲演奏と研究④ 課題楽曲Dの実習、発語（ディクショ）について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
授業の概要										
コダーイ・システムの概念に基づき、合唱音楽の演奏にふさわしい清潔な声と音程感覚を養いながら様々な合唱作品に取り組む。	5	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習① 移動ト唱法とソルミゼーションその1	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	13	まとめ グループ別研究発表と考察①	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	6	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習② 移動ト唱法とソルミゼーションその2	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	14	まとめ グループ別研究発表と考察②	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	7	アンサンブル・テクニックの修得とその応用①単旋律聖歌、オルガスム等を用いて完全4度または完全5度の響きを味わい音程感覚を養う。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	15	前期の総括	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	8	アンサンブル・テクニックの修得とその応用②カノン、オスティナート、2～3声の楽曲、様々なコーラス・アンサンブルを研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	備考 ※声楽コース必修・その他の音楽学科の各コース及びこども学科は選択					
教科書・テキスト等	必要に応じて配布、または個人購入して使用する。詳細は授業時に指示する。			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					課題演奏 課題 / レポート 平常点（態度・行動観察）	50% 30% 20%	演奏に学修課題が活かしている 合唱曲、アンサンブルについての考察 授業態度、積極的な取り組み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M4T08 合唱Ⅷ	菊村 隆史・桑原 理恵・村橋 和子	複数	2単位	音楽学科・こども学科 4年次	後期	※				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	ガイダンス 作品演奏にふさわしい発声、発語に留意しながら和声的感覚を養うトレーニングに取り組む	前期の学修内容を復習	計画を立てる	9	楽曲演奏と実習⑧ 組曲第8曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	2	楽曲演奏と実習① 組曲第1曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	10	楽曲演奏と実習⑨ 組曲第9曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	3	楽曲演奏と実習② 組曲第2曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	11	楽曲演奏と研究⑩ 全曲通し練習その1	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	4	楽曲演奏と実習③ 組曲第3曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	12	楽曲演奏と研究⑪ 全曲通し練習その2	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
授業の概要										
コダーイ・システムの概念に基づき、合唱音楽の演奏にふさわしい清潔な声と音程感覚を養いながら様々な合唱作品に取り組む。	5	楽曲演奏と実習④ 組曲第4曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	13	リハーサル	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	6	楽曲演奏と実習⑤ 組曲第5曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	14	演奏会	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	7	楽曲演奏と実習⑥ 組曲第6曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	15	反省と総括	演習楽曲の研究と練習	合唱音楽についてまとめる		
	8	楽曲演奏と実習⑦ 組曲第7曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	備考 ※声楽コース必修・その他の音楽学科の各コース及びこども学科は選択					
教科書・テキスト等	必要に応じて配布、または個人購入して使用する。詳細は授業時に指示する。			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					課題演奏 課題 / レポート 平常点（態度・行動観察）	50% 30% 20%	演奏に学修課題を活かしている 合唱曲、アンサンブルについての考察 授業態度、積極的な取り組み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M4T13 合奏V	馬込 勇・柏尾 剛徳 他	クラス分け	2単位	音楽学科 3年次	前期	必修			選択必修	A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
指揮者がいる場合は指揮者、いない場合はコンサートマスター等を通じてコミュニケーションやチームワークを大事にしなが、より深い音楽を目指す。更に演奏会を企画・運営をする場合もあり、出演することと同時に莫方の経験もしながら学び、将来的に指導者としての活動やプロデュースする力も付けていくことができるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション（授業計画等）	シラバスを確認	次の授業に備える	9	定期演奏会プログラム①（毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	2	基礎合奏 他	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	10	定期演奏会プログラム②（毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	3	合奏における注意点 他	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	11	定期演奏会プログラム③（毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	4	吹奏楽コンクール課題曲Ⅰ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅠ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	12	定期演奏会プログラム④（毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
授業の概要	5	吹奏楽コンクール課題曲Ⅱ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅡ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	13	総リハーサル（本番を想定し、緊張感をもって臨む）	プログラム全曲について、注意すべき点をチェックする	注意や指摘されたところの最終調整と練習		
	6	吹奏楽コンクール課題曲Ⅲ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅢ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	14	定期演奏会（これまでの内容を演奏会に活かす）	本番に備えての準備他	本番を終えての反省点をまとめる		
	7	吹奏楽コンクール課題曲Ⅳ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅣ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	15	総括と反省会	反省点をまとめて準備しておく	前期で学んだことの確認と後期への展望を考える		
	8	吹奏楽コンクール課題曲Ⅴ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅤ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	備考	※管弦打楽コースのみ必修/音楽療法士1種においては実技に関する科目群「22単位以上」、2種においては「14単位以上」の中の一つとなる				
教科書・テキスト等	各担当者により指示			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					平常点 課題演奏	30% 70%	授業態度と積極的姿勢 学修課題を理解し、演奏に活かす			
参考書・参考資料等										

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M4T14 合奏VI	馬込 勇・柏尾 剛徳 他	クラス分け	2単位	音楽学科 3年次	後期	必修			選択必修	A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
前期の経験により得たことを活かし、吹奏楽の更なる研究、演奏者・指導者としての両方の視点で授業に参加し、より深く学んでいくこと、将来的に指導者を目指すものに対して適応力および対応力をも養うことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	前期の復習（前期に学んだことの復習および確認）	前期で学んだことを今一度復習しておく	次の授業に備える	9	基本的奏法の修得とその応用⑧（各楽器・パートそれぞれの役割について）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	2	基本的奏法の修得とその応用①（教材となる曲の発表とその音出し）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	10	基本的奏法の修得とその応用⑨（様々な楽器の特色と奏法）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	3	基本的奏法の修得とその応用②（教材曲の演奏と分析）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	11	基本的奏法の修得とその応用⑩（音楽的表現における音色の研究）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	4	基本的奏法の修得とその応用③（リズム・音程のトレーニング）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	12	基本的奏法の修得とその応用⑪（更なる表現方法の研究）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
授業の概要	5	基本的奏法の修得とその応用④（リズム・音程のトレーニングを基に発想を自由に転換）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	13	まとめ①（教材楽曲を通しての確認と応用①）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	6	基本的奏法の修得とその応用⑤（独奏では経験できない音楽体験をする）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	14	まとめ②（教材楽曲を通しての確認と応用②）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	7	基本的奏法の修得とその応用⑥（アンサンブルを通して曲の表現方法を学ぶ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	15	まとめ③（教材楽曲の発表会〔ミニコンサート〕）	発表会への準備等	授業の総括と反省		
	8	基本的奏法の修得とその応用⑦（合奏というジャンルを幅広く理解する）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	備考	※管弦打楽コースのみ必修/音楽療法士1種においては実技に関する科目群「22単位以上」、2種においては「14単位以上」の中の一つとなる				
教科書・テキスト等	各担当者により指示			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					平常点 課題演奏	30% 70%	授業態度と積極的姿勢 学修課題を理解し、演奏に活かす			
参考書・参考資料等										

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M4T15 合奏Ⅶ	馬込 勇・柏尾 剛徳 他	クラス分け	2単位	音楽学科 4年次	前期	必修			選択必修	A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
指揮者がいる場合は指揮者、いない場合はコンサートマスター等を通じてコミュニケーションやチームワークを大事にしなが、より深い音楽を目指す。更に演奏会を企画・運営をする場合もあり、出演することと同時に莫方の経験もしながら学び、将来的に指導者としての活動やプロデュースする力も付けていくことができるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション（授業計画等）	シラバスを確認	次の授業に備える	9	定期演奏会プログラム①（毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	2	基礎合奏 他	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	10	定期演奏会プログラム②（毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	3	合奏における注意点 他	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	11	定期演奏会プログラム③（毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	4	吹奏楽コンクール課題曲Ⅰ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅠ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	12	定期演奏会プログラム④（毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
授業の概要	5	吹奏楽コンクール課題曲Ⅱ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅡ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	13	総リハーサル（本番を想定し、緊張感をもって臨む）	プログラム全曲について、注意すべき点をチェックする	注意や指摘されたところの最終調整と練習		
アンサンブル等、小編成や室内楽を大きくした大合奏を基本とする。※ここでは主科生中心の「吹奏楽」の内容を主とするが、その他に「打楽器」、「ヴァイオリン」、「箏」のクラスがあり、それぞれの担当者が内容についての指示を出すものとする。	6	吹奏楽コンクール課題曲Ⅲ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅢ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	14	定期演奏会（これまでの内容を演奏会に活かす）	本番に備えての準備他	本番を終えての反省点をまとめる		
	7	吹奏楽コンクール課題曲Ⅳ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅣ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	15	総括と反省会	反省点をまとめて準備しておく	前期で学んだことの確認と後期への展望を考える		
	8	吹奏楽コンクール課題曲Ⅴ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅤ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	備考	※管弦打楽コースのみ必修/音楽療法士1種においては実技に関する科目群「22単位以上」、2種においては「14単位以上」の中の一つとなる				
教科書・テキスト等	各担当者により指示			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点 課題演奏	30% 70%	授業態度と積極的姿勢 学修課題を理解し、演奏に活かす			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M4T16 合奏Ⅶ	馬込 勇・柏尾 剛徳 他	クラス分け	2単位	音楽学科 4年次	後期	必修			選択必修	A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
前期の経験により得たことを活かし、吹奏楽の更なる研究、演奏者・指導者としての両方の視点で授業に参加し、より深く学んでいくこと、将来的に指導者を目指すものに対して適応力および対応力をも養い、実践できるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	前期の復習（前期に学んだことの復習および確認）	前期で学んだことを今一度復習しておく	次の授業に備える	9	基本的奏法の修得とその応用⑧（各楽器・パートそれぞれの役割について）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	2	基本的奏法の修得とその応用①（教材となる曲の発表とその音出し）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	10	基本的奏法の修得とその応用⑨（様々な楽器の特色と奏法）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	3	基本的奏法の修得とその応用②（教材曲の演奏と分析）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	11	基本的奏法の修得とその応用⑩（音楽的表現における音色の研究）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	4	基本的奏法の修得とその応用③（リズム・音程のトレーニング）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	12	基本的奏法の修得とその応用⑪（更なる表現方法の研究）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
授業の概要	5	基本的奏法の修得とその応用④（リズム・音程のトレーニングを基に発想を自由に転換）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	13	まとめ①（教材楽曲を通しての確認と応用①）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
アンサンブル等、小編成や室内楽を大きくした大合奏を基本とする。※ここでは主科生中心の「吹奏楽」の内容を主とするが、その他に「打楽器」、「ヴァイオリン」、「箏」のクラスがあり、それぞれの担当者が内容についての指示を出すものとする。	6	基本的奏法の修得とその応用⑤（独奏では経験できない音楽体験をする）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	14	まとめ②（教材楽曲を通しての確認と応用②）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	7	基本的奏法の修得とその応用⑥（アンサンブルを通して曲の表現方法を学ぶ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	15	まとめ③（教材楽曲の発表会〔ミニコンサート〕）	発表会への準備等	授業の総括と反省		
	8	基本的奏法の修得とその応用⑦（合奏というジャンルを幅広く理解する）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	備考	※管弦打楽コースのみ必修/音楽療法士1種においては実技に関する科目群「22単位以上」、2種においては「14単位以上」の中の一つとなる				
教科書・テキスト等	各担当者により指示			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点 課題演奏	30% 70%	授業態度と積極的姿勢 学修課題を理解し、演奏に活かす			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CP3M1N45 アンサンブルⅠ(重唱)	桑原 理恵	単独	2単位	音楽学科 3年次	前期	※				ABCDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
互いの発音(母音の響き)やフレーズ感をあわせ、ハーモニーを感じながら歌唱できる。歌詞の内容を把握した表現ができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	授業内容の説明と課題曲決め	シラバスを読み授業の概要を確認する	課題曲の内容を調べる	9	課題曲5・6 (言葉と響きのアンサンブル)	発音練習 課題曲の歌唱	指導内容と課題点をまとめる		
	2	課題曲1・2 (発音練習と詩の朗読・歌唱)	発音練習と譜読み	指導内容と課題点をまとめる	10	課題曲5・6 (内容研究・歌唱)	詩の朗読 作品についての予習	指導内容と課題点をまとめる		
	3	課題曲1・2 (言葉と響きのアンサンブル)	発音練習 課題曲の歌唱	指導内容と課題点をまとめる	11	課題曲1～6 (アンサンブルのパートナーの決定・歌唱)	課題曲の歌唱	指導内容と課題点をまとめる		
	4	課題曲1・2 (内容研究・歌唱)	詩の朗読 作品についての予習	指導内容と課題点をまとめる	12	課題曲1～6 (言葉と響きのアンサンブルをさらに探求する)	パートナーとの歌唱練習	指導内容と課題点をまとめる		
授業の概要	5	課題曲3・4 (発音練習と詩の朗読・歌唱)	発音練習と譜読み	指導内容と課題点をまとめる	13	課題曲1～6 (内容表現をさらに探求する)	パートナーとの歌唱練習	指導内容と課題点をまとめる		
歌曲を中心にオペラ・宗教曲・カンタータ・ミュージカルなどの重唱曲を課題とし、ソロとは異なるアンサンブルに必要な能力を養う。	6	課題曲3・4 (言葉と響きのアンサンブル)	発音練習 課題曲の歌唱	指導内容と課題点をまとめる	14	課題曲1～6 (アンサンブルの仕上げ)	パートナーとの歌唱練習	指導内容と課題点をまとめる		
	7	課題曲3・4 (内容研究・歌唱)	詩の朗読 作品についての予習	指導内容と課題点をまとめる	15	まとめ (アンサンブルの演奏発表と講評)	パートナーとの歌唱練習	指導内容と課題点をまとめる		
	8	課題曲5・6 (発音練習と詩の朗読・歌唱)	発音練習と譜読み	指導内容と課題点をまとめる	備考 ※声楽コース必修					
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点(態度・行動観察) 期末テスト	50% 50%	詩の朗読や内容の予習、授業への取り組み アンサンブルのバランス・音楽的表現			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CP3M1N46 アンサンブルⅡ(重唱)	桑原 理恵	単独	2単位	音楽学科 3年次	後期	※				ABCDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
互いの発音(母音の響き)やフレーズ感をあわせ、ハーモニーを感じながら歌唱できる。歌詞の内容を把握した表現ができ、ピアノやパートナーと共に音楽を作りあげることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	授業内容の説明と課題曲決め	シラバスを読み授業の概要を確認する	課題曲の内容を調べる	9	課題曲11・12 (言葉と響きのアンサンブル)	発音練習 課題曲の歌唱	指導内容と課題点をまとめる		
	2	課題曲7・8 (発音練習と詩の朗読・歌唱)	発音練習と譜読み	指導内容と課題点をまとめる	10	課題曲11・12 (内容研究・歌唱)	詩の朗読 作品についての予習	指導内容と課題点をまとめる		
	3	課題曲7・8 (言葉と響きのアンサンブル)	発音練習 課題曲の歌唱	指導内容と課題点をまとめる	11	課題曲7～12 (アンサンブルのパートナーの決定・歌唱)	課題曲の歌唱	指導内容と課題点をまとめる		
	4	課題曲7・8 (内容研究・歌唱)	詩の朗読 作品についての予習	指導内容と課題点をまとめる	12	課題曲7～12 (言葉と響きのアンサンブルをさらに探求する)	パートナーとの歌唱練習	指導内容と課題点をまとめる		
授業の概要	5	課題曲9・10 (発音練習と詩の朗読・歌唱)	発音練習と譜読み	指導内容と課題点をまとめる	13	課題曲7～12 (内容表現をさらに探求する)	パートナーとの歌唱練習	指導内容と課題点をまとめる		
アンサンブルⅠ(重唱)に引き続き、歌曲を中心にオペラ・宗教曲・カンタータ・ミュージカルなどの重唱曲を課題とし、ソロとは異なるアンサンブルに必要な能力を養う。	6	課題曲9・10 (言葉と響きのアンサンブル)	発音練習 課題曲の歌唱	指導内容と課題点をまとめる	14	課題曲7～12 (アンサンブルの仕上げ)	パートナーとの歌唱練習	指導内容と課題点をまとめる		
	7	課題曲9・10 (内容研究・歌唱)	詩の朗読 作品についての予習	指導内容と課題点をまとめる	15	まとめ (アンサンブルの演奏発表と講評)	パートナーとの歌唱練習	指導内容と課題点をまとめる		
	8	課題曲11・12 (発音練習と詩の朗読・歌唱)	発音練習と譜読み	指導内容と課題点をまとめる	備考 ※声楽コース必修					
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点(態度・行動観察) 期末テスト	50% 50%	詩の朗読や内容の予習、授業への取り組み アンサンブルのバランス・音楽的表現			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CP3M1N45 アンサンブルI (オーケストラ)	馬込 勇・柏尾 剛徳 他	複数	2単位	音楽学科 3年次	前期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
室内楽および管弦楽等、様々な編成によるアンサンブルを経験し、演奏に対する常識や慣習を学ぶことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション(授業計画と教材曲の発表)	シラバスを確認	教材曲の研究と練習	9	オーケストラスタディ②(交響曲等の第2楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習		
	2	各楽器の編成によるアンサンブル①(特色研究)	教材曲の特色を研究	授業の復習および練習	10	オーケストラスタディ③(交響曲等の第3楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習		
	3	各楽器の編成によるアンサンブル②(教材曲研究)	教材曲に対する内容研究	授業の復習および練習	11	オーケストラスタディ④(交響曲等の第4楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習		
	4	各楽器の編成によるアンサンブル③(音楽的研究)	教材曲の音楽的研究	授業の復習および練習	12	演奏会を想定した教材曲のまとめ①(流れと注意)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習		
授業の概要	5	弦楽・木管・金管・打楽器によるアンサンブル①(特色研究)	教材曲の特色を研究	授業の復習および練習	13	演奏会を想定した教材曲のまとめ②(ポイントと粗通し)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習		
弦楽アンサンブル・木管アンサンブル・金管アンサンブル・打楽器アンサンブルおよび混合アンサンブルに加え、オーケストラスタディ他、専攻する楽器により様々な編成を経験しながら個々の技術向上等を目指していく。授業の最後に演奏会を想定した発表会を行う。	6	弦楽・木管・金管・打楽器によるアンサンブル②(教材曲研究)	教材曲に対する内容研究	授業の復習および練習	14	演奏会を想定した発表会のリハーサル	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習		
	7	弦楽・木管・金管・打楽器によるアンサンブル③(音楽的研究)	教材曲の音楽的研究	授業の復習および練習	15	演奏会を想定した教材曲の発表会	総合的練習と発表会の準備	総括と反省		
	8	オーケストラスタディ①(交響曲等の第1楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	備考 ※管弦打楽コース必修					
教科書・テキスト等	担当教員より指示			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点 課題演奏	30% 70%	授業態度・積極的姿勢等 学修課題を理解し、演奏に活かす			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CP3M1N46 アンサンブルII (オーケストラ)	馬込 勇・柏尾 剛徳 他	複数	2単位	音楽学科 3年次	後期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
室内楽および管弦楽等、様々な編成によるアンサンブルを経験し、演奏に対する常識や慣習を学ぶことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	演奏会の曲目発表および準備その他	シラバスを確認	教材曲の研究と練習	9	華麗なる音楽の祭典リハーサル(本番を想定し、改善点を見出すこと等)	リハーサルへの準備と練習	リハーサル後の反省と練習		
	2	演奏会用プログラム①(楽曲分析等)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	10	華麗なる音楽の祭典 本番(これまでの成果を存分に発揮すること等)	本番に向けての準備と練習	本番後の反省		
	3	演奏会用プログラム②(曲想・流れ等)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	11	著名な管弦楽曲もしくは交響曲①(第1楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習		
	4	演奏会用プログラム③(技術的問題点等)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	12	著名な管弦楽曲もしくは交響曲②(第2楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習		
授業の概要	5	演奏会用プログラム④(音楽表現の工夫等)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	13	著名な管弦楽曲もしくは交響曲③(第3楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習		
後期は基本的に「華麗なる音楽の祭典」(本学定期演奏会)に向けての練習を兼ね、管弦楽(オーケストラスタディ)中心に授業を進めていく。演奏会の本番に向けて真摯に取り組むことも内容に含まれる。	6	パートおよびセクション①(更に細分化したアンサンブル)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	14	著名な管弦楽曲もしくは交響曲④(第4楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習		
	7	パートおよびセクション②(①の改善点をふまえた内容)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	15	演奏会を想定した発表会	発表会の準備他	総括と反省		
	8	学生ソリストとの合わせ	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	備考 ※管弦打楽コース必修					
教科書・テキスト等	担当教員より指示			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点 課題演奏	30% 70%	授業態度・積極的姿勢等 学修課題を理解し、演奏に活かす			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
PP3M3N47 アンサンブルⅢ(オーケストラ)	馬込 勇・柏尾 剛徳 他	複数	2単位	音楽学科 4年次	前期	選択				A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
室内楽および管弦楽等、様々な編成によるアンサンブルを経験し、演奏に対する常識や慣習を学ぶことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション(授業計画と教材曲の発表)	シラバスを確認	教材曲の研究と練習	9	オーケストラスタディ②(交響曲等の第2楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習		
	2	各楽器の編成によるアンサンブル①(特色研究)	教材曲の特色を研究	授業の復習および練習	10	オーケストラスタディ③(交響曲等の第3楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習		
	3	各楽器の編成によるアンサンブル②(教材曲研究)	教材曲に対する内容研究	授業の復習および練習	11	オーケストラスタディ④(交響曲等の第4楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習		
	4	各楽器の編成によるアンサンブル③(音楽的研究)	教材曲の音楽的研究	授業の復習および練習	12	演奏会を想定した教材曲のまとめ①	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習		
授業の概要										
弦楽アンサンブル・木管アンサンブル・金管アンサンブル・打楽器アンサンブルおよび混合アンサンブルに加え、オーケストラスタディ他、専攻する楽器により様々な編成を経験しながら個々の技術向上等を目指していく。授業の最後に演奏会を想定した発表会を行う。	5	弦楽・木管・金管・打楽器によるアンサンブル①(特色研究)	教材曲の特色を研究	授業の復習および練習	13	演奏会を想定した教材曲のまとめ②	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習		
	6	弦楽・木管・金管・打楽器によるアンサンブル②(教材曲研究)	教材曲に対する内容研究	授業の復習および練習	14	演奏会を想定した発表会のリハーサル	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習		
	7	弦楽・木管・金管・打楽器によるアンサンブル③(音楽的研究)	教材曲の音楽的研究	授業の復習および練習	15	演奏会を想定した教材曲の発表会	総合的練習と発表会の準備	総括と反省		
	8	オーケストラスタディ①(交響曲等の第1楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	備考 ※管弦打楽コース必修					
教科書・テキスト等	担当教員より指示			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点 課題演奏	30% 70%	授業態度・積極的姿勢等 学修課題を理解し、演奏に活かす			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
PP3M3N48 アンサンブルⅣ(オーケストラ)	馬込 勇・柏尾 剛徳 他	複数	4単位	音楽学科 4年次	後期	選択				A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
室内楽および管弦楽等、様々な編成によるアンサンブルを経験し、演奏に対する常識や慣習を学ぶ、対外的に実践できるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	演奏会の曲目発表および準備その他	シラバスを確認	教材曲の研究と練習	9	華麗なる音楽の祭典リハーサル(本番を想定し、改善点を見出すこと等)	リハーサルへの準備と練習	リハーサル後の反省と練習		
	2	演奏会用プログラム①(楽曲分析等)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	10	華麗なる音楽の祭典 本番(これまでの成果を存分に発揮すること等)	本番に向けての準備と練習	本番後の反省		
	3	演奏会用プログラム②(曲想・流れ等)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	11	著名な管弦楽曲もしくは交響曲①(第1楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習		
	4	演奏会用プログラム③(技術的問題点等)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	12	著名な管弦楽曲もしくは交響曲②(第2楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習		
授業の概要										
後期は基本的に「華麗なる音楽の祭典」(本学定期演奏会)に向けての練習を兼ね、管弦楽(オーケストラスタディ)中心に授業を進めていく。演奏会の本番に向けて真摯に取り組むことも内容に含まれる。	5	演奏会用プログラム④(音楽表現の工夫等)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	13	著名な管弦楽曲もしくは交響曲③(第3楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習		
	6	パートおよびセクション①(更に細分化したアンサンブル)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	14	著名な管弦楽曲もしくは交響曲④(第4楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習		
	7	パートおよびセクション②(①の改善点をふまえた内容)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	15	演奏会を想定した発表会	発表会の準備他	総括と反省		
	8	学生ソリストとの合わせ	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	備考 ※管弦打楽コース必修					
教科書・テキスト等	担当教員より指示			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点 課題演奏	30% 70%	授業態度・積極的姿勢等 学修課題を理解し、演奏に活かす			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CP3M1N45 アンサンブルⅠ (パフォーマンス・コラボレーション)	出田 敬三 他	複数	2単位	音楽学科 3年次	前期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
専攻実技を活かし、社会的に必要なとされる音楽、自分が表現しようとする音楽について、様々なコラボレーションのスタイルを探索し実践する。他ジャンルとのコラボレーションによって生まれるサウンドを経験し、必要な編曲の能力も身に付ける。 多様な演奏法、表現法を用いて効果的に音楽的なアンサンブルを展開する力をつける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション。課題・試験曲選曲。可能な編成について	課題曲選曲	課題①練習	9	課題②（既成曲）への取り組み④ 演奏のまとめ（音響とPAについて）	課題②の演奏効果について	課題②練習		
	2	課題①（既成曲）への取り組み① 分析（背景）と楽曲の特徴について	課題①背景・特徴について	課題①練習	10	課題②（既成曲）への取り組み⑤ 演奏のまとめ（録音）	課題②のまとめ	試験曲練習		
	3	課題①（既成曲）への取り組み②分析 （アナライズ）とコラボレーションを生かした演奏表現について	課題①アナライズ	課題①練習	11	試験曲への取り組み① 楽曲アナライズと作曲家等について	楽曲アナライズと作曲家等について	試験曲練習		
	4	課題①（既成曲）への取り組み③フレーズ、ダイナミクスと表現表現について	課題①表情について	課題①練習	12	試験曲への取り組み② 楽曲アナライズ（構成）について	楽曲アナライズ（構成）について	試験曲練習		
授業の概要	5	課題①（既成曲）への取り組み④ 演奏のまとめ	課題①のまとめ	課題②練習	13	試験曲への取り組み③ 表情（アーティキュレーション、ダイナミクス）について	アーティキュレーション、ダイナミクスについて	試験曲練習		
ライブ、コンサート、コンテスト、コンクールなど、実際のニーズに合わせて編成を決定し、演奏のための編曲、楽譜制作などを実践し、演奏する。 専攻の理解のため、コード、ハーモニー等の理論について学習したうえで、編成に応じた効果的な編曲を学修し、演奏を活かすPAについての知識も学修する。	6	課題②（既成曲）への取り組み① 分析（背景）と楽曲の特徴について	課題②背景・特徴について	課題②練習	14	試験曲への取り組み④ 表現（音響・サウンド）について	表現（音響・サウンド）について	試験曲練習		
	7	課題②（既成曲）への取り組み②分析 （アナライズ）とコラボレーションを生かした演奏表現について	課題②アナライズ	課題②練習	15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出楽譜準備	重奏ⅠのまとめとⅡの準備（選曲）		
	8	課題②（既成曲）への取り組み③フレーズ、ダイナミクスと表現表現について	課題②表情について	課題②練習	備考 ※ミュージックパフォーマンスコース開設科目					
教科書・テキスト等	個々の専攻実技により、適宜選択する。			成績評価基準	評価方法	割合 (%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等				実技試験		80%	専門実技の習熟度 自己表現力			
				平常点		10%	事前・事後学習への取り組み			
				平常点		10%	演奏活動、行事への参加			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CP3M1N46 アンサンブルⅡ (パフォーマンス・コラボレーション)	出田 敬三 他	複数	2単位	音楽学科 3年次	後期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
専攻実技を活かし、社会的に必要なとされる音楽、自分が表現しようとする音楽について、様々なコラボレーションのスタイルを探索し実践する。他ジャンルとのコラボレーションによって生まれるサウンドを経験し、必要な編曲の能力も身に付ける。 多様な演奏法、表現法を用いて効果的に音楽的なアンサンブルを展開する力をつける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション。課題・試験曲選曲。可能な編成について	課題曲選曲	課題①練習	9	課題②（既成曲）への取り組み④ 演奏のまとめ（音響とPAについて）	課題②の演奏効果について	課題②練習		
	2	課題①（既成曲）への取り組み① 分析（背景）と楽曲の特徴について	課題①背景・特徴について	課題①練習	10	課題②（既成曲）への取り組み⑤ 演奏のまとめ（録音）	課題②のまとめ	試験曲練習		
	3	課題①（既成曲）への取り組み②分析 （アナライズ）とコラボレーションを生かした演奏表現について	課題①アナライズ	課題①練習	11	試験曲への取り組み① 楽曲アナライズと作曲家等について	楽曲アナライズと作曲家等について	試験曲練習		
	4	課題①（既成曲）への取り組み③フレーズ、ダイナミクスと表現表現について	課題①表情について	課題①練習	12	試験曲への取り組み② 楽曲アナライズ（構成）について	楽曲アナライズ（構成）について	試験曲練習		
授業の概要	5	課題①（既成曲）への取り組み④ 演奏のまとめ	課題①のまとめ	課題②練習	13	試験曲への取り組み③ 表情（アーティキュレーション、ダイナミクス）について	アーティキュレーション、ダイナミクスについて	試験曲練習		
ライブ、コンサート、コンテスト、コンクールなど、実際のニーズに合わせて編成を決定し、演奏のための編曲、楽譜制作などを実践し、演奏する。 専攻の理解のため、コード、ハーモニー等の理論について学習したうえで、編成に応じた効果的な編曲を学修し、演奏を活かすPAについての知識も学修する。	6	課題②（既成曲）への取り組み① 分析（背景）と楽曲の特徴について	課題②背景・特徴について	課題②練習	14	試験曲への取り組み④ 表現（音響・サウンド）について	表現（音響・サウンド）について	試験曲練習		
	7	課題②（既成曲）への取り組み②分析 （アナライズ）とコラボレーションを生かした演奏表現について	課題②アナライズ	課題②練習	15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出楽譜準備	重奏ⅡのまとめとⅢの準備（選曲）		
	8	課題②（既成曲）への取り組み③フレーズ、ダイナミクスと表現表現について	課題②表情について	課題②練習	備考 ※ミュージックパフォーマンスコース開設科目					
教科書・テキスト等	個々の専攻実技により、適宜選択する。			成績評価基準	評価方法	割合 (%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等				実技試験		80%	専門実技の習熟度 自己表現力			
				平常点		10%	事前・事後学習への取り組み			
				平常点		10%	演奏活動、行事への参加			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
PP3M3N47 アンサンブルⅢ (パフォーマンス・コラボレーション)	出田 敬三 他	複数	2単位	音楽学科 4年次	前期	必修				A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
専攻実技を活かし、社会的に必要とされる音楽、自分が表現しようとする音楽について、様々なコラボレーションのスタイルを探索し実践する。他ジャンルとのコラボレーションによって生まれるサウンドを経験し、必要な編曲の能力も身に付ける。 多様な演奏法、表現法を用いて効果的で音楽的なアンサンブルを展開する力をつける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション。課題・試験曲選曲。可能な編成について	課題曲選曲	課題①練習	9	課題②（自編曲）への取り組み④ 楽譜制作と演奏のまとめ（音響とPAについて）	課題②楽譜制作	課題②練習		
	2	課題①（既成曲）への取り組み① 分析（背景）と楽曲の特徴について	課題①背景・特徴について	課題①練習	10	課題②（自編曲）への取り組み⑤ 演奏のまとめ（録音）	課題②のまとめ	試験曲練習		
	3	課題①（既成曲）への取り組み②分析 （アナリーゼ）とコラボレーションを生かした演奏表現について	課題①アナリーゼ	課題①練習	11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲家等について	楽曲アナリーゼと作曲家等について	試験曲練習		
	4	課題①（既成曲）への取り組み③フレーズ、ダイナミクスと表現について	課題①表情について	課題①練習	12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ（構成）について	楽曲アナリーゼ（構成）について	試験曲練習		
授業の概要	5	課題①（既成曲）への取り組み④ 演奏のまとめ	課題①のまとめ	課題②練習	13	試験曲への取り組み③ 表情（アーティキュレーション、ダイナミクス）について	アーティキュレーション、ダイナミクスについて	試験曲練習		
	6	課題②（自編曲）への取り組み① 原曲の分析（背景）と楽曲の特徴について	課題②背景・特徴について・編曲	課題②練習	14	試験曲への取り組み④ 表現（音響・サウンド）について	表現（音響・サウンド）について	試験曲練習		
	7	課題②（自編曲）への取り組み②分析 （アナリーゼ）とコラボレーションを生かした演奏表現について	課題②アナリーゼ・編曲	課題②練習	15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出楽譜準備	重奏Ⅲのまとめ とⅣの準備（選曲）		
	8	課題②（自編曲）への取り組み③フレーズ、ダイナミクスと表現について	課題②表情について・編曲	課題②練習	備考 ※ミュージックパフォーマンスコース開設科目					
教科書・テキスト等	個々の専攻実技により、適宜選択する。		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
				実技試験	80%	専門実技の習熟度 自己表現力				
				平常点	10%	事前・事後学習への取り組み				
参考書・参考資料等				平常点	10%	演奏活動、行事への参加				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
PP3M3N48 アンサンブルⅣ (パフォーマンス・コラボレーション)	出田 敬三 他	複数	2単位	音楽学科 4年次	後期	必修				A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
専攻実技を活かし、社会的に必要とされる音楽、自分が表現しようとする音楽について、様々なコラボレーションのスタイルを探索し実践する。他ジャンルとのコラボレーションによって生まれるサウンドを経験し、必要な編曲の能力も身に付ける。 多様な演奏法、表現法を用いて効果的で音楽的なアンサンブルを展開する力をつける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション。課題・試験曲選曲。可能な編成について	課題曲選曲	課題①練習	9	課題②（自編曲）への取り組み④ 楽譜制作と演奏のまとめ（音響とPAについて）	課題②楽譜制作	課題②練習		
	2	課題①（既成曲）への取り組み① 分析（背景）と楽曲の特徴について	課題①背景・特徴について	課題①練習	10	課題②（自編曲）への取り組み⑤ 演奏のまとめ（録音）	課題②のまとめ	試験曲練習		
	3	課題①（既成曲）への取り組み②分析 （アナリーゼ）とコラボレーションを生かした演奏表現について	課題①アナリーゼ	課題①練習	11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲家等について	楽曲アナリーゼと作曲家等について	試験曲練習		
	4	課題①（既成曲）への取り組み③フレーズ、ダイナミクスと表現について	課題①表情について	課題①練習	12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ（構成）について	楽曲アナリーゼ（構成）について	試験曲練習		
授業の概要	5	課題①（既成曲）への取り組み④ 演奏のまとめ	課題①のまとめ	課題②練習	13	試験曲への取り組み③ 表情（アーティキュレーション、ダイナミクス）について	アーティキュレーション、ダイナミクスについて	試験曲練習		
	6	課題②（自編曲）への取り組み① 原曲の分析（背景）と楽曲の特徴について	課題②背景・特徴について・編曲	課題②練習	14	試験曲への取り組み④ 表現（音響・サウンド）について	表現（音響・サウンド）について	試験曲練習		
	7	課題②（自編曲）への取り組み②分析 （アナリーゼ）とコラボレーションを生かした演奏表現について	課題②アナリーゼ・編曲	課題②練習	15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出楽譜準備	重奏Ⅳのまとめ		
	8	課題②（自編曲）への取り組み③フレーズ、ダイナミクスと表現について	課題②表情について・編曲	課題②練習	備考 ※ミュージックパフォーマンスコース開設科目					
教科書・テキスト等	個々の専攻実技により、適宜選択する。		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
				実技試験	80%	専門実技の習熟度 自己表現力				
				平常点	10%	事前・事後学習への取り組み				
参考書・参考資料等				平常点	10%	演奏活動、行事への参加				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CP3MIN45 アンサンブルⅠ (ピアノ)	松崎 伶子・川口 みさき	クラス分け	2単位	音楽学科 3年次	前期	必修				ABCDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
モーツァルトの連弾曲を導入として、アンサンブルに必要な基礎技術を学ぶ。2人で1つの音楽を作り上げることができる。技能と知識、態度を兼ね備えられている。学修に対する情熱と意欲を持ち作品に取り組むことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	学修計画を立てる。簡単な連弾曲を初見で演奏する	連弾曲について調べる	モーツァルト連弾ソナタを聴く	9	モーツァルトソナタ連弾曲を分析する③ 奏法を中心に学修する	運指および奏法の予習	奏法の掘り下げ		
	2	モーツァルトの四手のためのピアノソナタの中から楽曲を決定する。初見で合わせてみる。	モーツァルトの連弾ソナタを調べる	モーツァルト連弾ソナタを弾く	10	モーツァルトソナタ連弾曲を分析する④ 表現法を中心に全楽章に取り組む	楽譜をよく見て強弱のバランスを取る	音色の追求		
	3	選択した四手のためのピアノソナタの時代背景を学ぶ	モーツァルトの時代背景を調べる	指示された内容まで到達するよう練習する	11	モーツァルトソナタ連弾曲を分析する⑤ 全楽章の構成を中心に学ぶ	各楽章を弾く	読譜の徹底		
	4	連弾の構成① 和声を中心に学修する	プリモとセコンドに分かれて練習する	各パート奏法の追求	12	試験曲の完成度を高める① 共演者とのコミュニケーションの取り方	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める		
授業の概要	5	連弾の構成② 様式を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	13	試験曲の完成度を高める② 合図の出し方、呼吸の合わせ方	呼吸合わせを追求	楽曲全体の音の調和		
連弾を中心にアンサンブルを行うことにより、独奏とは異なるハーモニーや音のバランスなどの表現方法について学ぶ。授業はレッスン形式で行う。学生のそれぞれの力を考慮しながら2人1組を中心に学ぶ。	6	連弾曲の構成③ 形式を中心に学修する	ソナタ形式を調べる	楽曲分析	14	試験曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫して練習	指示された事柄について練習を深める		
	7	モーツァルトソナタ連弾曲を分析する プリモ・セコンドの意義	奏法を各パートに即して練習	指示された事柄について練習を進める	15	総括 音色やアーティキュレーションのまとめ	課題曲の全ての項目を練習する	楽曲演奏の改善点を探る		
	8	モーツァルトソナタ連弾曲を分析する ② 和声を中心に学修する	和声を調べる	和声を意識して練習	備考 ※ピアノコース必修					
教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					実技試験 平常点(行動観察)	80% 20%	楽曲の完成度 授業態度・毎時間の振り返り			
参考書・参考資料等										

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CP3MIN46 アンサンブルⅡ (ピアノ)	松崎 伶子・川口 みさき	クラス分け	2単位	音楽学科 3年次	後期	必修				ABCDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
古典から近現代までの連弾曲・2台ピアノを題材にして、アンサンブルの楽しさを理解することができる。楽譜から読み取る力を向上させ、音楽性を高めることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	後期の学習計画を立てる。連弾曲または、2台のピアノ曲を選曲する	アンサンブル曲について調べる	アンサンブル曲を聴く	9	選択した課題曲を分析する③ 奏法を中心に学修する	運指および奏法の予習	奏法の掘り下げ		
	2	古典から印象派までのアンサンブル作品の決定した曲の分析	アンサンブル曲について調べる	アンサンブル曲を数曲弾く	10	選択した課題曲を発展させる① 表現法を中心に全楽章に取り組む	楽譜をよく見て強弱のバランスを取る	音色の追求		
	3	決定した楽曲の時代背景を中心に学ぶ	楽曲の時代背景を調べる	指示された内容まで到達するよう練習する	11	選択した課題曲を 発展させる② 全楽章の構成を中心に学ぶ	各楽章を弾く	読譜の徹底		
	4	連弾・2台ピアノ曲の構成① 和声を中心に学修する	プリモとセコンドに分かれる	各パート奏法の追求	12	試験曲の完成度を高める① 共演者とのコミュニケーションの取り方	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める		
授業の概要	5	連弾・2台ピアノ曲の構成② 様式を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	13	試験曲の完成度を高める② 合図の出し方、呼吸の合わせ方	呼吸合わせを追求	楽曲全体の音の調和		
連弾を中心にアンサンブルを行うことにより、独奏とは異なるハーモニーや音のバランスなどの表現方法について学ぶ。授業はレッスン形式で行う。学生のそれぞれの力を考慮しながらペアを作る	6	連弾・2台ピアノ曲の構成③ 形式を中心に学修する	形式を調べる	楽曲分析	14	試験曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫して練習	指示された事柄について練習を深める		
	7	選択した課題曲を分析する① 各パートの意義	奏法を各パートに即して練習	指示された事柄について練習を進める	15	総括・音色やアーティキュレーションのまとめ	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を深める		
	8	選択した課題曲を分析する② 和声を中心に学修する	和声を調べる	和声を意識して練習	備考 ※ピアノコース必修					
教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					期末試験 平常点(行動観察)	80% 20%	楽曲の完成度 授業態度・毎時間の振り返り			
参考書・参考資料等										

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
PP3M3N47 アンサンブルⅢ (ピアノ)	松崎 伶子・川口 みさき	クラス分け	2単位	音楽学科 4年次	前期	選択				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
古典から近現代までの連弾曲・2台ピアノを題材にして、アンサンブルの楽しさを理解することができる。楽譜から読み取る力を向上させ、音楽性を高めることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	学修計画を立てる。連弾曲または、2台のピアノ曲を選曲する。	アンサンブル曲について調べる	アンサンブル曲を聴く	9	選択した課題曲を分析する③ 奏法を中心に学修する	運指および奏法の予習	奏法の掘り下げ		
	2	古典から印象派までのアンサンブル作品の決定した曲の分析	アンサンブル曲について調べる	アンサンブル曲を数曲弾く	10	選択した課題曲を発展させる① 表現法を中心に全楽章に取り組む	楽譜をよく見て強弱のバランスを取る	音色の追求		
	3	決定した楽曲の時代背景を中心に学ぶ	楽曲の時代背景を調べる	指示された内容まで到達するよう練習する	11	選択した課題曲を発展させる② 構成を中心に学ぶ	各楽章を弾く	読譜の徹底		
	4	連弾・2台ピアノ曲の構成① 和声を中心に学修する	プリモとセコンドに分かれ練習する	各パート奏法の追求	12	試験曲の完成度を高める① 共演者とのコミュニケーションの取り方	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める		
授業の概要	5	連弾・2台ピアノ曲の構成② 様式を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	13	試験曲の完成度を高める② 合図の出し方、呼吸の合わせ方	呼吸合わせを追求	楽曲全体の音の調和		
アンサンブルを行うことにより、独奏とは異なるハーモニーや音のバランスなどの表現方法について学ぶ。 授業はレッスン形式で行う。学生のそれぞれ力を考慮しながら2人1組を中心として学ぶ。 アンサンブルを行うことにより、独奏とは異なるハーモニーや音のバランスなどの表現方法について学ぶ。	6	連弾・2台ピアノ曲の構成③ 形式を中心に学修する	形式を調べる	楽曲分析	14	試験曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫して練習	指示された事柄について練習を深める		
	7	選択した課題曲を分析する① 各パートの意義学修する	奏法を各パートに即して練習	指示された事柄について練習を進める	15	総括・音色やアーティキュレーションのまとめ	課題曲の全ての項目を練習する	楽曲演奏の改善点を探る		
	8	選択した課題曲を分析する② 和声を中心に学修する	和声を調べる	和声を意識して練習	備考 ※ピアノコースの学生は必ず履修すること。					
教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					期末試験	80%	楽曲の完成度			
					平常点(行動観察)	20%	授業態度・毎時間の振り返り			
参考書・参考資料等										

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
PP3M3N48 アンサンブルⅣ (ピアノ)	松崎 伶子・川口 みさき	クラス分け	2単位	音楽学科 4年次	後期	選択				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
古典から近現代までの、ピアノコンチェルト等の楽曲を題材にして、アンサンブルの楽しさを理解することができる。楽譜から読み取る力を向上させ、音楽性を高めることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	学修計画を立てる。連弾曲、2台のピアノ曲、またはピアノコンチェルトを選曲する。	アンサンブル曲について調べる	アンサンブル曲を聴く	9	選択した課題曲を分析する③ 奏法を中心に学修する	運指および奏法の予習	奏法の掘り下げ		
	2	アンサンブル作品の決定した曲の分析	アンサンブル曲について調べる	アンサンブル曲を数曲弾く	10	選択した課題曲を発展させる① 表現法を中心に学修する	楽譜をよく見て強弱のバランスを取る	音色の追求		
	3	決定した楽曲の時代背景を中心に学ぶ	楽曲の時代背景を調べる	指示された内容まで到達するよう練習する	11	選択した課題曲を発展させる② 構成を中心に学ぶ	各楽章を弾く	読譜の徹底		
	4	ピアノコンチェルト・2台ピアノ曲の構成① 和声を中心に学修する	プリモとセコンドに分かれ練習する	各パート奏法の追求	12	試験曲の完成度を高める① 共演者とのコミュニケーションの取り方	共演者と何度も合わせ練習する	指示された事柄について練習を進める		
授業の概要	5	ピアノコンチェルト・2台ピアノ曲の構成② 様式を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	13	試験曲の完成度を高める② 合図の出し方、呼吸の合わせ方	呼吸合わせを追求	楽曲全体の音の調和		
アンサンブルを行うことにより、独奏とは異なるハーモニーや音のバランスなどの表現方法について学ぶ。 授業はレッスン形式で行う。学生のそれぞれ力を考慮しながらペアを作る。アンサンブルを行うことにより、独奏とは異なるハーモニーや音のバランスなどの表現方法について学ぶ。	6	ピアノコンチェルト・2台ピアノ曲の構成③ 形式を中心に学修する	形式を調べる	楽曲分析	14	試験曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫して練習	指示された事柄について練習を深める		
	7	選択した課題曲を分析する① 各パートの意義を学修する	奏法を各パートに即して練習	指示された事柄について練習を進める	15	総括・音色やアーティキュレーションのまとめ	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を深める		
	8	選択した課題曲を分析する② 和声を中心に学修する	和声を調べる	和声を意識して練習	備考 ※ピアノコースの学生は必ず履修すること。 指定された日程のオーケストラ合わせに参加すること。					
教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					実技試験	80%	楽曲の完成度			
					平常点(行動観察)	20%	授業態度・毎時間の振り返り			
参考書・参考資料等										

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M1C30 指揮法	出田 敬三	単独	2単位	音楽学科・こども学科 3年次	前期	必修	必修		選択必修	AB
授業のテーマ及び到達目標	授業計画									
基礎的なバトンテクニックと音楽表現法を修得し、教育現場等において様々な形態・編成に対応できる実践的な指揮を身につける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	●指揮の重要性と指揮者の役割 ●指揮者に必要な音楽知識 ●予備拍(ブレス)	シラバスの熟読	課題演習 ノート整理	9	●作品のアナリゼ(楽曲分析) ●教材(童謡・唱歌・歌曲・ピアノ曲等)を使った演習と表現法	前回までの復習	課題演習 ノート整理		
	2	●指揮の基本(指揮棒の持ち方・姿勢・動作・叩き等) ●1つ振り(1拍振り) ●2拍子(マルカート・スタッカート)	前回の復習	課題演習 ノート整理	10	●合唱曲の研究と合唱指揮の演習Ⅰ. ●指揮棒を使わない指揮	前回までの復習	課題演習 ノート整理		
	3	●3拍子・4拍子(マルカート・スタッカート) ●音の入り方(開始の合図)	前回までの復習	課題演習 ノート整理	11	●合唱曲の研究と合唱指揮の演習Ⅱ. ●無伴奏と伴奏の指揮	前回までの復習	課題演習 ノート整理		
	4	●6拍子(マルカート・スタッカート) ●音の切り方(終了の指示)	前回までの復習	課題演習 ノート整理	12	●器楽曲(リード合奏曲・オーケストラ曲等)の演習Ⅰ. ●スコアリーダーⅠ. ●ワルツの指揮	前回までの復習	課題演習 ノート整理		
授業の概要										
指揮法は各領域の教育現場等におけるもっとも重要な科目の一つである。本講座では指揮の基本から“音楽創り”まで幅広い実用的な演習を行う。	5	●1つ振り(1拍振り) ●2拍子・3拍子・4拍子・6拍子(マルカート・スタッカート)	前回までの復習	課題演習 ノート整理	13	●器楽曲(リード合奏曲・オーケストラ曲等)の演習Ⅱ. ●スコアリーダーⅡ. ●式典・マーチング・ポップス等の指揮	前回までの復習	課題演習 ノート整理		
	6	●2拍子・3拍子・4拍子・6拍子(レガート)	前回までの復習	課題演習 ノート整理	14	●分割と変拍子 ●的確な指揮と豊かな音楽表現法	前回までの復習	課題演習 ノート整理		
	7	●音の強弱(ダイナミクス)の表現法 ●各拍子(マルカート・スタッカート・レガート)の復習	前回までの復習	課題演習 ノート整理	15	●実技試験のための実習 ●総括・まとめ	実技試験課題演習	課題演習 ノート整理		
	8	●アンザッツ ●左手の合図と効果的動作 ●Tempoの変化とフェルマータ	前回までの復習	課題演習 ノート整理						
教科書・テキスト等	授業毎にプリントを配布、指揮棒、ノート、定規を持参			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					定期試験 平常点(態度・行動観察)	80% 20%	実技試験 授業や演習への積極的な取り組み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M4C54 作曲法(編曲法含む)	出田 敬三	単独	2単位	音楽学科・こども学科 3年次	後期	選択	必修		選択必修	AB
授業のテーマ及び到達目標	授業計画									
作曲の基礎とその応用について理解し、幅広いジャンルの作曲・編曲技法を修得し、様々な現場において対応できる実践的な能力を身に付ける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	音楽の流れ、様々な種類の音楽、作曲家と代表作品、音楽スタイル等の音楽の基礎知識を学ぶ	シラバスの熟読	課題演習 ノート整理	9	合唱の種類と編成、二部合唱、三部合唱、混声合唱の編成、合唱の伴奏	課題実習	課題演習 ノート整理		
	2	音楽の三要素、音階についてⅠ、Motivとその発展、一部形式	課題実習	課題演習 ノート整理	10	様々な形式の楽曲のアナリゼ	課題実習	課題演習 ノート整理		
	3	主要三和音、カデンツ、二部形式、三部形式	課題実習	課題演習 ノート整理	11	ソナタ形式、楽曲のアナリゼ	課題実習	課題演習 ノート整理		
	4	音階についてⅡ、副三和音、和音の転回形、非和音、借用和音	課題実習	課題演習 ノート整理	12	各楽器の特徴と音域、合奏作品分析、合奏編曲についての実習(リード合奏・アンサンブル)	課題実習	課題演習 ノート整理		
授業の概要										
作曲の基礎とその応用について講義する。第一に、メロディーの作り方、和音のつけ方、対位法、変奏の方法、各々の楽器・声(歌・合唱)の活かし方について講義を行う。第二に、編曲の実習を行う。ジャンルは合唱曲及び、小編成の楽器アンサンブル、吹奏楽などのクラシックからポピュラーまで。	5	基本的なピアノ伴奏型と楽譜の書き方、様々な伴奏形態	課題実習	課題演習 ノート整理	13	各楽器の特徴と音域、合奏作品分析、合奏編曲についての実習(吹奏楽・管弦楽)	課題実習	課題演習 演奏の準備		
	6	メロディーと歌詞について	課題実習	課題演習 ノート整理	14	実習課題の発表(歌曲・アンサンブル・コラボレーション)	演奏の準備	提出課題の準備 講義ノートのまとめ		
	7	コードネームと和音記号、反復進行、副旋律	課題実習	課題演習 ノート整理	15	基礎的な作曲・編曲の技術、音楽全般の常識についてまとめる	授業のまとめ	提出課題の準備 講義ノートのまとめ		
	8	コードネームによるハーモニーの付け方と編曲	課題実習	課題の演習 ノート整理	備考 ※音楽学科・音楽文化コミュニケーション専攻は必修科目。音楽学科・演奏表現専攻は、選択科目。こども学科は、選択科目。					
教科書・テキスト等	授業毎にプリントを配布			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					定期試験 課題/レポート 平常点(態度・行動観察)	80% 10% 10%	筆記試験、作品提出 作品提出 積極的な授業や課題への取り組み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M4C55 管弦楽法	柏尾 剛徳	単独	2単位	音楽学科 4年次	後期	※				ABCDE
授業のテーマ及び到達目標	授業計画									
<p>基本的には管弦楽のスコア（総譜）を読み取ること目標とする。そのために必要な知識（各楽器の特徴等を理解する）を得ることができ、楽曲の創作および編曲する術を学ぶことができる。</p> <p>授業の概要</p> <p>管弦楽法（オーケストレーション）を学ぶには弦楽器・管楽器・打楽器を知る必要がある。従って各楽器について学び、楽曲の例を探り上げ、スコアリーディングおよびアナライズをし、編曲を試み、よりオーケストレーションに親しめるように実践・応用していく。</p>	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	導入および弦楽器① (弦楽器の種類他)	管弦楽編成の楽器を調べる	弦楽器についての復習等	9	ハープと鍵盤楽器① (ハープ)	ハープについて調べる	ハープについての復習等		
	2	弦楽器② (各種奏法と曲例他)	弦楽器の特徴等を調べる	弦楽器についての復習等	10	ハープと鍵盤楽器② (鍵盤楽器)	鍵盤楽器について調べる	鍵盤楽器についての復習等		
	3	木管楽器① (定義・移調楽器・編成他)	木管楽器について調べておく	木管楽器についての復習	11	実習① (総譜の書き方実例と研究他)	スコアを読んでおく	総譜を書いてみる		
	4	木管楽器② (フルート・オーボエ・クラリネット・ファゴットと曲例他)	木管楽器の特徴がわかる曲を聴く	木管楽器についての復習	12	実習② (編曲の実例と研究他)	編曲作品を研究しておく	楽曲を編曲してみる		
	5	金管楽器① (定義・バルブとスライド・倍音他)	金管楽器について調べておく	金管楽器についての復習等	13	実習③ (実践と応用他①)	これまでの学びを基に作品を研究しておく	様々な楽曲を参考にし、比べてみる		
	6	金管楽器② (ホルン・トランペット・トロンボーン・チューバと曲例他)	金管楽器の特徴が分かる曲を聴く	金管楽器についての復習等	14	実習④ (実践と応用他②)	これまでの学びを基に作品を研究しておく	様々な楽曲を参考にし、比べてみる		
	7	打楽器① (種類と奏者他)	打楽器について調べておく	打楽器についての復習等	15	総まとめ	すべてのおさらいをしておく。	総括と反省		
8	打楽器② (ティンパニ・太鼓・音律の有り無し他)	打楽器の特徴が分かる曲を聴く	打楽器についての復習等	備考 ※作曲コース・電子キーボードコース必修						
教科書・テキスト等	新総合音楽講座8「管弦楽法概論」(ヤマハ音楽振興会)		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等	[完本] 管弦楽法(音楽之友社), 管弦楽法(音楽之友社)			作品提出 課題/小テスト	70%	理解した上で作品が書けているかどうか 内容の理解度				
				平常点	20%	授業態度・積極的姿勢等				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M3T60 西洋音楽史 I	木村 博子	単独	2単位	音楽学科 3年次	前期	選択			選択必修	A B C E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
オペラの歴史を学ぶことにより、音楽と他芸術の関係性および音楽の社会性について理解し、演奏や創作などにおいてより豊かな芸術表現が行えるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	ガイダンス：オペラとは何か	シラバスを熟読する。	オペラ史の大きな流れをまとめる。	9	モーツァルトのオペラ～概説	モーツァルトの生涯をまとめる。	授業中に紹介した作品のうち一つを全曲視聴する。		
	2	古代ギリシアの演劇と中世の音楽劇	ギリシア演劇について調べる。	古代ギリシアの音楽論についてまとめる。	10	モーツァルトのオペラ①～『フィガロの結婚（前半）』の解説と分析。	『フィガロの結婚』のあらすじを調べる。	『フィガロの結婚』全曲を視聴する。		
	3	ルネサンスの宮廷音楽劇～インテルメディオとバレエの発祥	イタリア・ルネサンスの歴史について調べる。	インテルメディオについて調べる。	11	モーツァルトのオペラ②～『フィガロの結婚（後半）』の解説と分析。	『フィガロの結婚』全曲の別バージョンを視聴する。	演出による違いをまとめる。		
	4	オペラの創始～カメラータの試みとモンテヴェルディ	モンテヴェルディの『オルフェオ』を視聴する。	モンテヴェルディについて調べる。	12	モーツァルトのオペラ③～『ドン・ジョヴァンニ』の解説と分析。	『ドン・ジョヴァンニ』のあらすじを調べる。	『ドン・ジョヴァンニ』全曲を視聴する。		
授業の概要	5	オペラの発展と社会～ヴェネツィア・オペラとナポリ派オペラ	ヴェネツィアとナポリについて調べる。	ダ・カーポ・アリアを歌う（イタリア歌曲集でよい）。	13	モーツァルトのオペラ④～『魔笛（第1幕）』の解説と分析。	『魔笛』のあらすじを調べる。	『魔笛』全曲を視聴する。		
	6	フランス、ドイツ、イギリスのパロックオペラ	ヴェルサイユ楽派について調べる。	オペラにおける言葉と音楽について考える。	14	モーツァルトのオペラ⑤～『魔笛（第2幕）』の解説と分析。	フリーメーソンについて調べる。	ジグシュピールの発展をまとめる。		
	7	オペラハウスの構造とオペラの上演形態～18世紀の社交と音楽	オペラハウスについて調べる。	18世紀のイタリア社会について調べる。	15	授業のまとめ～授業内容を振り返り、全体の流れを再確認する。質疑応答も行う。	これまでの内容を整理し、疑問点を把握する。	課題レポートを作成する。		
	8	オペラ・セリアとオペラ・ブッフ	ヘンデル『ジュリオ・チェーザレ』を視聴する。	ベルゴレージ『奥様女中』を視聴する。						
教科書・テキスト等	プリント配布		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等	授業中に適宜指示			平常点（態度・行動観察） 課題 / レポート	30% 70%	事前・事後学修に基づく意見や疑問への発言 レポート書式での作成、テーマに沿った内容				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M3T61 西洋音楽史 II	木村 博子	単独	2単位	音楽学科 3年次	後期	選択			選択必修	A B C E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
オペラおよびオペレッタ、ミュージカルの歴史を学ぶことにより、音楽と他芸術の関係性および音楽の社会性について理解し、演奏や創作などにおいてより豊かな芸術表現が行えるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	ベートーヴェンと社会～『フィデリオ』とフランス革命	フランス革命について調べる。	『フィデリオ』全曲を視聴する。	9	オペレッタの世界～世紀末ウィーンとパリ	『こうもり』のあらすじを調べる。	『カルメン』全曲を視聴する。		
	2	ウェーバーの『魔弾の射手』～ロマン派ののり	『魔弾の射手』のあらすじを調べる。	『魔弾の射手』全曲を視聴する。	10	アメリカ音楽概説～クラシックとポピュラーの混濁、ジャズの誕生	アメリカ社会について調べる。	『ボーギーとベス』全曲を視聴する。		
	3	ワグナーの楽劇論～総合芸術作品としてのオペラ	ワグナーの生涯を調べる。	配布資料を熟読する。	11	モダンバレエの興隆とミュージカルの誕生～歌・踊り・芝居はどのように統合されたか	モダンバレエの歴史を調べる。	『ウェスト・サイド・ストーリー』全曲を視聴する。		
	4	ワグナーの作品～『ニーベルングの指環』	『ニーベルングの指環』のあらすじを調べる。	『ニーベルングの指環』の中の一作を視聴する。	12	映画とミュージカル～『サウンド・オブ・ミュージック』『マイ・フェア・レディ』『シンドバッドの雨傘』	左記3作のあらすじを調べる。	左記3作を視聴する。		
授業の概要	5	フランスのグランドオペラ～ブルジョワ社会と音楽	19世紀のパリ社会について調べる。	グノーの『ファウスト』全曲を視聴する。	13	ミュージカルと社会～アメリカ社会とミュージカル	『ウェスト・サイド・ストーリー』を再度視聴する。	『キャッツ』を視聴する。		
	6	ベルカント・オペラの世界～ロシーニ、ペリーニ、ドニゼッティのオペラ	『セビリアの理髪師』全曲を視聴する。	『ノルマ』または『愛の妙薬』を全曲視聴する。	14	日本のオペラとミュージカル～浅草オペラから劇団四季まで	日本におけるオペラ、オペレッタの歴史を調べる。	日本のミュージカルについてまとめる。		
	7	ヴェルディとイタリア社会～『アイダ』に見る人間心理	19世紀のイタリア社会について調べる。	『アイダ』全曲を視聴する。	15	まとめ～これまでの流れを振り返り、授業内容を復習する。	疑問点を書き出す。	課題レポートを作成する。		
	8	プッチーニとヴェリズモ・オペラ～世紀末的表現	ヴェリズモ・オペラについて調べる。	『トスカ』全曲を視聴する。						
教科書・テキスト等	プリント配布		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等	授業中に適宜指示			平常点（態度・行動観察） 課題 / レポート	30% 70%	事前・事後学修に基づく意見や疑問への発言 レポート書式での作成、テーマに沿った内容				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M3C33 音楽科の授業設計と指導法Ⅰ	岩山 恵美子	複数	2単位	音楽学科 3年次	前期	選択	必修			A B C E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
「学習指導要領の内容を理解し、生徒の思考を促すような授業設計と指導法を探ろう」	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
<p>学習指導要領の内容を読み解くことを通して、身につけさせたい資質・能力について理解を深める。また、教材「浜辺の歌」の模擬授業と検討会を通して、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくりについての理解とその方法を身につけることができる。</p> <p>授業の概要</p> <p>生徒主体の授業のあり方や深い学びについて考える。「花の街」を教材とした授業を構想し、題材観や指導観などを整理し、学習指導案にまとめる。御船町教育委員会及び嘉島町教育委員会と提携して行う学校支援ボランティア活動を通して、生徒への理解を深め、生徒主体の学習展開を工夫する。</p>	1	生徒主体の授業のあり方について・主体的に学習に取り組む姿勢とは	シラバスを熟読しておく	「生徒主体の授業」について自分の考えをまとめる	9	本時の目標と学習展開	本時の主な学習活動を確認しておく	「本時／展開案」をまとめる		
	2	深い学びの実現のために・音楽科の「見方・考え方」・「生徒の学び」への視点の転換を	配付資料を熟読しておく	「深い学び」について自分の考えをまとめる	10	主体的・対話的な学習の工夫	配付資料を読んでおく	「本時／展開案」をまとめる		
	3	音楽科の目標と指導内容	学習指導要領解説の当該箇所を熟読しておく	学年レベルで目標と指導内容を一覧にまとめる	11	学びを助ける情報機器の活用	利用できそうな教育機器について考えておく	必要な視聴覚教材を作成する		
	4	「浜辺の歌」の教材研究・作曲された時代背景を踏まえて	「浜辺の歌」の弾き歌いができるように練習しておく	「浜辺の歌」の教材としての価値をまとめる	12	学びを振り返る評価の工夫	振り返りの観点を考えておく	振り返りができる学習カードを作成する		
	5	指導案の形式と指導案作成・題材設定の理由	配付資料を読んでおく	「題材設定の理由」をまとめる	13	模擬授業（代表者A）と検討会	模擬授業の準備をしておく	討議内容について自分なりの考えをまとめる		
	6	思春期の音楽学集と生徒観	配付資料を読んでおく	自分なりに想定した学級の生徒の実態をまとめる	14	模擬授業（代表者B）と検討会	模擬授業の準備をしておく	討議内容について自分なりの考えをまとめる		
	7	系統観と指導観	教科書教材（歌唱）の指導内容を確認しておく	「指導観」を考え、まとめる	15	授業設計の改善と修正 レポート課題の提示	配付資料を読んでおく	自分の指導案を修正する		
	8	評価規準と指導計画	評価規準を自分なりに作っておく	「指導計画」をまとめる						
教科書・テキスト等	中学校学習指導要領解説音楽編（平成29年）（教育芸術社）、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校音楽（東洋館出版）、中学生の音楽 1、中学生の音楽 2・3上、中学生の音楽 2・3下（教育芸術社）			成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価のポイント			
参考書・参考資料等					レポート	40%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え			
					課題検討の取り組み	40%	事前事後学修の内容や意見の深まり			
					教育支援ボランティア	10%	ボランティアの取り組みと生徒理解			
					毎時間の振り返り	10%	課題についての理解度、自分の考え			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M3C34 音楽科の授業設計と指導法Ⅱ	岩山 恵美子	複数	2単位	音楽学科 3年次	後期	選択	必修			A B C E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
「学習指導要領の内容を理解し、深い学びを促すような授業設計と指導法を探ろう」	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
<p>学習指導要領B鑑賞の指導内容を読み解くことを通して、身につけさせたい資質・能力について理解を深める。また、「魔王」と「日本の伝統音楽」を教材とした模擬授業とその検討会を通して、主体的・対話的で深い学びの視点に立った鑑賞領域の授業づくりについての理解を深めることができる。</p> <p>授業の概要</p> <p>生徒主体の授業のあり方や深い学びについての考えを深める。教材「魔王」「雅楽」「能・狂言」「文楽」「歌舞伎」の指導案作成と模擬授業及び検討会を通して、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくりについての理解を更に深め、指導法を工夫することができる。学校支援ボランティア活動を通して得た、生徒の実態を踏まえ、深い学びを促す授業づくりを工夫する。</p>	1	鑑賞の指導・鑑賞活動と言語活動	シラバスを熟読しておく	「鑑賞活動と言語活動」について自分の考えをまとめる	9	選択した教材についての教材研究・「雅楽」「能・狂言」「文楽」「歌舞伎」から選択	選択した教材を視聴しておく	選択した教材の特徴と教材としての価値をまとめる		
	2	鑑賞と表現の関連	配付資料を熟読しておく	「鑑賞と表現の関連」について自分の考えをまとめる	10	教材との出会いの工夫・課題を生徒がつくるには・視聴覚教材の活用	導入の学習活動を考えておく	学習活動と教師の支援をまとめ、教材を作成する		
	3	「魔王」の教材研究	「魔王」を視聴し、内容をまとめておく	「題材設定の理由」をまとめる	11	模擬授業「雅楽」と検討会	模擬授業の準備をしておく	検討会の内容をもとに、自分の指導案を修正する		
	4	聴き深める学習の工夫	おおまかな活動の流れを考えておく	学習指導案を作成する	12	模擬授業「能・狂言」と検討会	模擬授業の準備をしておく	検討会の内容をもとに、自分の指導案を修正する		
	5	ICTを活用した授業の事例研究	学習指導要領解説の当該箇所を読んでおく	「ICT活用の意義」をまとめる	13	模擬授業「文楽」と検討会	模擬授業の準備をしておく	検討会の内容をもとに、自分の指導案を修正する		
	6	学習活動と教師の支援・教育機器や教材の工夫	授業に必要な視聴覚教材等を準備しておく	使用予定の視聴覚教材の内容を精選する	14	模擬授業「歌舞伎」と検討会	模擬授業の準備をしておく	検討会の内容をもとに、自分の指導案を修正する		
	7	視覚・音声教材の作成	視聴覚教材を使用する意図を確認しておく	視聴覚教材の作成を完了する	15	意見交換会「こんな音楽の授業を展開したい」 レポート課題の提示	発表内容をまとめておく	交換会での意見を参考に、自分なりの考えをまとめる		
	8	模擬授業「魔王」と検討会	模擬授業の準備をしておく	検討会の内容をもとに、自分の指導案を修正する						
教科書・テキスト等	中学校学習指導要領解説音楽編（平成29年）（教育芸術社）、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校音楽（東洋館出版）、中学生の音楽 1、中学生の音楽 2・3上、中学生の音楽 2・3下（教育芸術社）			成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価のポイント			
参考書・参考資料等					レポート	40%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え			
					課題検討の取り組み	40%	事前事後学修の内容や意見の深まり			
					教育支援ボランティア	10%	ボランティアの取り組みと生徒理解			
					毎時間の振り返り	10%	課題についての理解度、自分の考え			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M3N37 オペラ研究Ⅰ	桑原 理恵/セルセ・メディチ	複数	2単位	音楽学科 4年次	前期	選択				ABCDE
授業のテーマ及び到達目標	授業計画									
オペラの楽譜の読み取り方(言葉・音楽・背景)を習得し、それに則した歌唱表現ができるようになる。学習した題材は研究発表する。 *本学附属機関「熊本オペラ芸術協会」主催の演奏会での演奏も研究発表のひとつに含む。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	授業内容の説明 課題作品の時代背景・登場人物について	シラバスを読み授業の概要を確認する	課題作品について調べる	9	課題曲5・6 (音楽的基礎部分の確認)	台詞を読み、正確に歌唱できるように練習する	指導内容と課題点をまとめる		
	2	課題曲1・2 (歌詞の台詞読み・歌唱)	発音練習、台詞・譜読みを行う	指導内容と課題点をまとめる	10	課題曲5・6 (アンサンブルの確認)	相手のパートを意識して正確に歌えるように練習する	指導内容と課題点をまとめる		
	3	課題曲1・2 (音楽的基礎部分の確認)	台詞を読み、正確に歌唱できるように練習する	指導内容と課題点をまとめる	11	課題曲1～6 (アンサンブルパートナーの決定)	自分のパートの役割を捉え正確に歌えるように練習する	指導内容と課題点をまとめる		
	4	課題曲1・2 (アンサンブルの確認)	相手のパートを意識して正確に歌えるように練習する	指導内容と課題点をまとめる	12	課題曲1～6 (役柄の特徴とアンサンブル)	役柄の特徴を考察しパートナーと歌唱練習する	指導内容と課題点をまとめる		
授業の概要	5	課題曲3・4 (歌詞の台詞読み・歌唱)	発音練習、台詞・譜読みを行う	指導内容と課題点をまとめる	13	課題曲1～6 (内容表現の考察)	作品の内容表現を考察しパートナーと歌唱練習する	指導内容と課題点をまとめる		
モーツァルトをはじめとするオペラから場面を取り出し、それぞれの声質に合った役のレチャタヴィヴォ、アリア、アンサンブルを研究する。	6	課題曲3・4 (音楽的基礎部分の確認)	台詞を読み、正確に歌唱できるように練習する	指導内容と課題点をまとめる	14	課題曲1～6 (アンサンブルの仕上げ)	暗譜して表現できるようにパートナーと歌唱練習する	指導内容と課題点をまとめる		
	7	課題曲3・4 (アンサンブルの確認)	相手のパートを意識して正確に歌えるように練習する	指導内容と課題点をまとめる	15	まとめ (演奏発表と講評)	役柄の所作をイメージしてパートナーと歌唱練習する	演奏録音から自分の課題点をまとめる		
	8	課題曲5・6 (歌詞の台詞読み・歌唱)	発音練習、台詞・譜読みを行う	指導内容と課題点をまとめる	備考 ※音楽コースは履修が望ましい。オペラ研究Ⅱをあわせて履修すること。					
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					平常点(態度・行動観察)	50%	作品の内容と歌唱の予習、授業への取り組み			
					期末テスト	50%	演技・アンサンブル・音楽的表現			
参考書・参考資料等										

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M3N38 オペラ研究Ⅱ	桑原 理恵・大島 尚志・岩本 貴文	複数	2単位	音楽学科 4年次	後期	選択				ABCDE
授業のテーマ及び到達目標	授業計画									
オペラの楽譜の読み取り方(言葉・音楽・背景)を習得し、それに則した歌唱と演技ができるようになる。学習した題材は研究発表する。 *本学附属機関「熊本オペラ芸術協会」主催の演奏会での演奏も研究発表のひとつに含む。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	授業内容の説明 課題作品の役柄・作品についての考察	課題曲の練習 役柄・作品について調べる	自分の演じる役柄についてまとめる	9	課題曲1～6 (立ち稽古/歌詞からの演技考察)	共演者との練習	指導内容と課題点を共演者とまとめる		
	2	課題曲1～6 (音楽練習/歌唱による劇の表現)	課題曲の練習	指導内容と課題点をまとめる	10	課題曲1～6 (立ち稽古/音楽からの演技考察)	共演者との練習	指導内容と課題点を共演者とまとめる		
	3	課題曲1～6 (音楽練習/譜面から動きを探る)	課題曲の練習	指導内容と課題点をまとめる	11	課題曲1～6 (立ち稽古/歌詞と音楽と演技の関係)	共演者との練習	指導内容と課題点を共演者とまとめる		
	4	課題曲1～6 (音楽練習/動きを意識したアンサンブル)	共演者との練習	指導内容と課題点を共演者とまとめる	12	課題曲1～6 (立ち稽古/相手とのコミュニケーションの取り方)	共演者との練習	指導内容と課題点を共演者とまとめる		
授業の概要	5	課題曲1～6 (表現練習/役柄による動きの違い)	共演者との練習	指導内容と課題点を共演者とまとめる	13	課題曲1～6 (立ち稽古/歌唱・演技での対話表現)	共演者との練習	指導内容と課題点を共演者とまとめる		
オペラ研究Ⅰで取り組んだ作品の役を演じるために必要な心理的動きに伴う所作を研究し演技力を身につける。また舞台上必要なマナー、コミュニケーションを学ぶ。	6	課題曲1～6 (表現練習/台詞と動き)	共演者との練習	指導内容と課題点を共演者とまとめる	14	課題曲1～6(仕上げ)	共演者との練習	指導内容と課題点を共演者とまとめる		
	7	課題曲1～3 (舞台での基本的な動き・荒立ち稽古)	共演者との練習	指導内容と課題点を共演者とまとめる	15	まとめ (衣裳・道具をつけての舞台発表と講評)	共演者との練習	演奏録画から自分の課題をまとめる		
	8	課題曲4～6 (舞台での基本的な動き・荒立ち稽古)	共演者との練習	指導内容と課題点を共演者とまとめる	備考 ※音楽コースは履修が望ましい					
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					平常点(態度・行動観察)	50%	作品の内容と歌唱の予習、授業への取り組み			
					期末テスト	50%	演技・アンサンブル・音楽的表現			
参考書・参考資料等										

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
VM3M3N39 歌曲研究Ⅰ（ドイツ歌曲）	白川 深雪	単独	2単位	音楽学科 3年次	前期	選択				A B D E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
ドイツ語の発音とリズムを習得し、詩の内容を理解した上で流暢に詩を朗読することができる。言葉（語感）を活かし、詩の内容を歌唱表現することができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	授業内容の説明およびドイツ歌曲の歴史	シラバスを読み授業の概要を確認する	課題曲の作曲家について調べる	9	ロマン派作曲家のドイツ歌曲課題1（発音練習・歌唱法）	課題曲の歌詞の発音練習と歌唱練習をする	指導内容と課題点をまとめる		
	2	ドイツ語の発音と詩について	教科書等の発音表をみて発音練習する	発音の仕方をまとめる	10	ロマン派作曲家のドイツ歌曲課題1（詩の朗読と内容研究）	詩を朗読し歌詞の内容を考察する	指導内容と課題点をまとめる		
	3	古典派作曲家のドイツ歌曲課題1（発音練習・歌唱法）	課題曲の歌詞の発音練習と歌唱練習をする	指導内容と課題点をまとめる	11	ロマン派作曲家のドイツ歌曲課題1（仕上げ）	作品の演奏スタイルを考察し歌唱練習する	指導内容と課題点をまとめる		
	4	古典派作曲家のドイツ歌曲課題1（詩の朗読と内容研究）	詩を朗読し歌詞の内容を考察する	指導内容と課題点をまとめる	12	ロマン派作曲家のドイツ歌曲課題2（発音練習・歌唱法）	課題曲の歌詞の発音練習と歌唱練習をする	指導内容と課題点をまとめる		
授業の概要	5	古典派作曲家のドイツ歌曲課題1（仕上げ）	作品の演奏スタイルを考察し歌唱練習する	指導内容と課題点をまとめる	13	ロマン派作曲家のドイツ歌曲課題2（詩の朗読と内容研究）	詩を朗読し歌詞の内容を考察する	指導内容と課題点をまとめる		
ドイツ歌曲における唱法を発音・詩の持つ意味がどのように絡みあっているか、また伴奏と歌とのアンサンブルにも重点をおきながら表現法を探っていく。	6	古典派作曲家のドイツ歌曲課題2（発音練習・歌唱法）	課題曲の歌詞の発音練習と歌唱練習をする	指導内容と課題点をまとめる	14	ロマン派作曲家のドイツ歌曲課題2（仕上げ）	作品の演奏スタイルを考察し歌唱練習する	指導内容と課題点をまとめる		
	7	古典派作曲家のドイツ歌曲課題2（詩の朗読と内容研究）	詩を朗読し歌詞の内容を考察する	指導内容と課題点をまとめる	15	古典派・ロマン派の課題曲から各1曲演奏の考察を発表	演奏曲についての考察をまとめる	演奏録音から自分の課題点をまとめる		
	8	古典派作曲家のドイツ歌曲課題2（仕上げ）	作品の演奏スタイルを考察し歌唱練習する	指導内容と課題点をまとめる	備考 ※声楽コースは履修が望ましい					
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					平常点（態度・行動観察） 実技試験	50% 50%	詩の朗読や内容の予習、授業への取り組み ドイツ語の発音・演奏表現の追求と内容考察			
参考書・参考資料等										

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
VM3M3N40 歌曲研究Ⅱ（日本歌曲）	赤池 優	単独	2単位	音楽学科 3年次	後期	選択				A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
日本語の語感をもって表現豊かに詩を朗読できる。日本語の語感を活かし、内容を表現した歌唱ができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	ガイダンス（授業内容の説明及び日本歌曲の歴史）	シラバスを読み、授業の概要を確認する	演習の復習	9	日本歌曲課題3（発音練習、課題曲の歌唱）	課題曲の練習と作品についての予習	演習の復習		
	2	日本語の発音と詩について（日本語の発音及び詩の内容を読みとる方法について）	詩の朗読	演習の復習	10	日本歌曲課題3（詩の朗読と内容研究、課題曲の歌唱）	課題曲の練習	演習の復習		
	3	日本歌曲課題1（日本語の語感を捉えた詩の朗読、課題曲の歌唱）	日本語の発音練習・課題曲の練習	演習の復習	11	日本歌曲課題3（詩の朗読と課題曲の歌唱（仕上げ））	課題曲の練習	演習の復習		
	4	日本歌曲課題1（詩の朗読と内容研究、課題曲の歌唱）	課題曲の練習と作品についての予習	演習の復習	12	日本歌曲課題4（発音練習、課題曲の歌唱）	課題曲の練習と作品についての予習	演習の復習		
授業の概要	5	日本歌曲課題1（詩の朗読と課題曲の歌唱（仕上げ））	課題曲の練習	演習の復習	13	日本歌曲課題4（詩の朗読と内容研究、課題曲の歌唱）	課題曲の練習	演習の復習		
日本歌曲における唱法を詩のもつ意味と発音が旋律とどう絡み合っているか、また伴奏と歌とのアンサンブルにも重点をおきながら表現法を探っていく。	6	日本歌曲課題2（発音練習、課題曲の歌唱）	課題曲の練習と作品についての予習	演習の復習	14	日本歌曲課題4（詩の朗読と課題曲の歌唱（仕上げ））	課題曲の練習	演習の復習		
	7	日本歌曲課題2（詩の朗読と内容研究、課題曲の歌唱）	課題曲の練習	演習の復習	15	まとめ（日本歌曲課題1曲演奏／演奏曲の考察発表）	課題曲の練習	今期学んだことについてまとめる		
	8	日本歌曲課題2（詩の朗読と課題曲の歌唱（仕上げ））	課題曲の練習	演習の復習						
教科書・テキスト等	授業時に指示する			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					実技試験 平常点（態度・行動観察）	50% 50%	日本語の発音、演奏表現の追求と内容考察 歌詞、詩の内容の予習・聴講時の取り組み			
参考書・参考資料等										

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M3T43 伴奏法Ⅲ	眞鍋 協子	単独	2単位	音楽学科 3年次	前期	選択			選択必修	ADE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
アンサンブルの基礎能力、耳の向上、総合的な音楽能力の向上・積極的に伴奏を行い、自分の力で様式感に合ったバランスの良い演奏ができるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	授業内容のオリエンテーション（授業計画と伴奏への認識について）	シラバスを読み、授業の概要を確認する	指定された楽譜を準備しておく	9	日本の抒情を表現するテクニックを学ぶ	フレーズを意識し練習する	指導された事柄をまとめ、復習しておく		
	2	岡野貞一の作品を題材に歌詞を味わい、その情景と伴奏パートの関連性について学ぶ	教材曲について調べ、練習する	曲の課題をまとめておく	10	ハーモニーを支えるバスパートの重要性を感じる	曲の内容と音色の関連性に留意し練習する	技術および表現法の改善に取り組み		
	3	全体の音量を支えるバスパートの重要性を認識する	歌パートを意識し練習する	歌詞の情景の表現法を復習する	11	滝廉太郎の人物像と作品について考察する	有節歌曲の表現上の工夫をまとめる	歌詞の意味・曲の特徴をまとめておく		
	4	ピアノのハーモニーの中に歌があることを感じる	ハーモニーを意識し練習する	技術および表現法の改善に取り組み	12	歌と伴奏パートの関連性について学ぶ	伴奏パートの音型の意図するものについて考えておく	歌詞の意味・曲の特徴をまとめておく		
授業の概要										
ピアノ奏法の要点、役割、方法等を研究する。色々な人の演奏を聴き合うことにより、良い伴奏とはどのようなものかを確認していく。	5	山田耕筰の作品を題材に、歌のパートを歌い、そのドラマを感じピアノに活かす	教材曲について調べ、練習する	曲の課題をまとめておく	13	言葉とメロディー、伴奏に求められるものを考察する	表現法の工夫についてまとめておく	技術および表現法に取り組み		
	6	ハーモニーや拍子の変化を味わう	歌パートとのバランスを意識し練習する	歌詞の情景の表現法を復習する	14	中田喜直の作品を題材に、華麗なピアノリズムと表現のドラマ性を学ぶ	教材曲について調べ、練習する	情景と音色の結びつきをまとめておく		
	7	美しいメロディーを美しい音で表現する	表現法の工夫についてまとめておく	技術および表現法の改善に取り組み	15	音型によってどのような世界を作り出していくか研究する	指示された内容まで到達するよう練習する	授業で学んだことをまとめる		
	8	大中貞二の作品を題材に、音楽だけではなく言葉の意味、大切さを感じ理解する	教材曲について調べ、練習する	歌詞の意味・曲の特徴をまとめておく						
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
				定期試験	50%	実技発表への取り組み、成果				
				平常点（態度・行動観察）	50%	授業中の積極的な参加、練習状況				
参考書・参考資料等										

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M3T44 伴奏法Ⅳ	眞鍋 協子	単独	2単位	音楽学科 3年次	後期	選択			選択必修	ACEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
初級向けの楽曲指導についての講義を通して、指導者として必要な様々な知識と、レッスンを円滑に行うための能力を実践的に身につけることを目標とする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	指導法概論、アンケート等	シラバスを読み、授業の概要を確認する	指示された楽譜等を準備する	9	基礎的ピアノ奏法①（運指の考え方、姿勢等）	指示されたバロック作品を練習する	様式感をふまえた表現法についてまとめる		
	2	入門教材の研究	指示された事柄について調べてくる	読譜についてまとめる	10	基礎的ピアノ奏法②（スケール、アルペジオ等の効果について）	指示された小品を練習する	表現法の変化についてまとめる		
	3	初級者向けの教材研究①	指示された導入教材を読んでおく	指導例を熟読する	11	楽語（発想記号、速度記号、強弱記号等）の解釈について	指示された小品を練習する	様式感を引き出す指導案をまとめる		
	4	初級者向けの教材研究②	テクニック上、難しい場所を確認しておく	指導例を熟読し、まとめる	12	楽語（発想記号・速度記号・強弱記号等）の解釈について①	今まで学修した曲の楽譜をそろえ、練習する	バロック期の作風、表現法をまとめる		
授業の概要										
初級者のための教材、メソッドについて学び、ピアノ指導に必要な基本的指導法等を体験、考察する。初級向けの楽曲指導を実践的に学ぶ。	5	子どもの感性を養うために	指示された導入教材を読んでおく	リズム唱の意義についてまとめる	13	変奏曲の特色について	指示されたバロック期の教材を練習する	課題曲についてまとめる		
	6	バロック期の作品の研究	指示されたバロック教材を練習する	各曲の指導法を考察する	14	ソルフェージュ、エチュードに沿ったアプローチ法について	教材曲を練習する	講義内容の整理および指導者としての理念をまとめる		
	7	カデンツの復習	五線譜を準備する	復習したカデンツをノートにまとめる	15	まとめ	今まで学修した曲を復習しておく	学びの総まとめをする		
	8	身体の使い方等、楽器演奏の基本的な事柄について	指示されたエチュードを練習する	技術と表現の関連性をまとめる						
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
				発表	50%	学修課題の理解・修得				
				平常点（態度・行動観察）	50%	授業中の積極的な参加				
参考書・参考資料等										

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
対位法	西林 博子	単独	2単位	音楽学科 4年次	前期	※				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
基礎的な対位法を理解し、課題の実施ができる。 ポリフォニーに関する楽曲に関心が持ち、創作や演奏に於ける表現力の充実を目指す。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	ポリフォニーの変遷と20世紀以降の応用的楽曲を考察	対位法、及びポリフォニーとは何か調べておく	本時で取り上げた曲と類似した作品を探す	9	1:1、1:2、1:4の総括と確認テスト	1:1、1:2、1:4の復習		課題の実施	
	2	対位法成立の要因である旋律について考察する	テキストの第1章及び第2章を読む	全音符のみによる旋律を作成	10	移調対位法を学ぶ	テキスト第3章の構留を理解し、第9章を読む		課題の実施	
	3	1:1の理論を学ぶ	テキスト第6章を読む	課題の実施	11	華麗対位法を学ぶ	テキスト第10章を読む		課題の実施	
	4	1:1による二声対位法を実施する	テキスト第6章を読む	課題の実施	12	種々のカノンについて学ぶ	テキスト第13章を読む		・カノンを採用した作品を探す ・プレアンブル	
授業の概要	5	1:2の理論を学ぶ	テキスト第7章を読む	課題の実施	13	バッハのインヴェンションを考察する	シンフォニア2・6・7・14を聴き、分析を試みる		インヴェンション4番を分析する	
二声の対位法を学ぶと共に、バッハの作品を考察することにより、ポリフォニーに対するより深い意識を以て、日頃接する楽曲の理解力を高める。	6	1:2の二声対位法を実施する	テキスト第7章を読む	課題の実施	14	インヴェンション4番の総括 シンフォニアを考察する	シンフォニア2・6・7・14を聴き、分析を試みる		他のインヴェンションとシンフォニアの考察を試みる	
	7	1:3の二声対位法を実施する (テキストには掲載なし)	非和声音について調べ、テキスト第3章を読む	課題の実施	15	ホモフォニック作品に於けるポリフォニー様式を考察する	第4～第5章を読む。本時の内容と同様の楽曲を探す		授業を通して培った内容を総括的に振り返りまとめる	
	8	1:4の二声対位法を実施する	テキスト第8章を読む	課題の実施	備考 ※作曲コース・電子キーボードコース必修					
教科書・テキスト等	名曲で学ぶ対位法(音楽之友社)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					平常点(態度・行動観察)	10%	学びに対する積極的な姿勢と言動			
					課題の実施 / 発表	30%	課題の完成度の高さ / 積極的な発表内容			
参考書・参考資料等					筆記試験	60%	課題の完成度			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M1N49 卒業研究(音楽)	桑原 理恵 他	クラス分け	4単位	音楽学科 4年次	前期～後期	必修				A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授業計画									
楽曲を様々な角度から捉え理解を深め、演奏表現の向上に結びつける。また、自分が習得した技術や表現について文字や言葉で伝えることを習得する。	<p>【学修内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> これまでに学修してきたレパートリーや演奏能力などをもとに指導教員と年間の学修計画を立てる 作品の概要、時代背景等を探る 作曲家や楽曲様式について調べる 作品の演奏技術や表現を追求する 卒業試験曲（日本歌曲を含む）について考察したことを演奏レポートとして作成、提出する <p>〔形式〕 形式は自由。1ページを1200字とした場合、3～10ページを目安とする。（ページを明記のこと）</p> <p>〔提出期限〕 2023年 1月 27日（金）17時30分</p> <p>〔提出窓口〕 教務課窓口 *必ず本人が提出すること。</p>									
授業の概要	声楽実技研究で取り組む楽曲に関する研究を行う。自分が演奏する作品の歴史、作曲家、作詞者、演奏技法などの研究を行う。また、様々なジャンルの芸術に触れ豊かな感性を育てる。									
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に提示	成績評価基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等			卒業試験曲の演奏レポート	30%	内容の深さと充実、論旨の一貫性等					
			口頭試問	30%	研究動機・主体的取り組みの内容等					
			特別講座への取り組み	10%	主体性、積極性、追求性					
			実技試験	30%	演奏内容					

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M1N49 卒業研究(ピアノ)	松崎 伶子・川口 みさき 他	クラス分け	4単位	音楽学科 4年次	前期～後期	必修				A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授業計画									
音楽学科において、これまでに研究した演奏技術と音楽的表現をもとに、さらに高度な技術力、洞察力をつける。音楽作品を通して、深い芸術性と豊かな人間性を養う。	<p>前期</p> <p>これまでに学んできた実技の技術、理論に加えて、ステージで演奏するために更に深く音楽を追求し、それをもって学内演奏に臨む。</p> <p>後期</p> <p>学内演奏の経験を踏まえ、演奏法と楽曲の研究の両方から更なる研鑽を積む。卒業試験のために選んだ楽曲について、その作曲家の全体像にも触れ、作品の背景、様式上の特性を考慮しつつ、より完成度の高い演奏を目指す。</p>									
授業の概要	〔成績評価〕 1、卒業試験（実技試験・公開演奏）									
卒業年度に選んだテーマに沿って楽曲を選択し、作曲家の作品の歴史、様式、演奏技法等の研究を行う。4年間で修得した技術と奏法を舞台において発表する。	2、口頭試問：卒業試験（器楽実技研究Ⅷ）で演奏した曲の内容について口頭試問を行う。口頭試問は、事前に作曲家・作曲家の作品の歴史、様式、楽曲分析、演奏技法などをレポート用紙5枚程度に調べた上で、口頭試問に臨む。									
	3、学内、学外での演奏会、講座等の鑑賞や出演で評価する。									
	※提出期限 該当年度の1月31日（祝日の場合は翌週の月曜日） 17:30 提出窓口 教務課									
教科書・テキスト等		成績評価基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等			実技試験	30%	演奏内容					
			卒業試験曲の演奏レポート	30%	内容の深さ・主体的取り組み					
			口頭試問	30%	研究動機・研究内容に対する詳細な質問					
			特別講座への取り組み	10%	主体性・積極性・追求性					

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M1N49 卒業研究 (管弦打)	馬込 勇・柏尾 剛徳 他	クラス分け	4単位	音楽学科 4年次	前期～後期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
演奏表現を学ぶ者にとって重要なこととして、個々の楽器演奏の習得のみならず、歌劇他、多方面の芸術を実際に見聞することにより、深い芸術性を養うこと。さらに専攻楽器の専門性を磨くことに加え、管弦打楽器の知識を深め、	学修内容 1. 前期は学内演奏会、後期は卒業試験として公開試験となるので、それぞれに向けた選曲および、楽曲研究をする 2. 専攻楽器のレパートリーの研究をする ※3. 普段の実技とは違った角度でアナリゼを中心とし、楽曲の時代背景や作曲された経緯その他を研究し、レポートを提出する 4. その他、管弦打楽器の知識を深め、将来学校現場等で吹奏楽や管弦楽を指導することも想定し、様々な角度から研究を行う									
授業の概要 自らが選んだ楽曲に対し、作曲家自身の作品成立史・時代様式・技法等の研究を前提とする。4年間を通して習得した技能・知識を駆使し、一演奏家として舞台において発表することを意味する。学内演奏会・卒業試験が課される。	※3. のレポートについて ●形式：自由形式 ●サイズ：A4 ●文字数：1ページ1200字程度 ●枚数：3枚以上10枚以内 ●提出窓口：教務課 ●提出期限：別途定める									
教科書・テキスト等	担当教員から指示	成績 評価 基準	評価方法		割合 (%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等			課題／レポート (後期)		30%	上記3. についてのレポート内容				
			口頭試問 (後期)		30%	卒業試験の演奏曲についての質問に答える				
		特別講座への取り組み		10%	主体性・積極性・探求心					
		実技試験		30%	演奏内容					

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M1N49 卒業研究 (作曲)	出田 敬三 他	複数	4単位	音楽学科 4年次	前期～後期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
独創的で個性ある質の高い芸術作品を創作し、実際に音を出して再現、社会的に実践できる力をつける。 作品を通じて、奏者や聴衆と音楽的コミュニケーションを行うことで、自己の成長と音楽の美しさを追求し、地域社会の音楽文化の発展に寄与する。	①和声学 和声の実習。 ②対位法 バレストリーナスタイル、カノン更にはフーガまで学習する。 ③管弦楽法 a. 楽器学 b. 室内楽 c. 管弦楽 d. 吹奏楽 ④アナリゼ バロック、古典、ロマン、近現代の楽曲を分析する。 ⑤コード進行法 クラシックだけでなくポピュラーの楽曲のコード進行を分析し、更にはコードネーム無し一段譜による演奏を試みる。 ⑥様々な音楽形式の研究と創作 ⑦編曲 クラシックだけでなくポピュラーの楽曲をピアノまたは室内楽に編曲し、演奏する。 ⑧スコアリーディング 管弦楽 (総譜)、室内楽の視奏および分析。 ⑨鑑賞 週3曲以上の楽曲を鑑賞・レポートを作成・提出する。 ⑩ピアノ、キーボードによる即興演奏法。 ⑪作曲実習 自由なテーマによる作曲。 以上、11のテーマを通年にわたって行う。									
授業の概要 声楽曲 (合唱曲を含む)、器楽曲 (独奏、室内楽、オーケストラ等) の様々なジャンルの編成や楽器等とスタイルにより、これまでに習得した様々な作曲技法やイメージを生かし、独創的で個性ある芸術作品を創作する。また、それを実際に音を出して再現する。										
教科書・テキスト等	指導教員より指示	成績 評価 基準	評価方法		割合 (%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等			定期試験		80%	自作曲の質、表現の完成度、楽譜提出				
			平常点		20%	積極的な取り組み、演奏会の鑑賞・出演				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M1N49 卒業研究 (ミュージックパフォーマンス)	出田 敬三 他	複数	4単位	音楽学科 4年次	前期～後期	必修				A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
I 個々の実力に応じ、専攻実技の基礎技能を伸ばし、音楽表現力を身につける。 II 現代のニーズにあった演奏感覚を身につける。 III 音楽を通して、人間性豊かな情操を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 個々の専攻実技を、楽曲を通して学ぶ。専攻の幅広い理解のため、楽器について、歴史について学習する。楽曲の背景（作曲家、作詞者、時代等）について考察し、豊かな知識と表現力を身につける。 各専攻の理解と総合力を高めるため、ミュージカル、オペラ、ライブコンサート等、数多くの経験を積み、表現力を身につける。 各専攻の理解のため、コード、ハーモニー等の理論について学習する。他ジャンルとのコラボレーションを行い、個々の専攻（楽器）を活かすために、自作曲の創作、既成曲の編曲を行う。創作に必要な作曲技法・編曲技法を学ぶ。 オーケストラの楽曲の分析、奏法を考察することで、音楽力の幅を広げ、更に自己の演奏能力を生かし、豊かな音楽性を身につける。 									
授業の概要	個人の得意とする音楽表現を学び、専門性を高める。実技演習として、個々の専攻実技の基本的な奏法を、楽曲を通して学び、個々の専攻実技のレパートリーを広げる。また、専攻の幅広い理解のために、楽器について、歴史について研究し、コード、ハーモニー等の理論について研究する。									
教科書・テキスト等	個々の専攻実技により、適宜選択する。	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント					
参考書・参考資料等			実技試験 平常点	80% 20%	専門実技の習熟度 積極的な取り組み、演奏会への出演					

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M1N49 卒業研究 (サウンドデザイン)	出田 敬三・脇山 純・矢賀部 竜成 他	クラス分け	4単位	音楽学科 4年次	前期～後期	必修				A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
公開実技試験全体を一つのコンサートとして成功させる。(運営を含む) コンサートを表と裏から支える能力を養う。(企画、舞台、運営などのスタッフの仕事)	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	コンピュータの活用 音楽や映像で活用してきたコンピュータを更にいろいろな面で活用 ビジネス系のソフトも使う	マイクロソフト オフィスに慣れ ておく	マイクロソフト オフィスに慣れ ておく	9	共演（コラボレート） バンド活動をしていない学生にアンサンブルを体験	様々な形態の共演 を考える	共演をいろいろ な形で試してみ る		
	2	道具としてのコンピュータ	マイクロソフト オフィスに慣れ ておく	マイクロソフト オフィスに慣れ ておく	10	キーボードハーモニー、和声学などの知識を活用して曲を分析する	コードネームの 予習	コードの復習		
	3	いろいろな映像、音楽ソフトの操作をすばやく理解する能力	有名なフリーの ソフトを短期間 に使えるように する	授業で使ったソ フトの復習	11	キーボードハーモニー、和声学など知識を活用して、コードネームで分析する	スケールの予習 (アペイラブル ハートスケール)	スケールの復習		
	4	音に対する感性 CDなどで多くの曲を聞き、音色面から研究	多くの曲を聞き (好きな曲も嫌 いな曲)	サウンドを作っ てみる	12	オーケストレーション クラシック曲のオーケストラスコアの研 究	オーケストラに ついて予習	授業内容の復習		
授業の概要	5	幅広くオリジナル曲や編曲作品 データを作成。DAWで作品を制 作する。「音楽」にマッチした 「映像」、「映像」にマッチした 「音楽」を作る。ヴォーカルや他 の楽器等とのコラボレーションも 行い、個性的な音楽を制作する。 Webでの作品の公開。 音楽だけでなく幅広く「本物」の 芸術に触れる機会を多く持つ、コ ンサートの様子の映像をDVDとし て残す。	多くの曲を聞き 、ノリ、グル ープを感じる	多くの曲を聞き 、ノリ、グル ープについて 考える	13	オーケストレーション ポップスの音源からスコアをイメージす る	オーケストラに ついて予習	スコアリーデイ ングの復習		
	6	楽曲の構成の理解と実践 調性、和声、コード	多くの曲を聞き 、楽曲の構成 を書いてくる	ネット曲を聞き 、楽曲の構成 を書いてくる	14	公開実技試験シミュレーション(1) 機材の確認とセッティング図、レイア ウト図を制作する	さまざまな演奏 形態の共演を考 えておく	必要な機材のリ ストをまとめる		
	7	音響機器、楽器等に関心を持ち、最新 の情報を調べる	ネットで今の定 番、最新の機器 について調べ ておく	授業で使う機材 の特徴をネット で確認する	15	公開実技試験シミュレーション(2) 自己チェック、学生同士でチェックしあ う下級生にスタッフを依頼し適切な指示 を出させるようになる	スタッフを依頼 する下級生を決 めておく	運営を体験して みる		
	8	学内演奏会 自分でチェック、学生同士でチェック しあう	徹底的に聞き込 んでより良い音 楽を目指す	コンサートの企 画、運営を体験 する	備考 ※ミュージック&ビジュアルコース必修					
教科書・テキスト等	担当教員が配布、指示	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント					
参考書・参考資料等			平常点 (態度) 課題 / レポート 実技試験	10% 10% 80%	授業中の指示に対する正しい作業 課題を習得・練習 公開試験での演奏 スタッフとしての働き					

科 目 名	担 当 者	担 当 形 態	単 位 数	対 象 学 生	開 講 時 期	卒 業 要 件	教 職 課 程	保 育 士	音 楽 療 法	ディプロマポリシー
MCSMIN49 卒業研究（音楽教育）	岩山 恵美子	単 独	4 単 位	音楽学科 4 年 次	前期～後期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	音楽教育における教育研究の方法を修得する。									
授業の概要	各自が設定した音楽教育に関するテーマについて研究を行い、卒業論文としてまとめる									
授 業 計 画										
<p>〔概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽教育コースにおける卒業論文は「卒業研究」（必修4単位）として大学が課す卒業要件のひとつである。音楽教育コースにおいては、卒業論文によることなく上記単位の取得は認められない。 <p>〔提出期限及び提出先〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業論文提出期限は、2023年1月20日（金）午後4時15分とする。時間厳守のこと。 期限時刻を過ぎた場合は、理由の如何を問わず、一切受理しない。 必ず本人が本学教務課窓口に持参し、提出すること。 提出時には査読用に論文を5部提出すること。 <p>〔諸手続き〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒論提出にあたっては、以下の手続き申請を済ませなくてはならない。下記に照らし欠格事項のある者の卒業論文査読は行わない。 卒業論文仮題目届（別紙様式1）2022年 5月24日（火） 卒業論文正式題目届（別紙様式2）2022年10月14日（金） 卒業論文査読申請書（別紙様式3）2023年 1月20日（金）論文提出時 卒業論文発表会（2023年2月 補講期間第一日目に実施） 卒業論文口頭試問（卒業論文発表会の後で実施、日時は別途定める。） <p>〔内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽教育コースの卒業論文は、音楽教育に関する実践研究を旨とする。その基礎理論として教育学、音楽教育学、心理学、音楽史などの内容を含む。概ね以下のような内容が望ましい。 音楽教育の題材内容、指導課程、指導法、評価に関する実地研究（授業研究） 音楽教育の基礎理論に関する実証的研究（調査研究） 音楽教育の基礎理論に関する文献的研究（文献研究） <p>〔形式及び体裁〕</p> <ul style="list-style-type: none"> A4版縦、横書き、1ページ40文字×36行とする。 余白は上下2cmずつ、左右に2.5cmずつそれぞれ空けること。 見出しは10.5ポイントのMSゴシック、本文は10.5ポイントのMS明朝であること（邦文、欧文ともに） 必ずワープロソフトを用いて作成すること。 論文は以下の順で綴じること（左側をひもで綴じる） 黒表紙（表）（表紙には、研究主題、学籍番号、氏名を記載し、押印） 内表紙（研究主題、学籍番号、氏名、提出年月日を記載する） 論文要旨（論文全体の趣旨を簡潔に説明する） 目次 本論 注釈 引用・参考文献一覧 資料（使用した調査用紙、アンケート、学習カード、楽譜、教材原稿等の見本） 黒表紙（裏） 総ページ数、30ページ程度が一応の目安 					<p>〔記述上の注意〕</p> <p>《目次》</p> <ul style="list-style-type: none"> 各プロットおよび、それらが何ページ目から始まるか明記する。 <p>《本論》以下の流れを基本とする（分かりやすくするための変更は可）</p> <ul style="list-style-type: none"> はじめに：研究の動機などについて論述する。 研究主題について：何を明らかにするのかを明確にする。先行研究や社会的諸問題、教育界の動向などから、問題点を明らかにする（問題提起） 研究の構想：仮説を立てる。研究の基本的な考え方や方法について論述する。 研究の実際：問題点にせまった方法とその結果についてまとめる。研究授業を行った場合は、実践授業の内容や児童生徒の変容と実践で明らかになったこと。調査研究の場合は、調査の方法や手続き、分析結果など。文献研究の場合は、文献を読み解き、関係性や新たな視点を見いだすこと。 成果と課題：研究主題で掲げた問題提起や研究の構想で掲げた仮説がどのように検証されたのかを分析・考察し、その結果を読み解きながら、音楽教育についての新たな考えについて論述する。また、今後に残された課題について論じる。 図表・画像・楽譜は必要な分に留める 必要な図表は全て載せること。論旨に関係があるかどうかよく吟味すること 図表・画像・楽譜の下には必ずキャプション（説明）をつけること。 図表・画像・楽譜には通し番号をつけ、本文中で参照図表を指定する。（「～については表1を参照されたい」など） なお、表の場合は、表1、表2・・・のように、図と画像の場合は、図1、図2・・・のように、楽譜については、譜例1、譜例2・・・のように記す。 図表・画像・楽譜はデジタルデータによる書き込み・埋め込みとし、本文への貼り付けは認めない。 <p>〔引用・参考文献一覧〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 引用文献・論証の根拠となる文献は、公刊されたもののみとする。パンフレット、講演資料、商業誌、放送、報道、インターネット記事は本編において引用してはならない。 文献の表記について 著者、発表年、タイトル、掲載紙名、巻・号、掲載ページを明記すること 例：國安愛子 2005 情動と音楽 音楽之友社 74-78 文献の記載順序について 引用、参考箇所に関係なく、著者姓名のアルファベット順（邦人の場合は、表記は日本語で、順序はローマ字で）とする。同一著者に複数の文献がある場合は発表年順とする。 <p>〔その他〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 論文は査読後、1冊製本し、本学図書館に保管する。 <p><成績評価基準></p> <p>卒業論文の審査に当たっては、主査1名（音楽教育主任）、副査4名（うち、一人は教職課程担当）とする。</p> <p>評価は5名の評定平均。単位認定は、査読者の協議に基づき音楽教育主任が行う。</p>					
教科書・テキスト等	適宜、提示する	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント					
参考書・参考資料等			論文査読	40%	内容の充実、論旨の一貫性、データの扱い					
			口頭試問	40%	研究内容に関する詳細な質問への回答内容					
			研究への取り組み	20%	主体性、積極性、追求力					

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3MIN49 卒業研究(音楽療法)	村橋和子・竹下健太	単独	4単位	音楽学科 4年次	前期～後期	必修				CE F
授業のテーマ及び到達目標	音楽療法における学術的研究の方法を習得する。									
授業の概要	各個人が音楽療法に関する自分のテーマについて研究を行い、卒業論文としてまとめる。									
授 業 計 画										
<p>〔概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽療法コースにおける卒業論文は、「卒業研究」(必修4単位)として大学が課す卒業要件の一つである。音楽療法コースにおいては、卒業論文によることなく上記単位の取得は認められない。 <p>〔提出期限及び提出先〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒年度の卒業論文提出期限は、2023年1月20日(金)午後4時15分とする。時間厳守のこと。期限時刻を過ぎた場合は、理由の如何を問わず、一切受理しない。 必ず本人が本学教務課窓口を持参し、提出すること。 提出時には査読用に論文を5部提出すること。 <p>〔諸手続き〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 空論提出にあたっては、以下の手続き申請を済ませていなくてはならない。 <p>下記に照らし欠格事項のある者の卒業論文審査は行わない。□</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業論文仮題目届け(別紙様式1) 2022年5月24日(火) 卒業論文正式題目届(別紙様式2) 2022年10月14日(金) 卒業論文査読申請(別紙様式3) 2023年1月20日(金) <p>論文提出時</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業論文発表会(2022年2月 補講期間第一日目に実施する) 卒業論文口頭試問発表(卒業論文発表会の後で行う。日時は別途定める) <p>〔内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽療法コースの卒業論文は、音楽療法に関する学術的研究を旨とし、その基礎科学として周辺諸科学(医療・福祉・心理学・教育学・社会学・音楽学など)の内容を含む。概ね以下の様な方法・内容が望ましい。 音楽療法の実践法に関する実地研究、対象者・治療プロセスに関する研究(臨床研究) 音楽療法の基礎理論に関する実証的研究(調査・実験研究) 音楽療法の歴史および基礎理論に関する文献学的研究(文献研究) <p>〔形式及び体裁〕</p> <ul style="list-style-type: none"> A4版(縦使い横書き)で、1ページは40字×30行。余白は上・下に2cmずつ、左・右に2.5cmずつそれぞれ空けること。 図タイトル・見出しは、10.5pointのMSゴシック体、本文は10.5pointのMS明朝体であること(邦文・欧文とも)。 必ずワープロソフトを用いて作成すること。手書きは認めない。 罫表紙、左側をひも綴じする。 論文は以下の順序で綴じる。 罫表紙(表)(表紙には、タイトル(副題)、学籍番号、氏名を記載し、押印する) 見返し(白紙1枚) 罫表紙(表紙には、タイトル(副題)、学籍番号、氏名、提出年月日を記載) 論文要旨(3~4ページ:論文全体の趣旨を簡潔に説明する。) 目次 巻編 注釈 引用・参考文献一覧 附録(使用した質問紙・調査紙・アンケート・教示原稿等の見本を綴じ込む) 罫表紙(背) 総ページ数50ページ以上が一応の目安(短ければ十分な論述はできない。長すぎるのは冗長となる) □だ・である」調に統一すること。 					<p>〔目次〕</p> <p>各章、各節のタイトルおよび、それらが何ページ目から始まるのか明示する。</p> <p>〔本編〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 巻編は章、節、項からなる。 巻の序数はローマ数字を用いる。(例:第I章、第II章・・・) 節の序数は算用数字を用いる。(例:1. 問題提起・・・) 項の序数は括弧付きの算用数字を用いる。(例:(1)手続き・・・) 巻中の論文箇所を特定したい場合は、上記の序数規則に従い表記する。(例:第I章・第2節・第3項を示す場合は、I-2-(3)の様に表記する) 巻編は以下の流れを基本とする(分かりやすくするための変更は可)。 序章:「はじめに」に相当する部分。研究動機などについて論述する。 第I章:何を明らかにするのかを明確にし、先行研究から未解明の問題点を明らかにする(問題提起)。仮説を立てる。 第II章:「実証」に相当する部分。前章で指摘した問題点を、解明した方法とその結果についてまとめる。臨床研究の場合は臨床実践とそこから明らかになったこと。調査、実験研究の場合は調査の方法や手続き、分析結果など。文献研究の場合は文献を読み解き、関係性や新たな視点を見出すこと。 第III章:「考察」に相当する部分。第I章で掲げた問題提起や仮説がどのように実証、立証されたのかを考察し、その結果を読み解きながら、音楽療法についての新たな知見、理論を展開する。 結語:研究を振り返り、まとめを行う。また今後に残された課題について論じる。 謝辞:必要な場合は記載する。特に研究に協力してくれた人たちに對する感謝の気持ちを記す。 図表・画像は必要な分にとどめる。 必要図表は全て載っていないといけない。論旨に関係のない図表は載せてはならない。 図表、画像は全て白黒で掲載すること。ただし特に色彩見本などを必要とする場合はその限りではない。 図表、画像には通し番号を付け、本文中で参照図表を指定すること(「?については表1を参照されたい」など)。なお、通し番号は、表の場合、表1、表2・・・の様に記し、図と画像の場合には図1、図2・・・の様に記す。 図表、画像はデジタルデータによる書き込み・埋め込みとし、本文への糊付けは認めない。 <p>〔引用・参考文献〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 引用文献・論証の根拠となる文献は、公刊されたもののみとする。パンフレット、公演資料、商業誌、放送、報道、インターネット記事は、「本編」において引用の対象・論拠としてはならない。 文献の表記について 著者、発表年、タイトル、掲載誌名、巻・号、掲載ページを明記すること。邦文、欧文の表記方法は以下の通りとする。 邦文の場合 柏木恵子 1986 自己制御の発達 心理学評論, 29, 3-24 安田三郎・海野道郎 1977社会統計学 改訂2版 丸善 欧文の場合 Paivio, A. 1968 A factor-analytic study of word attributes and verbal learning. Journal of Verbal Learning and Verbal Behavior, 7(1), 41-49 文献掲載例は日本心理学会編「心理学研究・執筆・投稿の手引き」1991年改訂版を参照した。 文献の掲載順序について 引用・参考箇所に関係なく、著者姓名のアルファベット順(邦人の場合、表記は日本語で、順序はローマ字で)。同一著者に複数の文献がある場合は発表年順。 <p>〔その他〕</p> <p>論文は査読後、1部製本し、本学図書館に保管する。</p>					
教科書・テキスト等	特になし	成績評価基準	論文査読	40%	内容の充実、論旨の一貫性、明確な記述等					
			口頭試問	40%	研究内容に関する詳細な質問への回答など					
			研究への取り組み	20%	主体性、積極性、追求性など					
参考書・参考資料等										